

IV. 調査結果の分析

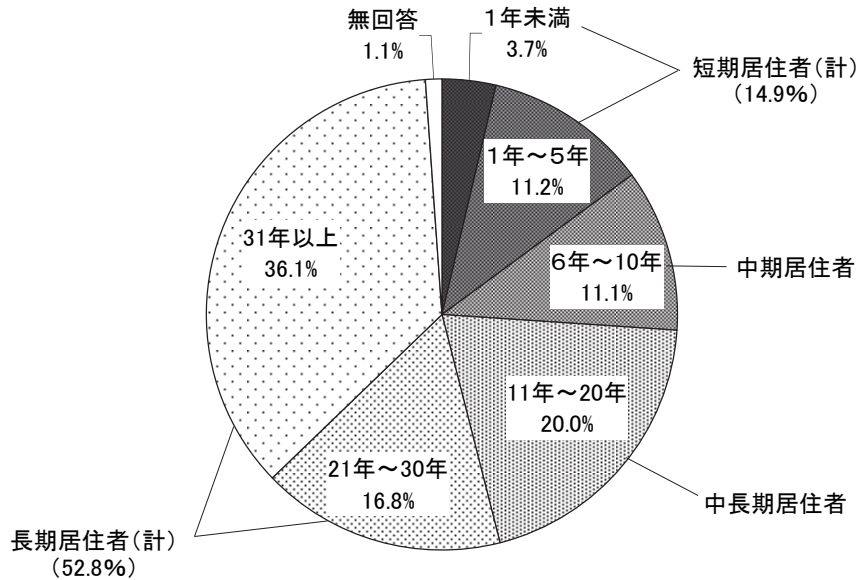
1 区の施策および評価について

(1) 居住年数

◇『長期居住者』が5割を超える

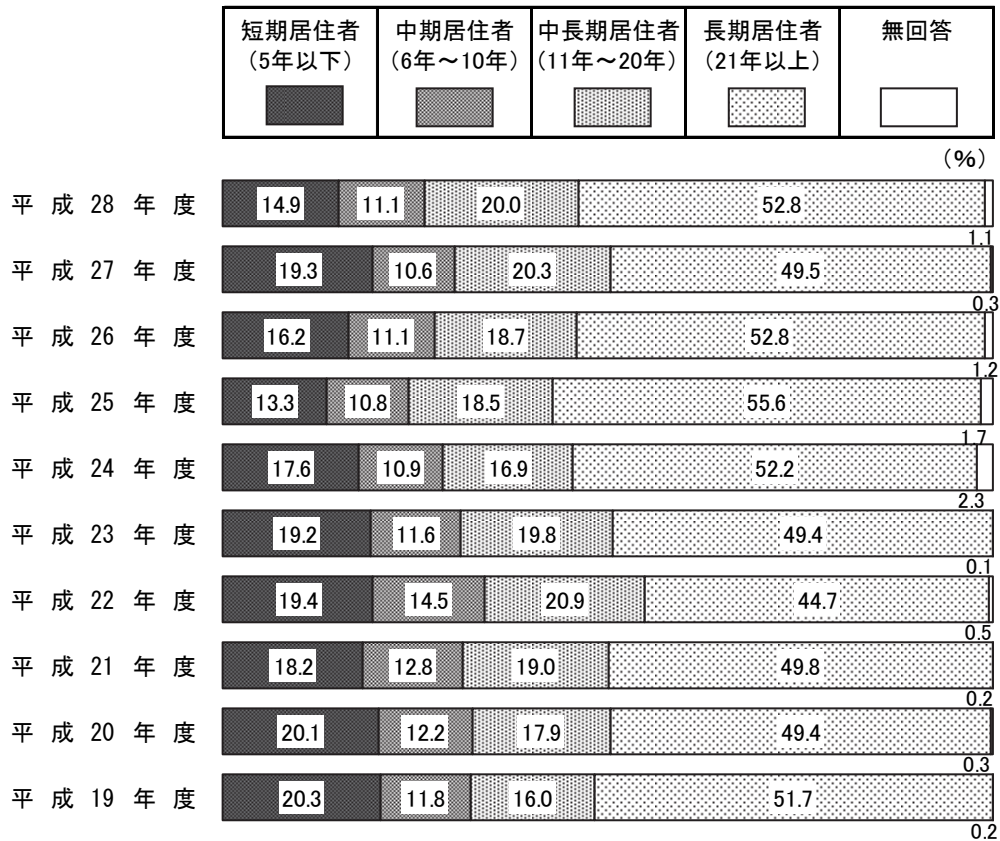
問1 あなたは、練馬区にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ)

図1-1-1 居住年数



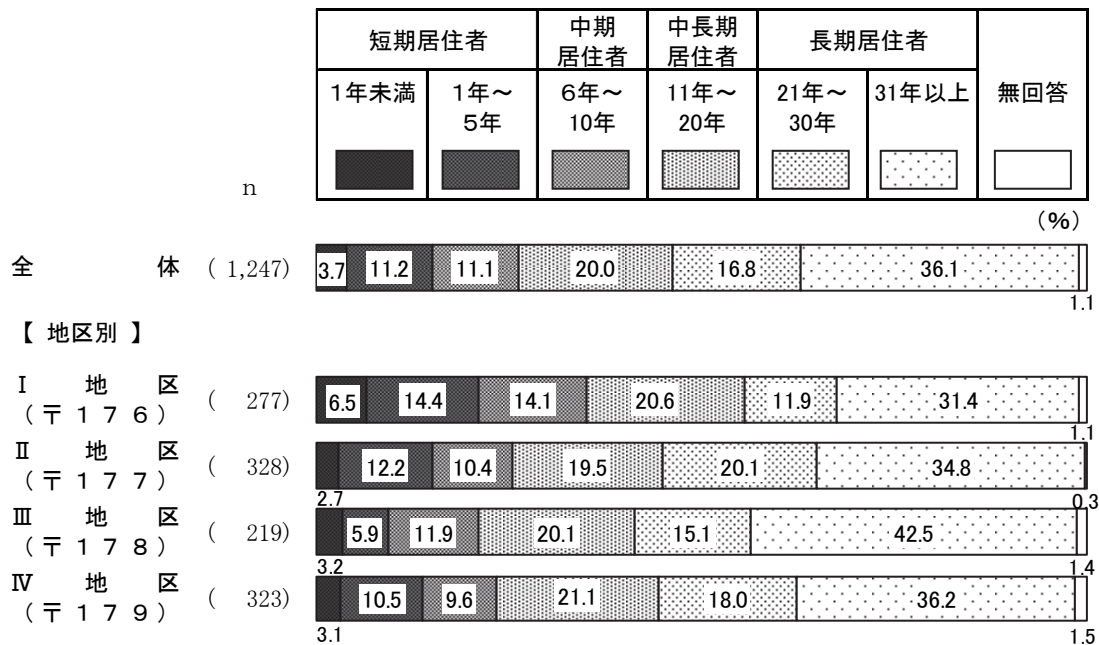
練馬区に住んで何年になるか聞いたところ、「31年以上」(36.1%)と「21年～30年」(16.8%)を合わせた『長期居住者』(52.8%)が5割を超えている。また、「11年～20年」の『中長期居住者』(20.0%)が2割、「6年～10年」の『中期居住者』(11.1%)が1割を超え、「1年～5年」(11.2%)と「1年未満」(3.7%)を合わせた『短期居住者』(14.9%)が1割台半ばとなっている。(図1-1-1)

図 1-1-2 居住年数一過年度比較



過去の調査と比較すると、『長期居住者（21年以上）』は前回調査（平成27年度）から3.3ポイント増加し、過去9年と同様最も多くなっている。（図1-1-2）

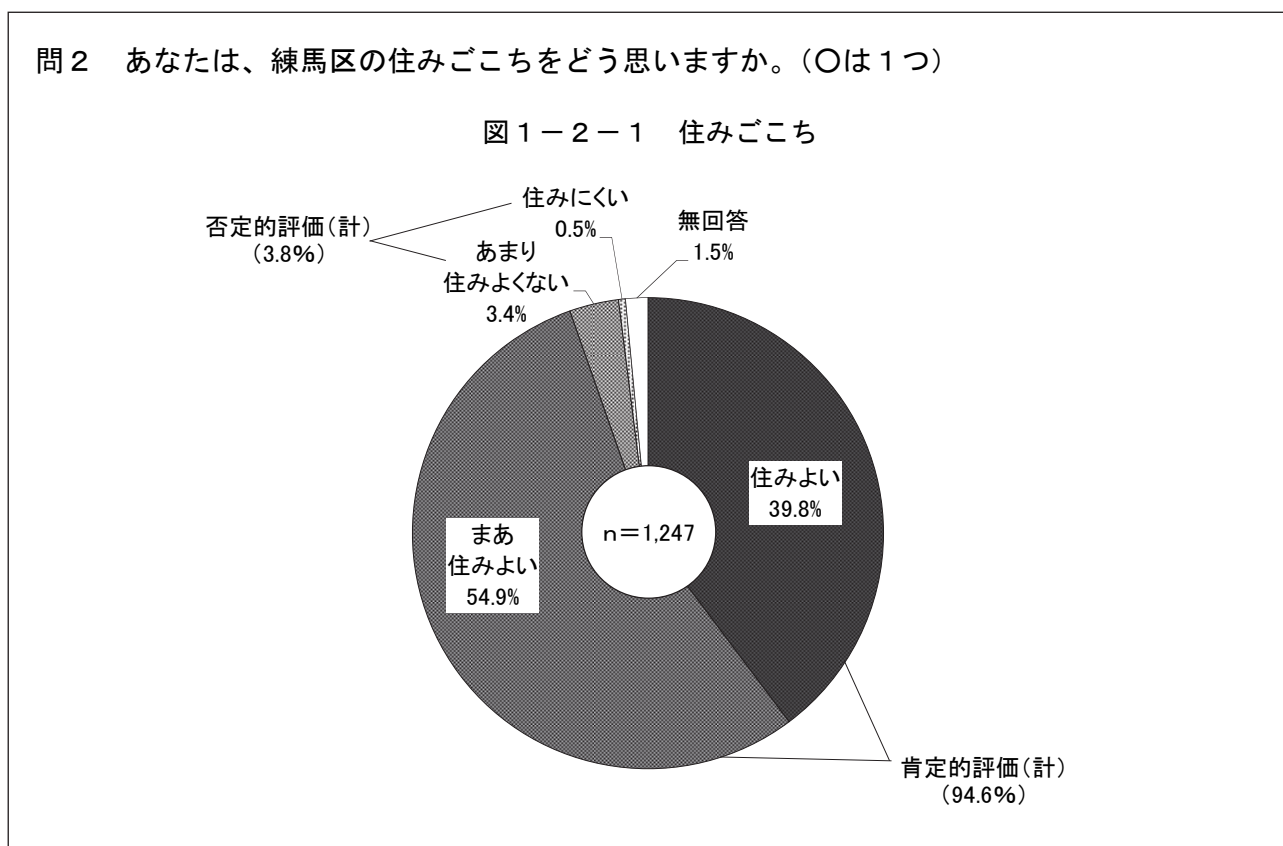
図 1-1-3 居住年数一地区別



地区別にみると、『長期居住者（21年以上）』はⅢ地区（〒178）で6割近くと最も多くなっている。『短期居住者（5年未満）』はⅠ地区（〒176）で約2割と多くなっている。（図1-1-3）

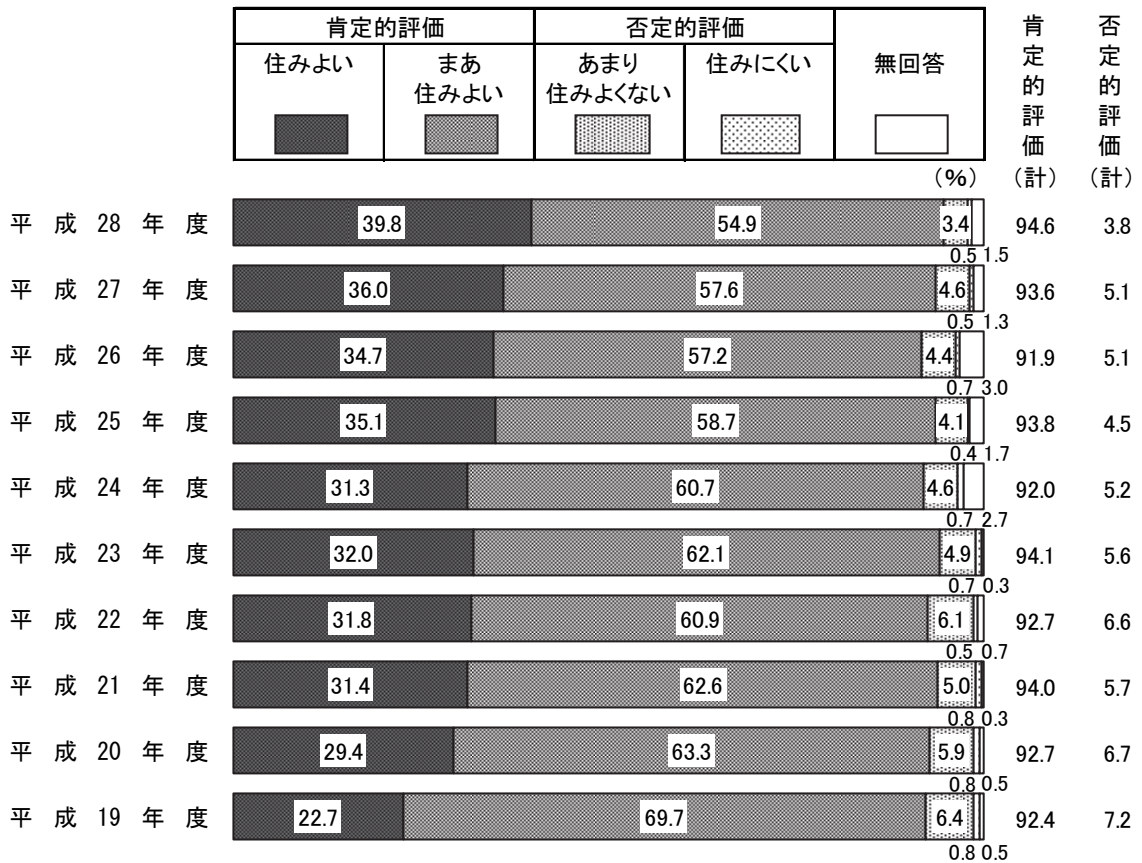
(2) 住みごこち

◇『肯定的評価』が9割台半ば



練馬区の住みごこちを聞いたところ、「住みよい」(39.8%)が約4割、「まあ住みよい」(54.9%)が5割台半ばで、この2つを合わせた『肯定的評価』(94.6%)が9割台半ばを占めている。一方、「あまり住みよくない」(3.4%)と「住みにくい」(0.5%)を合わせた『否定的評価』(3.8%)は1割に満たない。(図1-2-1)

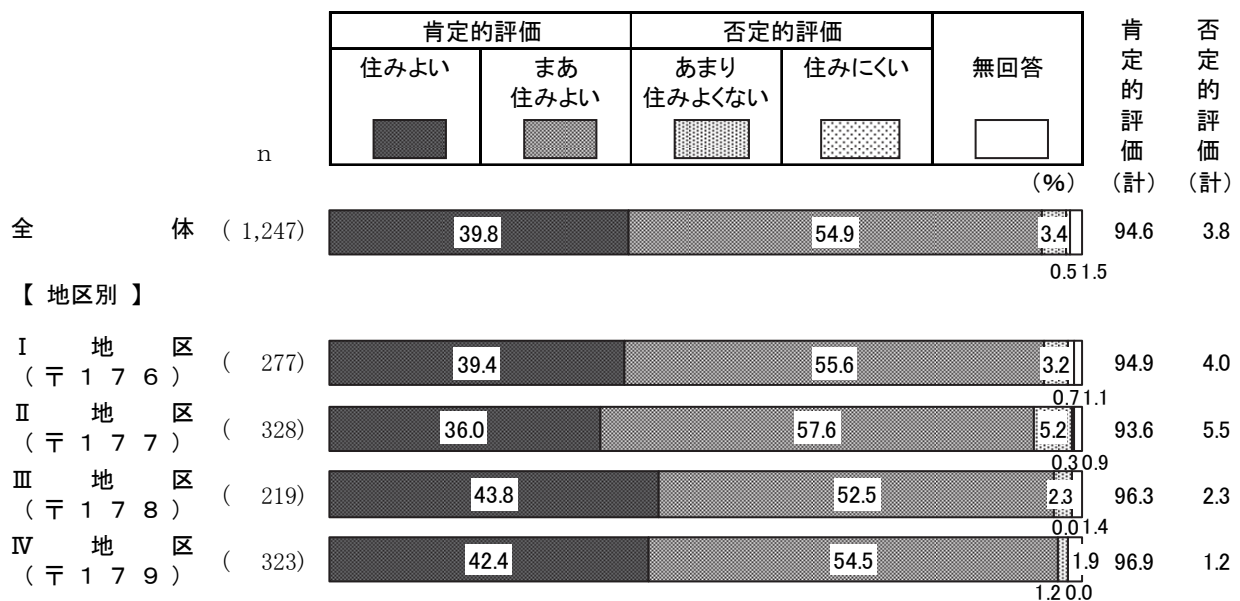
図 1-2-2 住みごち一過年度比較



過去の調査と比較すると、『肯定的評価』は平成19年度以降いずれも9割台となっている。

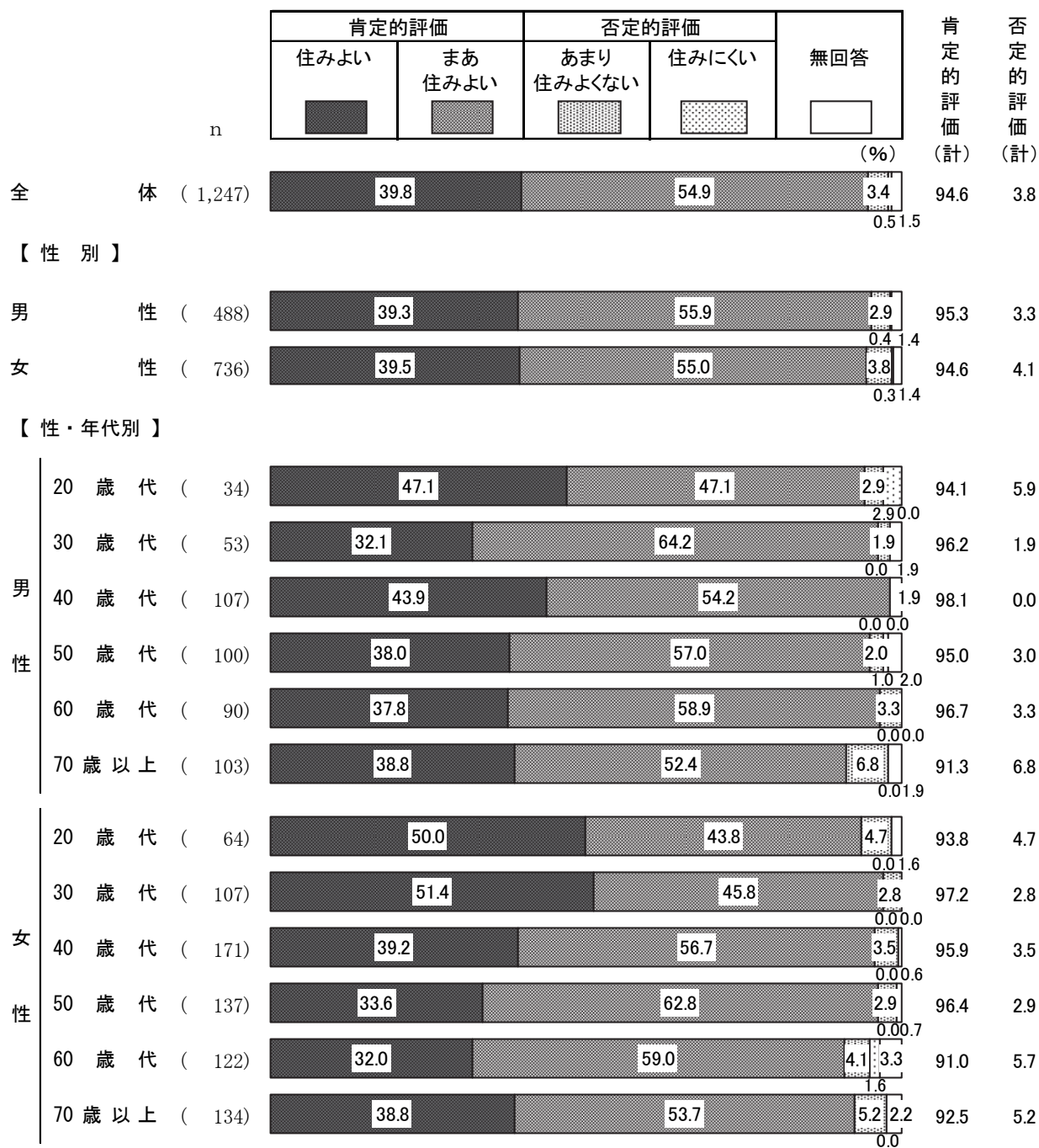
(図 1-2-2)

図 1-2-3 住みごち一地区別



地区別にみると、『肯定的評価』はすべての地区で9割台となっている。(図 1-2-3)

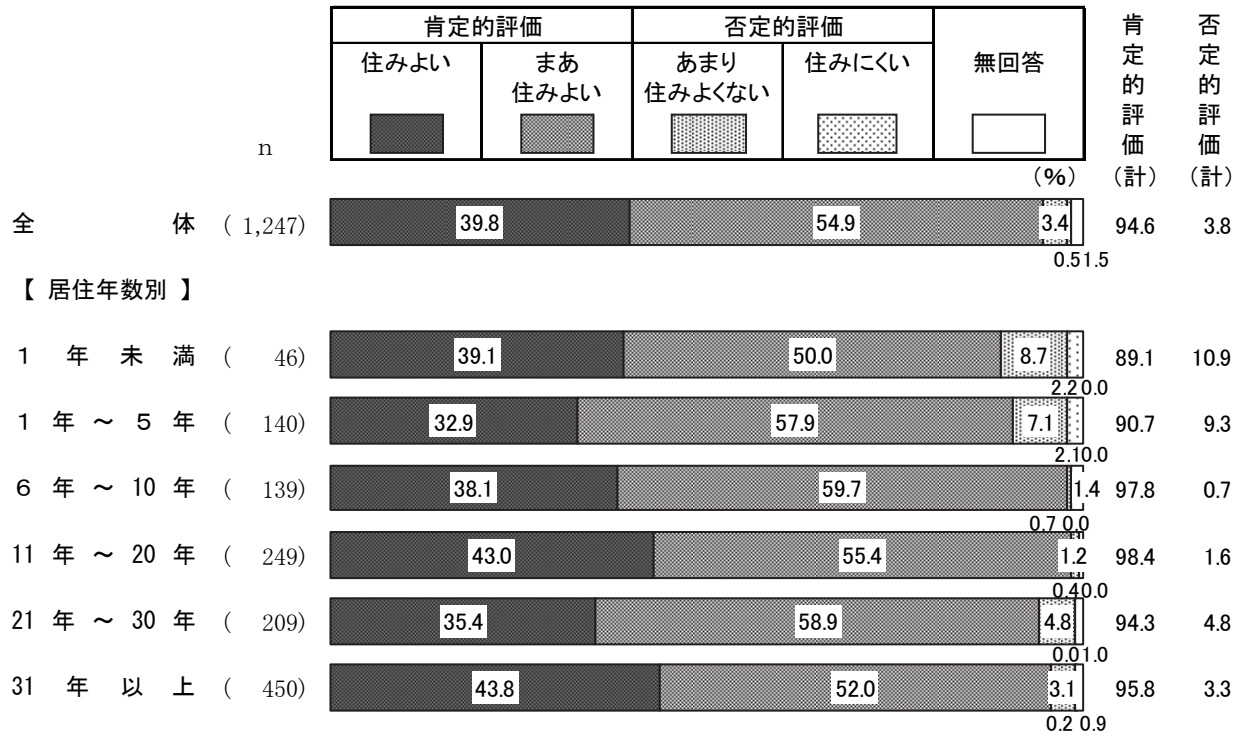
図1-2-4 住みごこち—性別、性・年代別



性別にみると、男女ともに『肯定的評価』は9割台半ばとなっている。

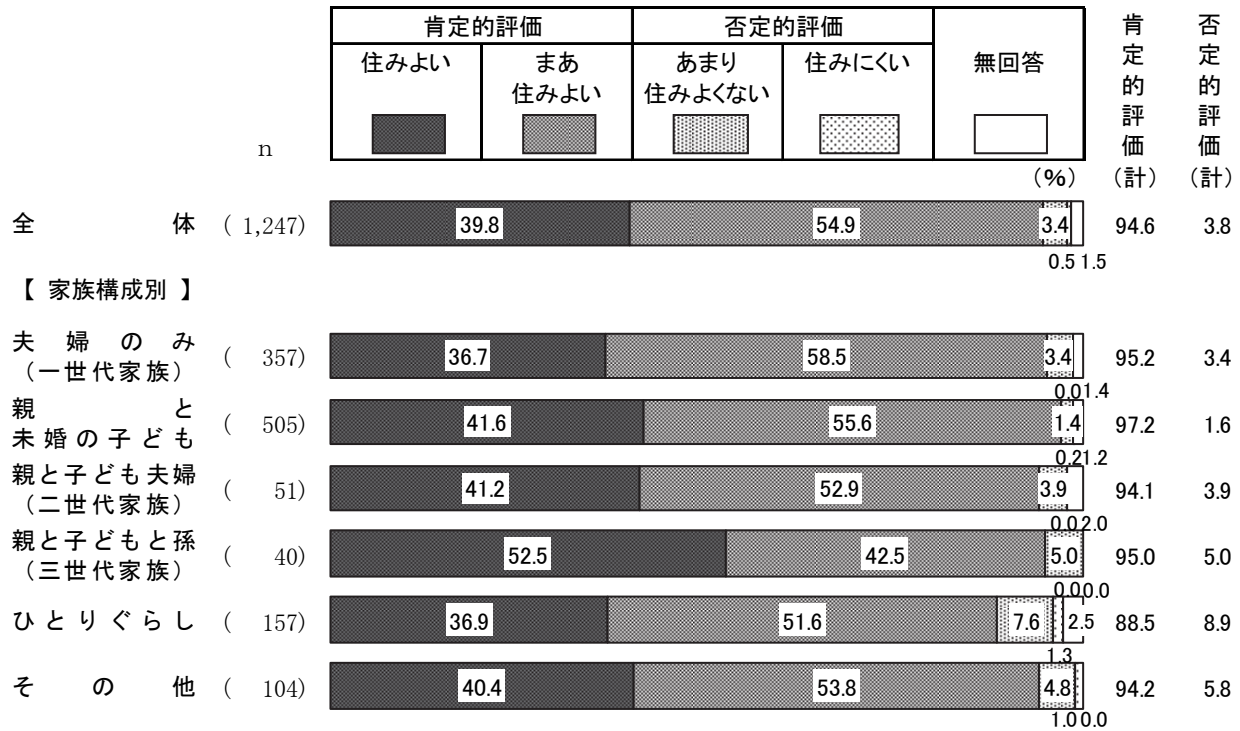
性・年代別にみると、「住みよい」は女性30歳代で5割を超え多くなっている。『肯定的評価』はすべての性・年代で9割台となっている。(図1-2-4)

図1-2-5 住みごこち—居住年数別



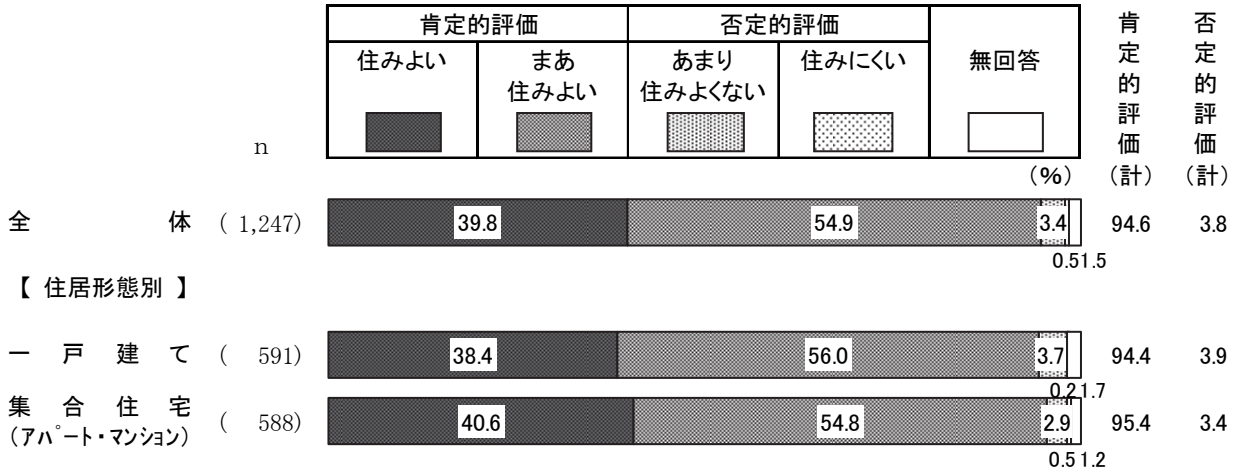
居住年数別にみると、『肯定的評価』は1年未満で8割台後半となっているほかは、いずれも9割台となっている。(図1-2-5)

図1-2-6 住みごこち—家族構成別



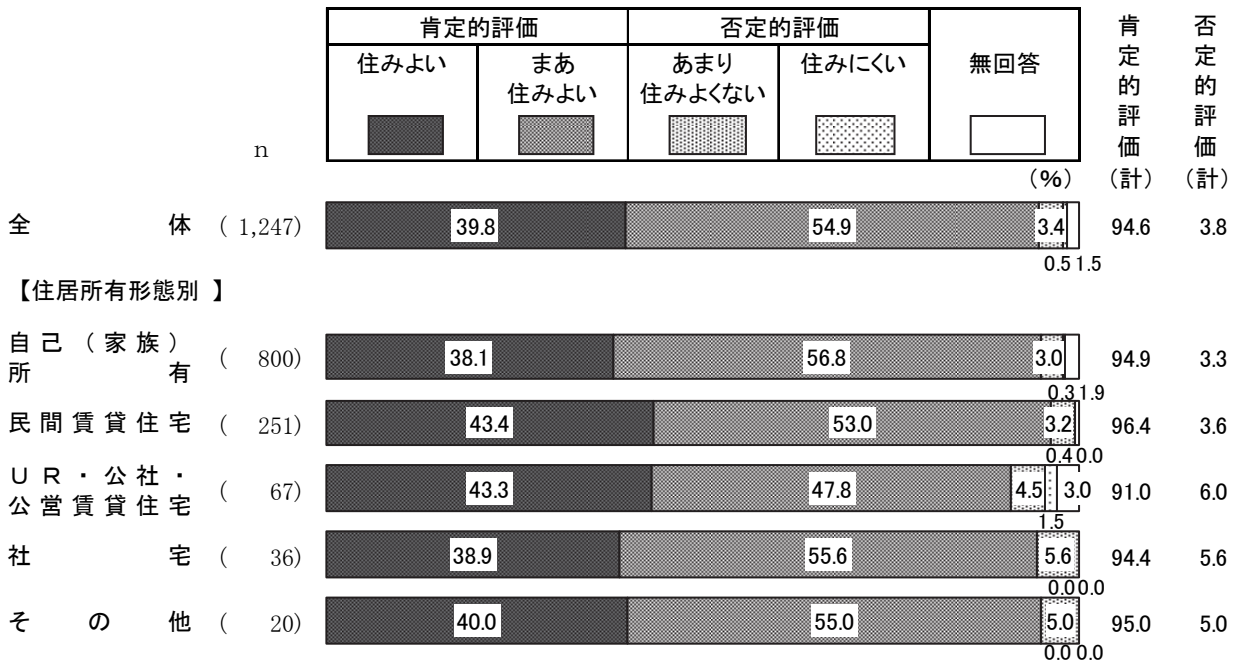
家族構成別にみると、『肯定的評価』はひとりぐらしで8割台後半となっているほかは、いずれも9割台となっている。(図1-2-6)

図1-2-7 住みごこち—住居形態別



住居形態別にみると、「住みよい」は集合住宅（アパート・マンション）の方が2.2ポイント高く、約4割となっている。（図1-2-7）

図1-2-8 住みごこち—住居所有形態別



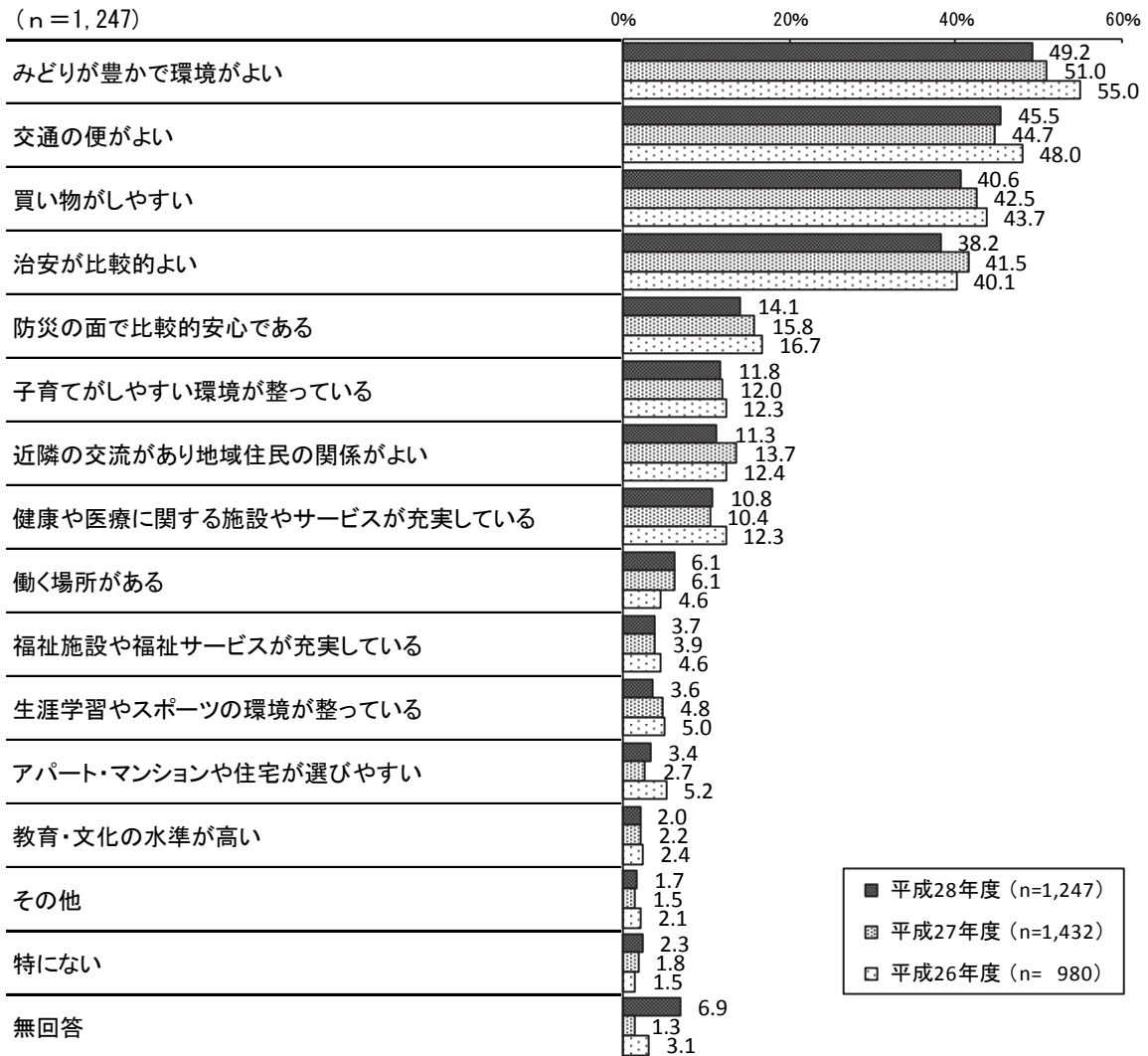
住居所有形態別にみると、『肯定的評価』はいずれも9割台となっている。（図1-2-8）

(3) 練馬区が住みよいと感じるところ

◇「みどりが豊かで環境がよい」が約5割

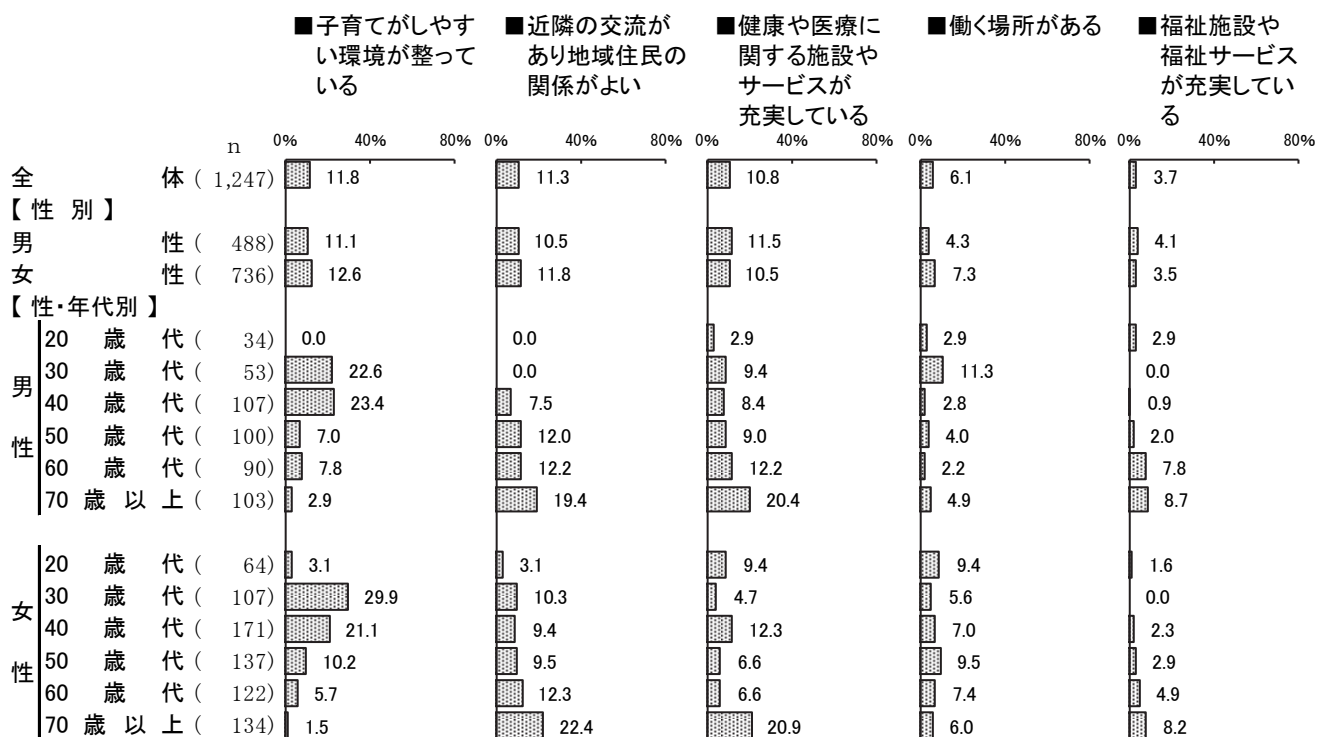
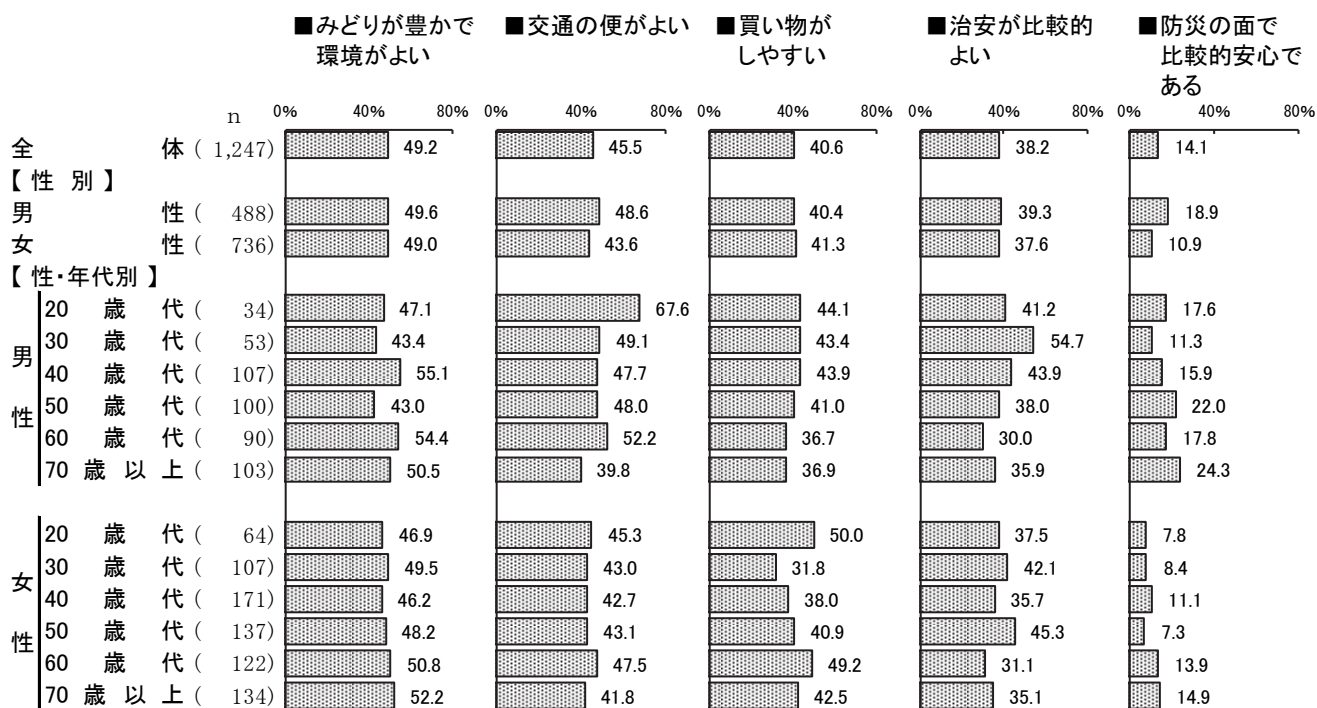
問3 あなたが、練馬区が住みよいと感じるところは、どんなところですか。次の中から住みよいと感じることを選んでください。(〇は3つまで)

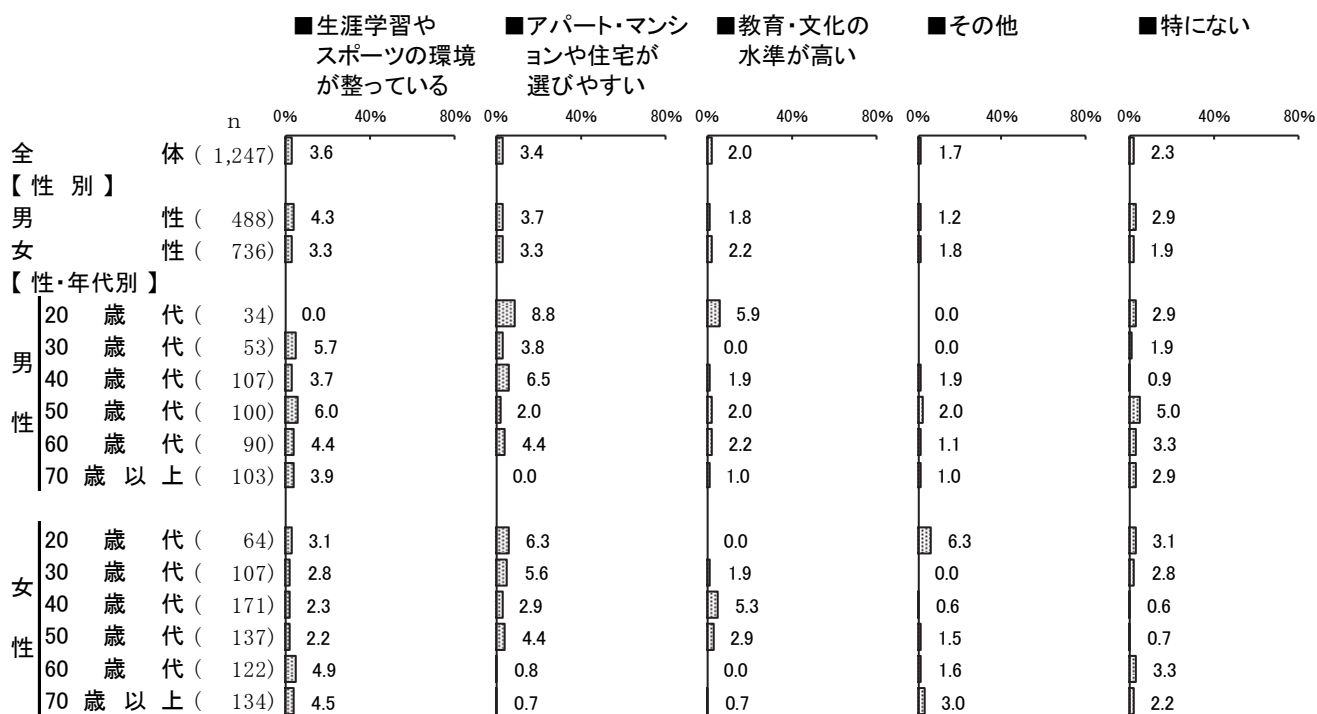
図1-3-1 練馬区が住みよいと感じるところ



練馬区が住みよいと感じるところを聞いたところ、「みどりが豊かで環境がよい」(49.2%)が約5割で最も多く、次いで「交通の便がよい」(45.5%)、「買い物がしやすい」(40.6%)、「治安が比較的よい」(38.2%)、「防災の面で比較的安心である」(14.1%)などの順になっている。(図1-3-1)

図 1-3-2 練馬区が住みよいと感じるところ—性別、性・年代別

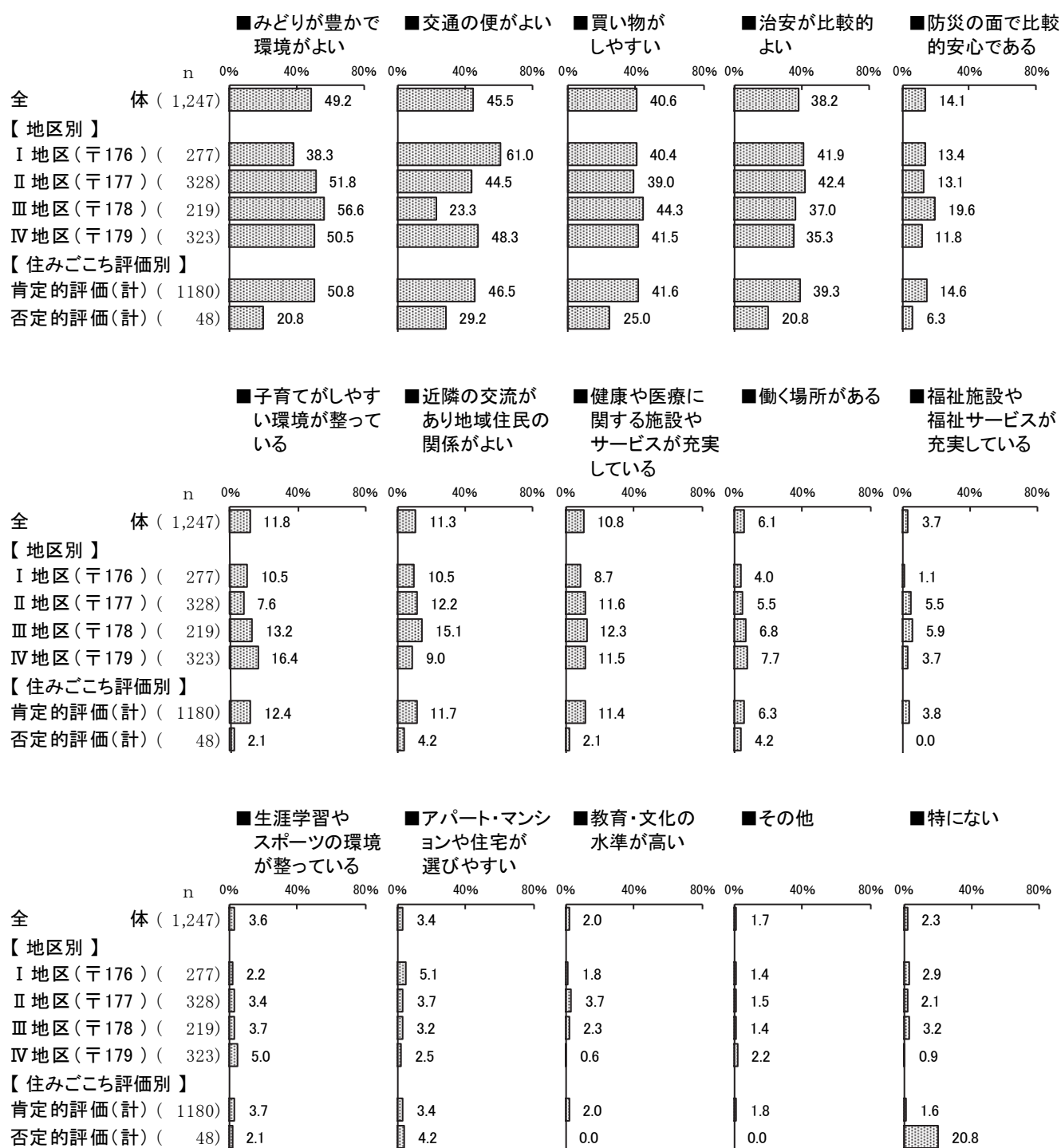




性別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」は男女ともに約5割と高くなっている。また「防災の面で比較的安心である」は男性の方が8.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」は男性40歳代・60歳代で5割台半ばと多くなっている。「交通の便がよい」は男性20歳代で7割近く、「治安が比較的よい」は男性30歳代で5割台半ばと多くなっている。(図1-3-2)

図1-3-3 練馬区が住みよいと感じるところ—地区別、住みごち評価別



地区別にみると、「みどりが豊かで環境がよい」はⅢ地区（〒178）で5割台半ばと多くなっている。「交通の便がよい」はⅠ地区（〒176）で6割を超えて多くなっている。

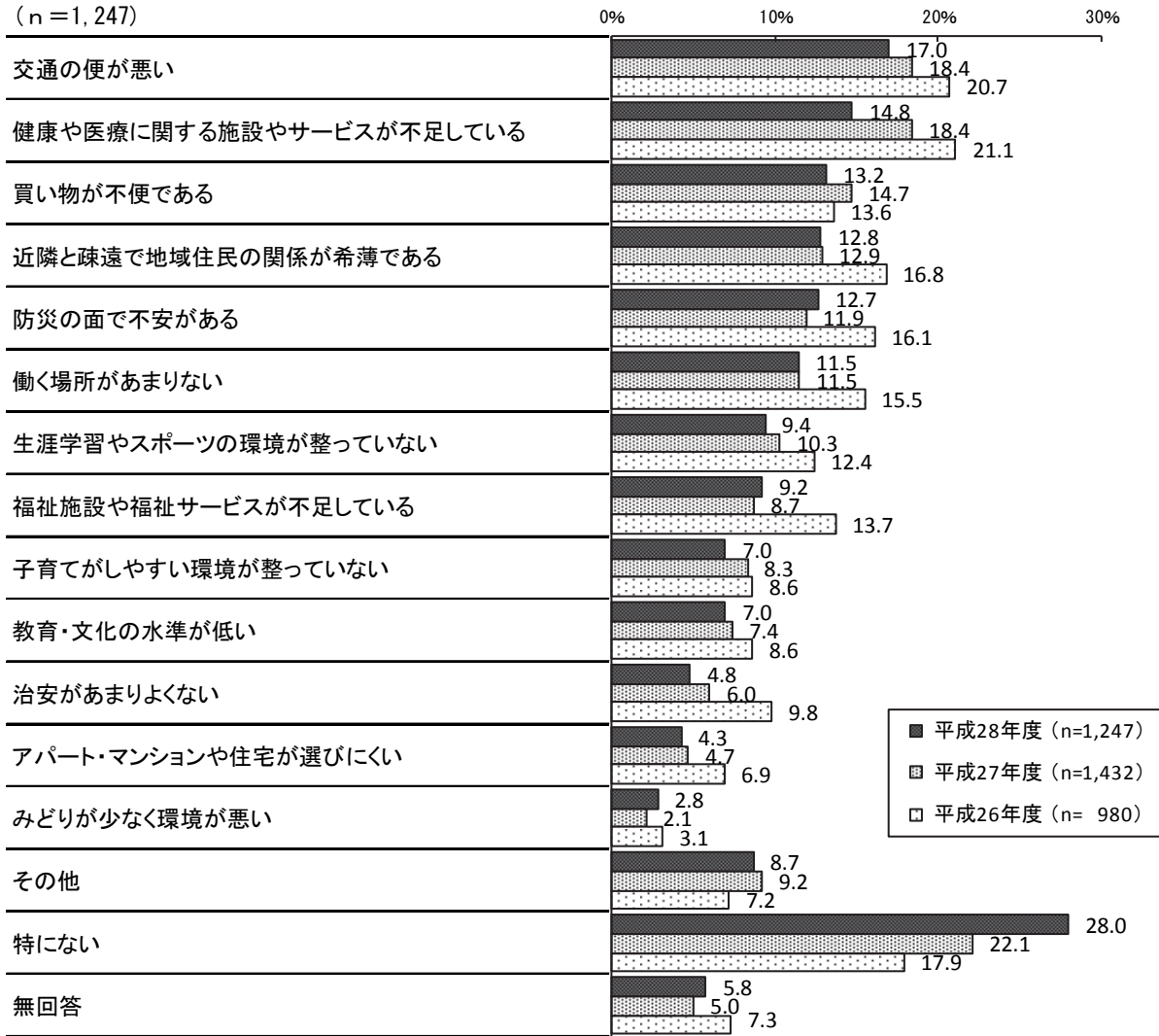
住みごち評価別にみると、『肯定的評価』の方が、「みどりが豊かで環境がよい」で30.0ポイント、「治安が比較的よい」で18.5ポイント、「交通の便がよい」で17.3ポイント、「買いものがしやすい」で16.6ポイントなど、ほぼすべての項目で高くなっている。（図1-3-3）

(4) 練馬区が住みにくいと感じるところ

◇「交通の便が悪い」が2割近く

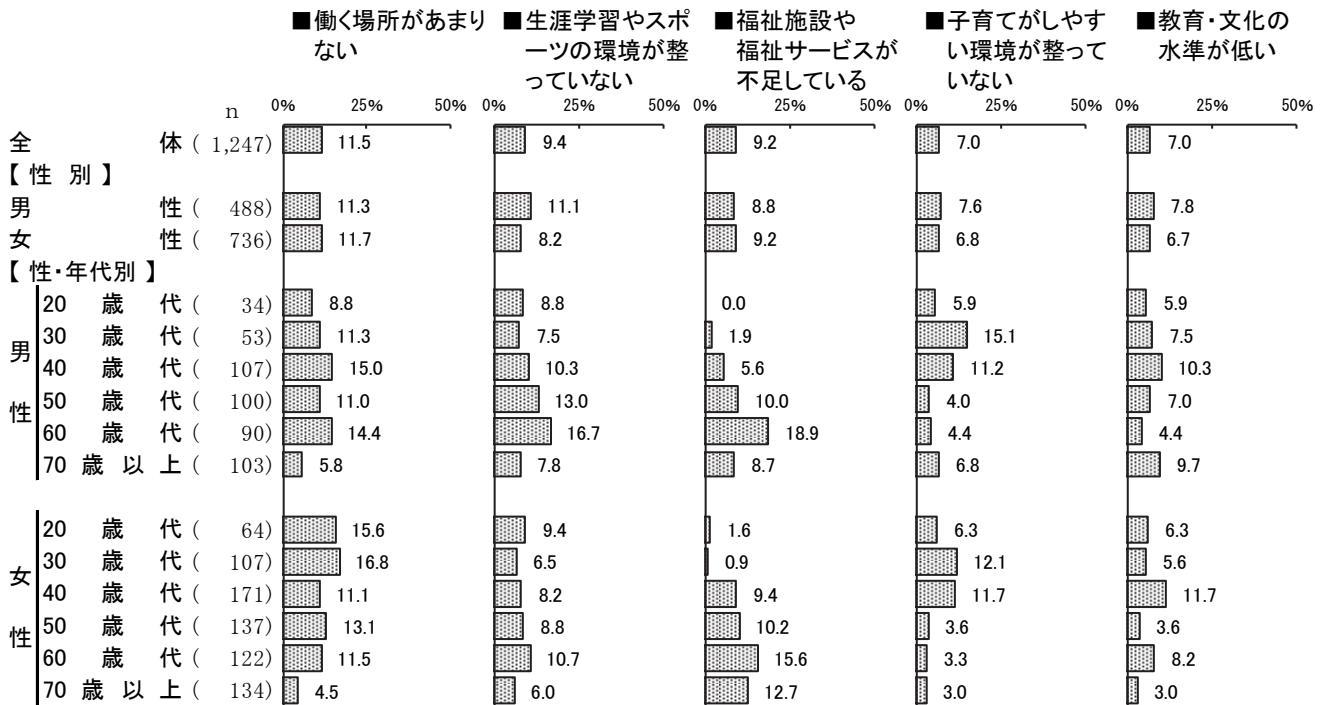
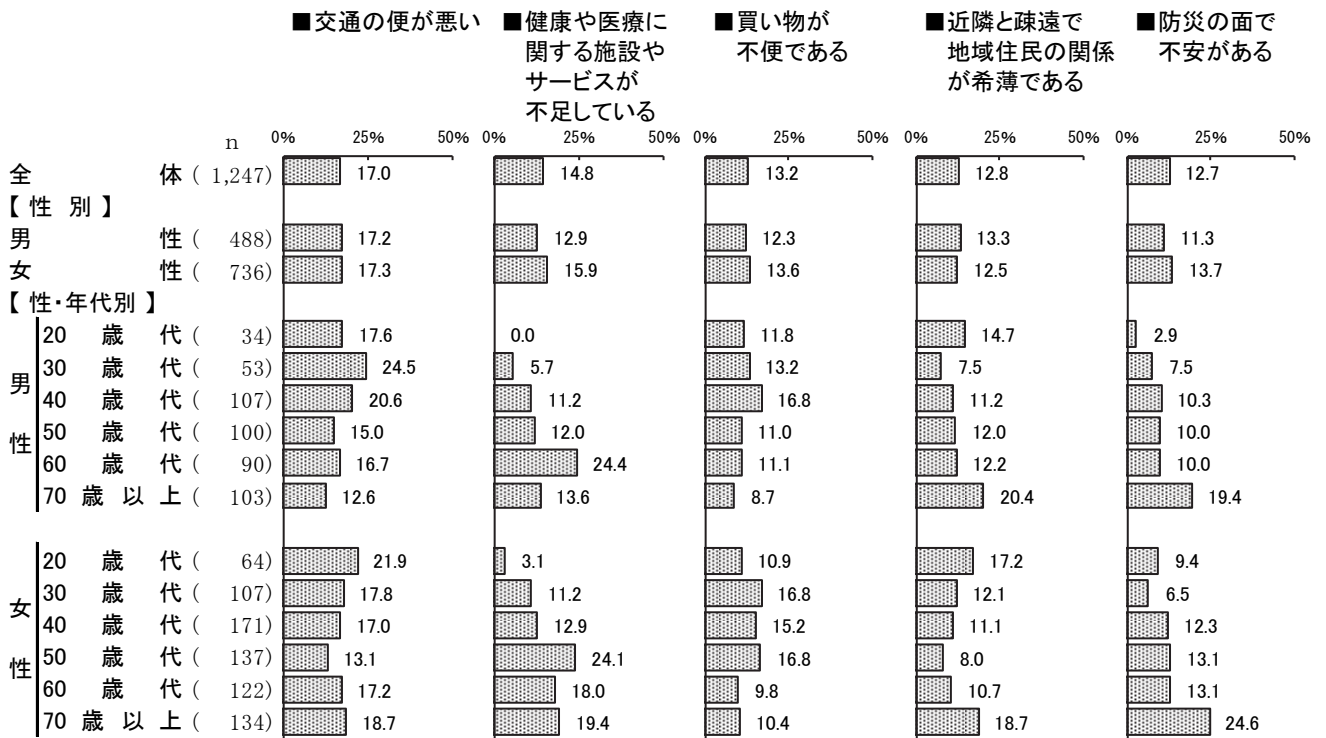
問4 では反対に、あなたが、練馬区が住みにくいと感じるところは、どんなところですか。次の中から住みにくいと感じることを選んでください。(〇は3つまで)

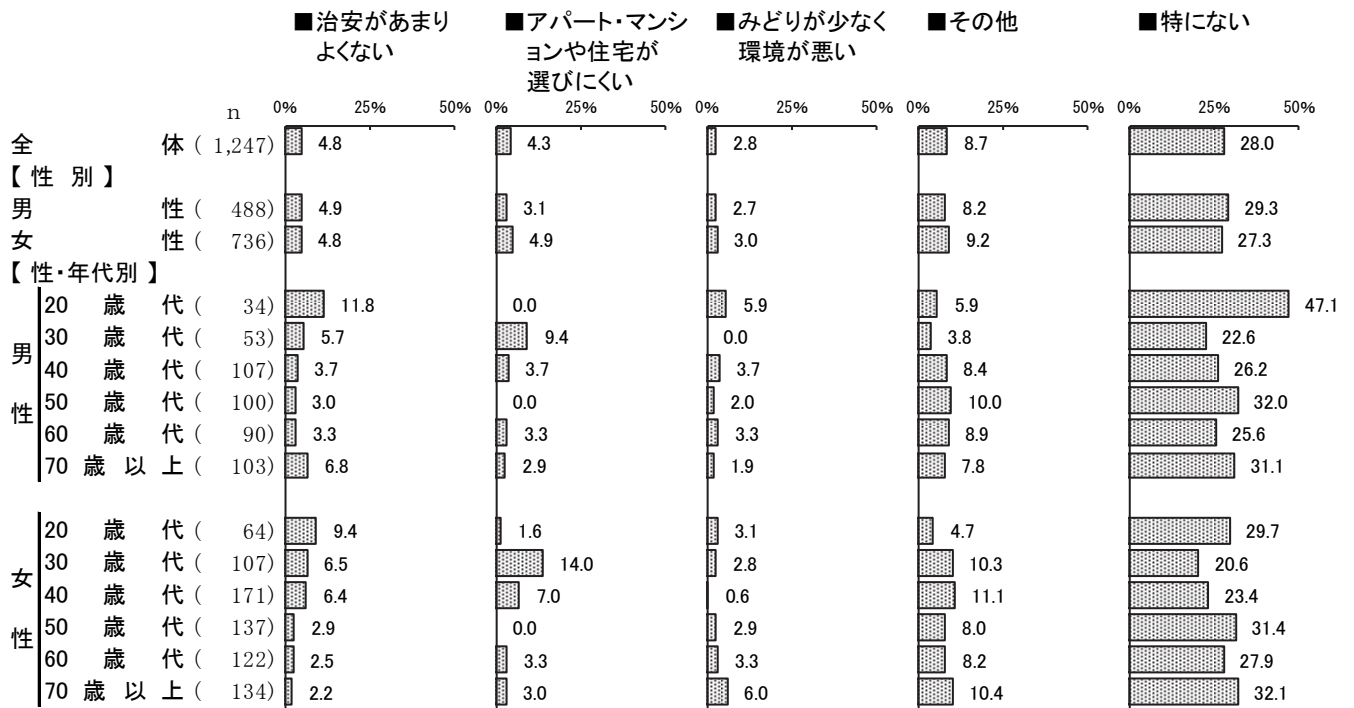
図1-4-1 練馬区が住みにくいと感じるところ



練馬区が住みにくいと感じるところを聞いたところ、「交通の便が悪い」(17.0%)が2割近くで最も多く、次いで「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」(14.8%)、「買い物が不便である」(13.2%)、「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」(12.8%)、「防災の面で不安がある」(12.7%)、「働く場所があまりない」(11.5%)などの順になっている。一方、「特にない」(28.0%)は3割近くで2年連続増加している。(図1-4-1)

図 1-4-2 練馬区が住みにくいと感じるところ—性別、性・年代別

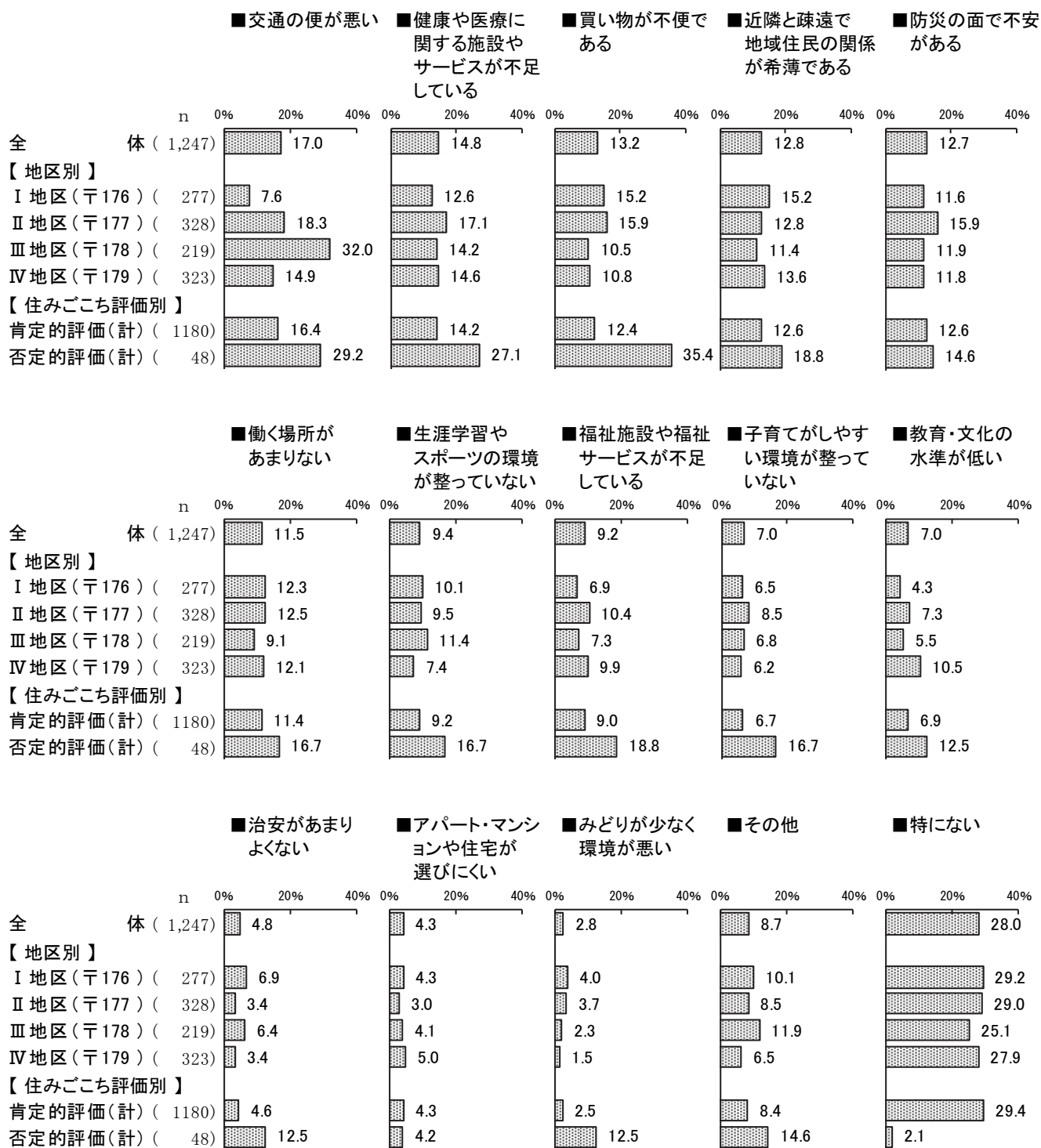




性別にみると、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」は女性の方が3.0ポイント高く、「生涯学習やスポーツの環境が整っていない」は男性の方が2.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「交通の便が悪い」は男性30歳代で、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」は男性60歳代で、「防災の面で不安がある」は女性70歳以上で、いずれも2割半ばと多くなっている。一方、「特にない」はすべての性・年代で2割以上となっており、男性20歳代（47.1%）では5割近くと最も多くなっている（図1-4-2）

図1-4-3 練馬区が住みにくいと感ずるところ—地区別、住みごころ評価別



地区別にみると、「交通の便が悪い」はIII地区（〒178）で3割を超え多くなっている。「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」「買い物が不便である」「近隣と疎遠で地域住民の関係が希薄である」「防災面で不安である」は、すべての地区で1割台となっている。

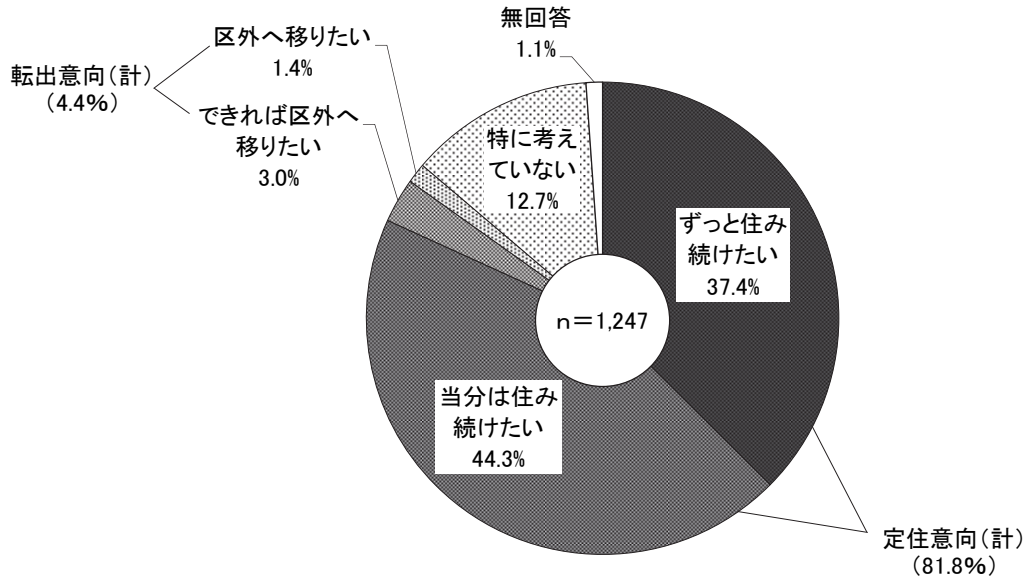
住みごころ評価別にみると、『否定的評価』の方が「買いものが不便である」で23.0ポイント、「健康や医療に関する施設やサービスが不足している」で12.9ポイント、「交通の便が悪い」で12.8ポイントなど高くなっている。（図1-4-3）

(5) 定住意向

◇『定住意向』が8割を超える

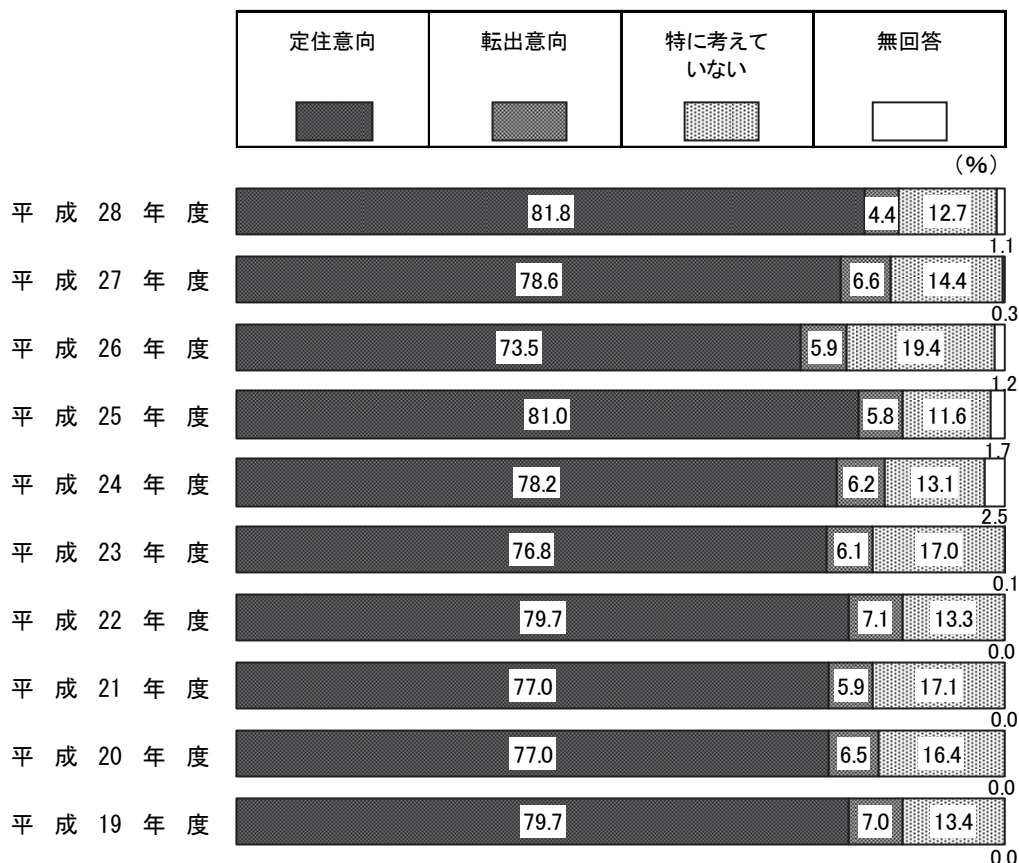
問5 あなたは、これからも引き続き練馬区に住みたいと思いますか。(○は1つ)

図1-5-1 定住意向



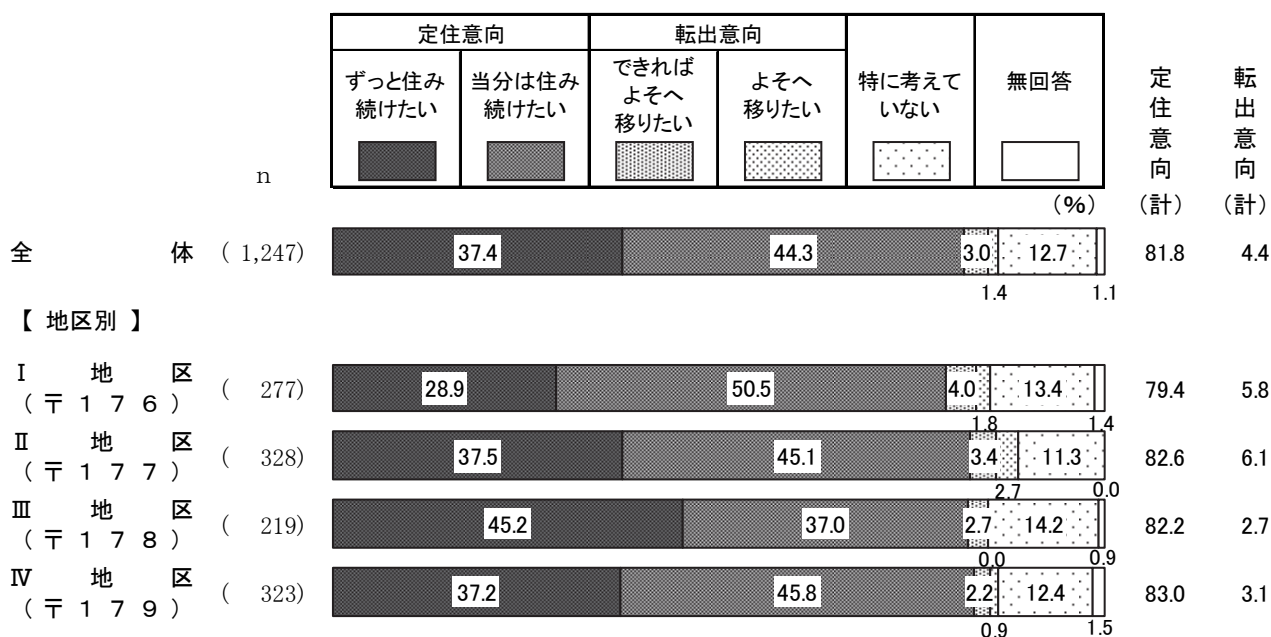
これからも引き続き練馬区に住みたいと思うか聞いたところ、「ずっと住み続けたい」(37.4%)と「当分は住み続けたい」(44.3%)を合わせた『定住意向』(81.8%)が8割を超えている。一方、「できれば区外へ移りたい」(3.0%)と「区外へ移りたい」(1.4%)を合わせた『転出意向』(4.4%)は1割に満たない。(図1-5-1)

図 1-5-2 定住意向一過年度比較



過去の調査と比較すると、『定住意向』は前回調査（平成27年度）より3.2ポイント増加し、平成25年度以来3年ぶりに8割を超えている。また平成19年度以降7割以上を占めている。（図1-5-2）

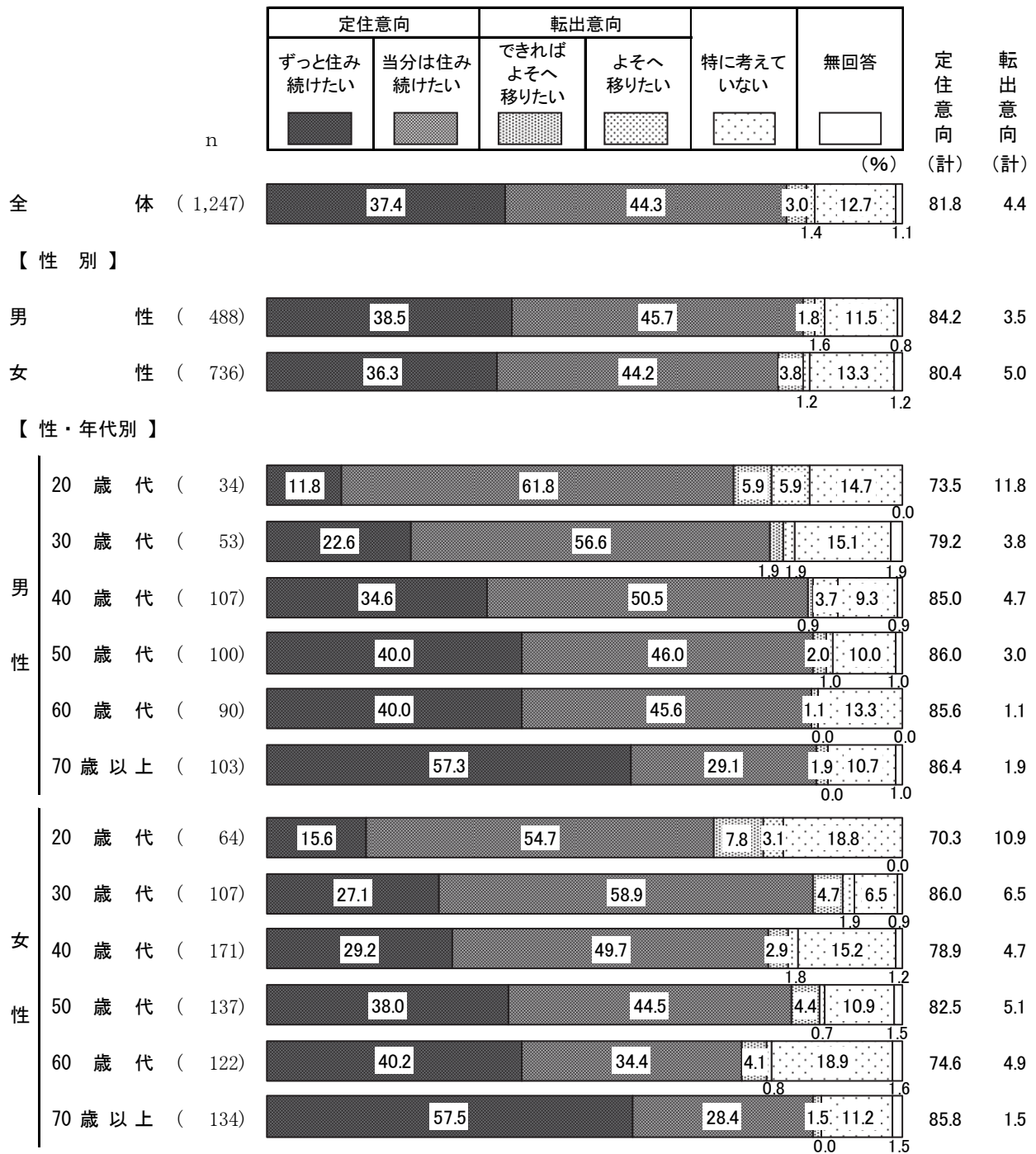
図 1-5-3 定住意向一地区別



地区別にみると、「ずっと住み続けたい」はIII地区（〒178）で4割台半ばと多くなっている。

（図1-5-3）

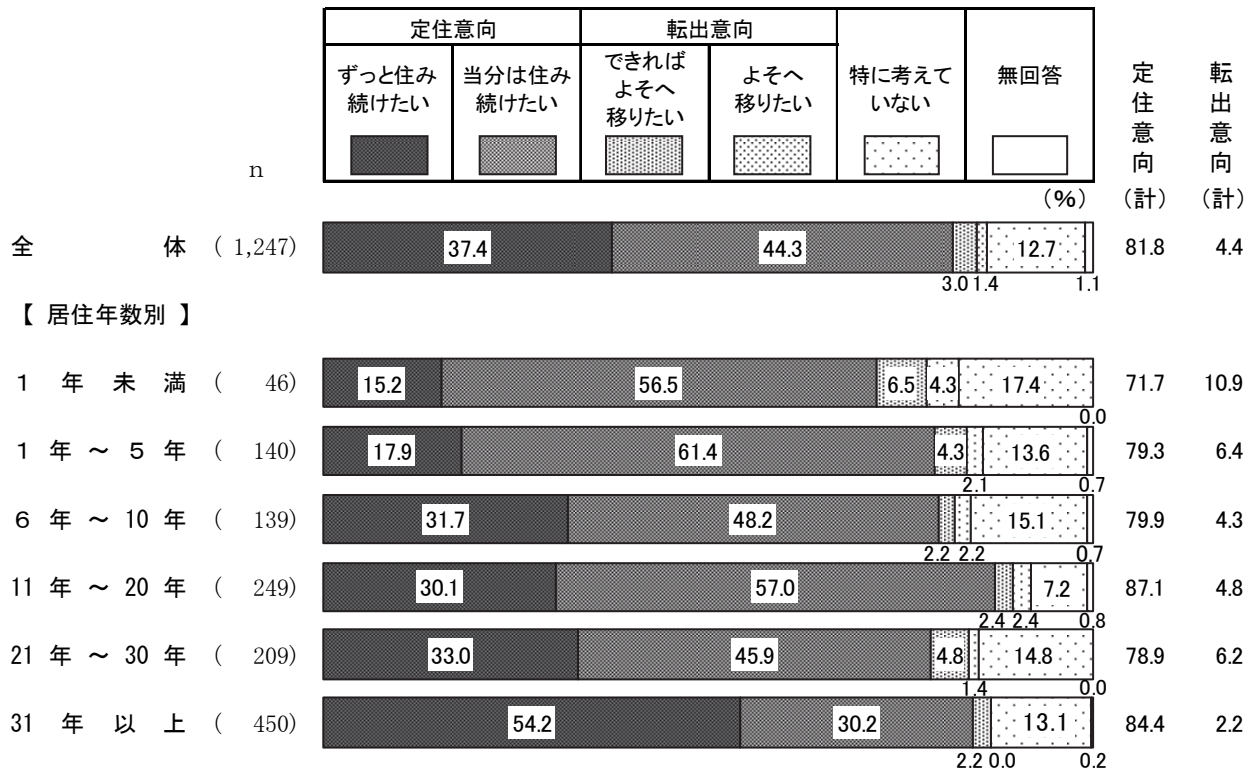
図1-5-4 定住意向—性別、性・年代別



性別にみると、『定住意向』は男性の方が3.8ポイント高く、8割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、「ずっと住み続けたい」は女性70歳以上と男性70歳以上で6割近くと多くなっている。(図1-5-4)

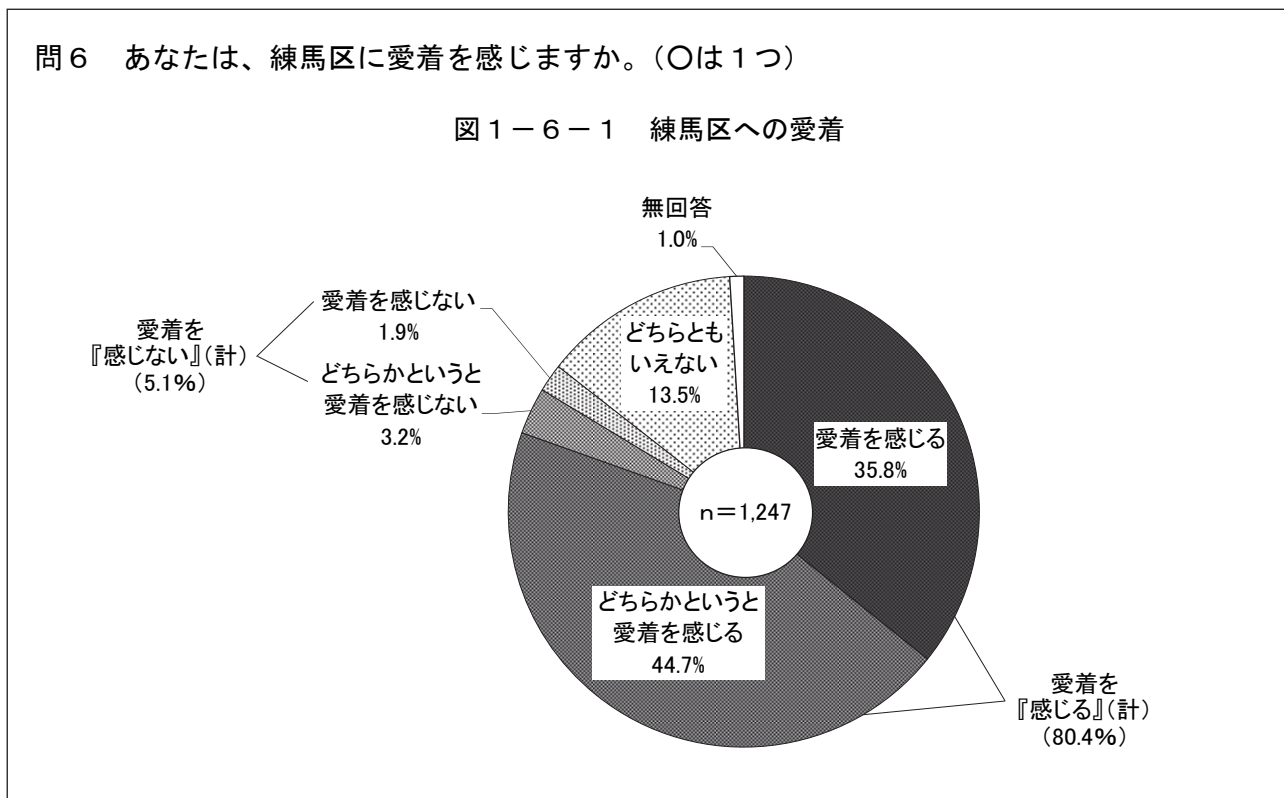
図 1-5-5 定住意向-居住年数別



居住年数別にみると、「ずっと住み続けたい」は居住年数が長くなるほど割合が高くなる傾向があり、31年以上居住している人で5割台半ばと多くなっている。『定住意向』は11年～20年で9割近くと多くなっている。(図1-5-5)

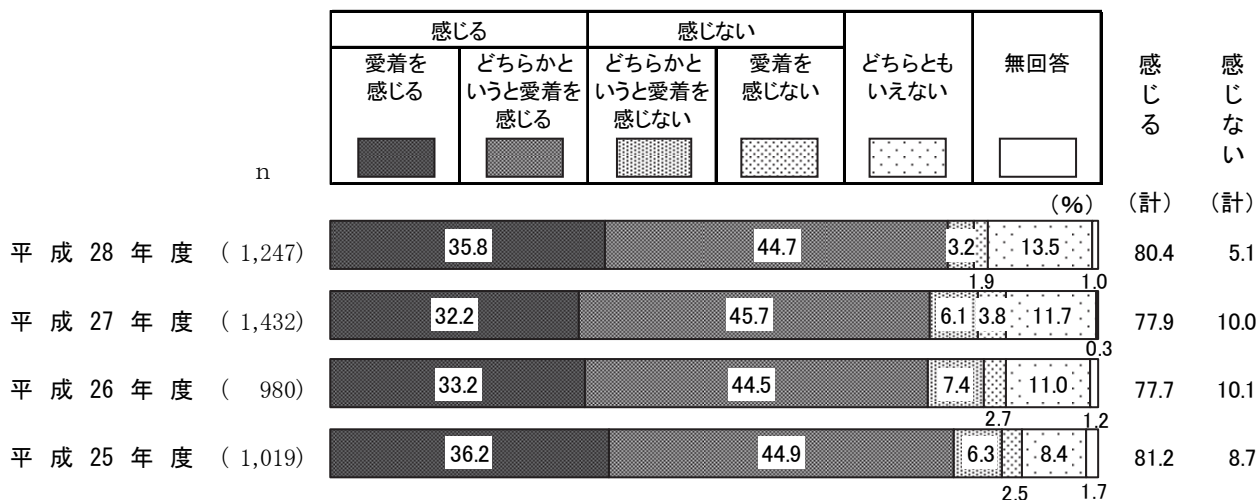
(6) 練馬区への愛着

◇愛着を『感じる』が約8割



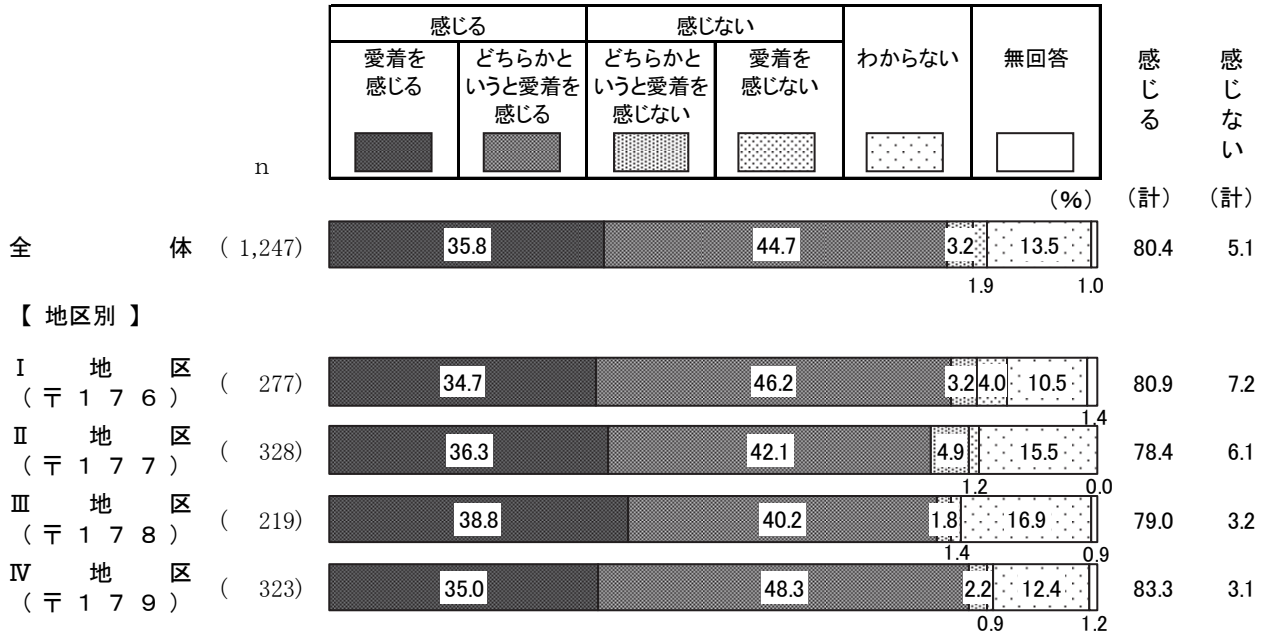
練馬区に愛着を感じるか聞いたところ、「愛着を感じる」(35.8%)と「どちらかという愛着を感じる」(44.7%)を合わせた、愛着を『感じる』(80.4%)が約8割となっている。一方、「どちらかという愛着を感じない」(3.2%)と「愛着を感じない」(1.9%)を合わせた、愛着を『感じない』(5.1%)は1割に満たない。(図1-6-1)

図1-6-2 練馬区への愛着一過年度比較



過去の調査と比較すると、愛着を『感じる』は前回調査(平成27年度)から2.5ポイント増加している。一方、愛着を『感じない』は4.9ポイント減少している。(図1-6-2)

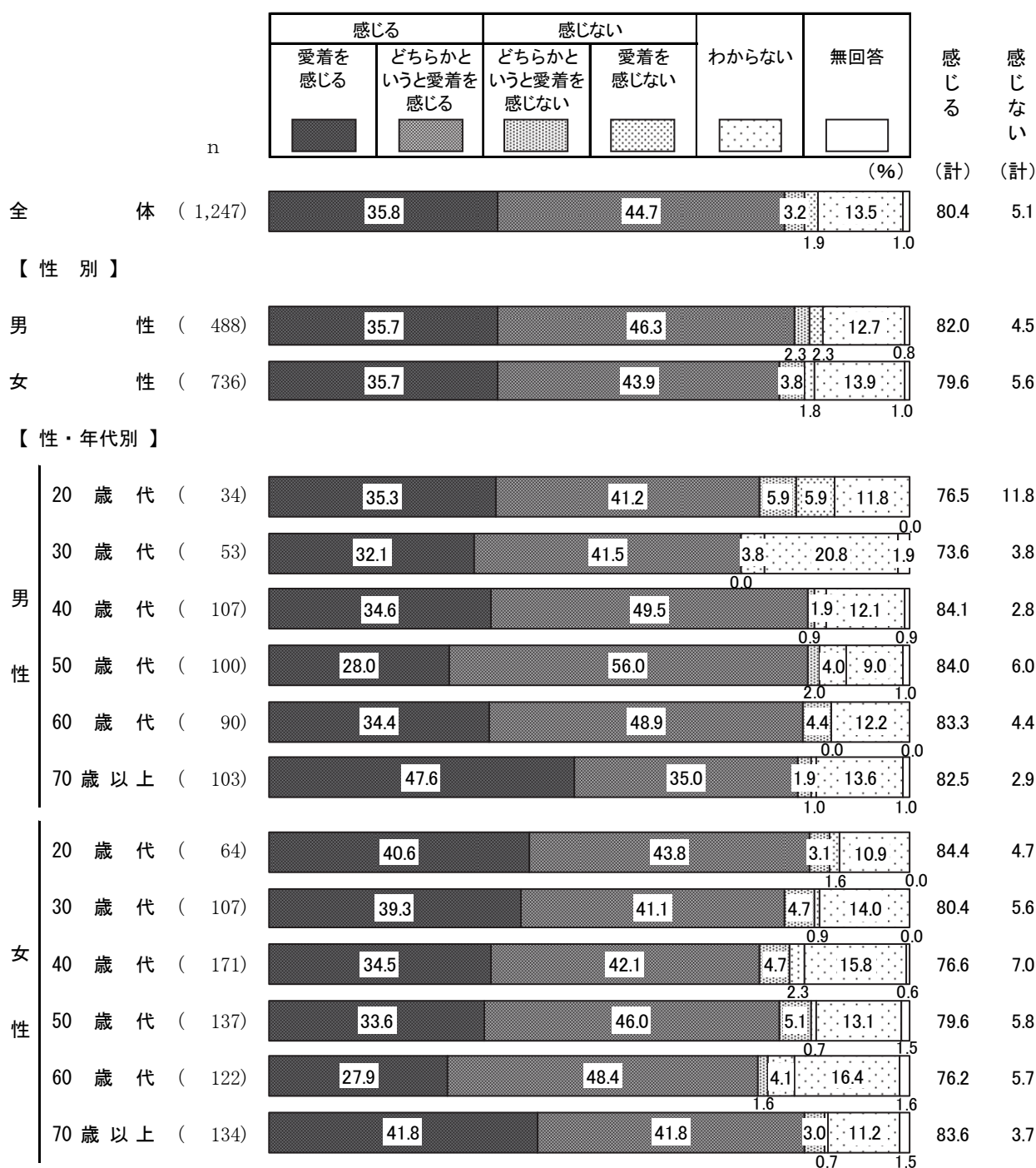
図 1-6-3 練馬区への愛着—地区別



地区別にみると、愛着を『感じる』はIV地区（〒179）とI地区（〒176）で8割台と多くなっている。

（図 1-6-3）

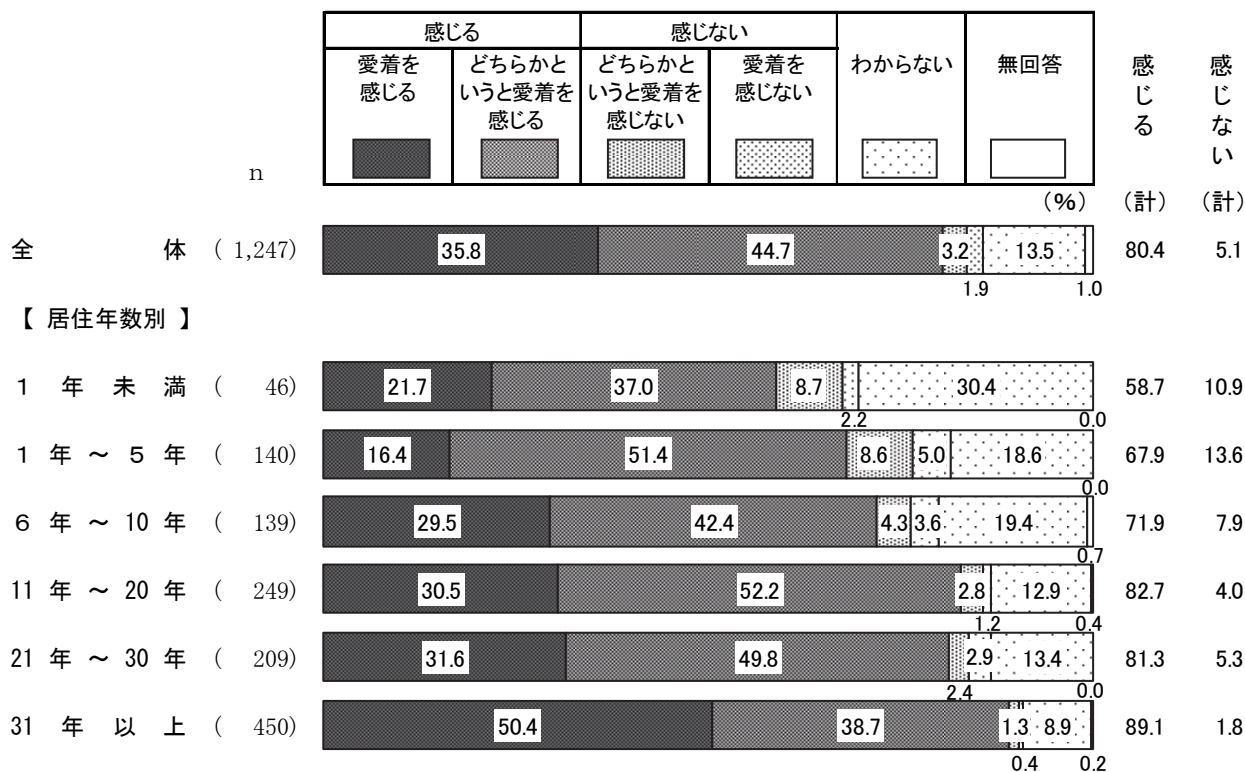
図1-6-4 練馬区への愛着—性別、性・年代別



性別にみると、愛着を『感じる』は男性の方が2.4ポイント高く、8割を超えている。

性・年代別にみると、「愛着を感じる」は男性70歳以上で5割近く、女性70歳以上で4割を超えて多くなっている。愛着を『感じる』は女性20歳代と男性40歳代・50歳代で8割台半ばと多くなっている。(図1-6-4)

図 1-6-5 練馬区への愛着—居住年数別

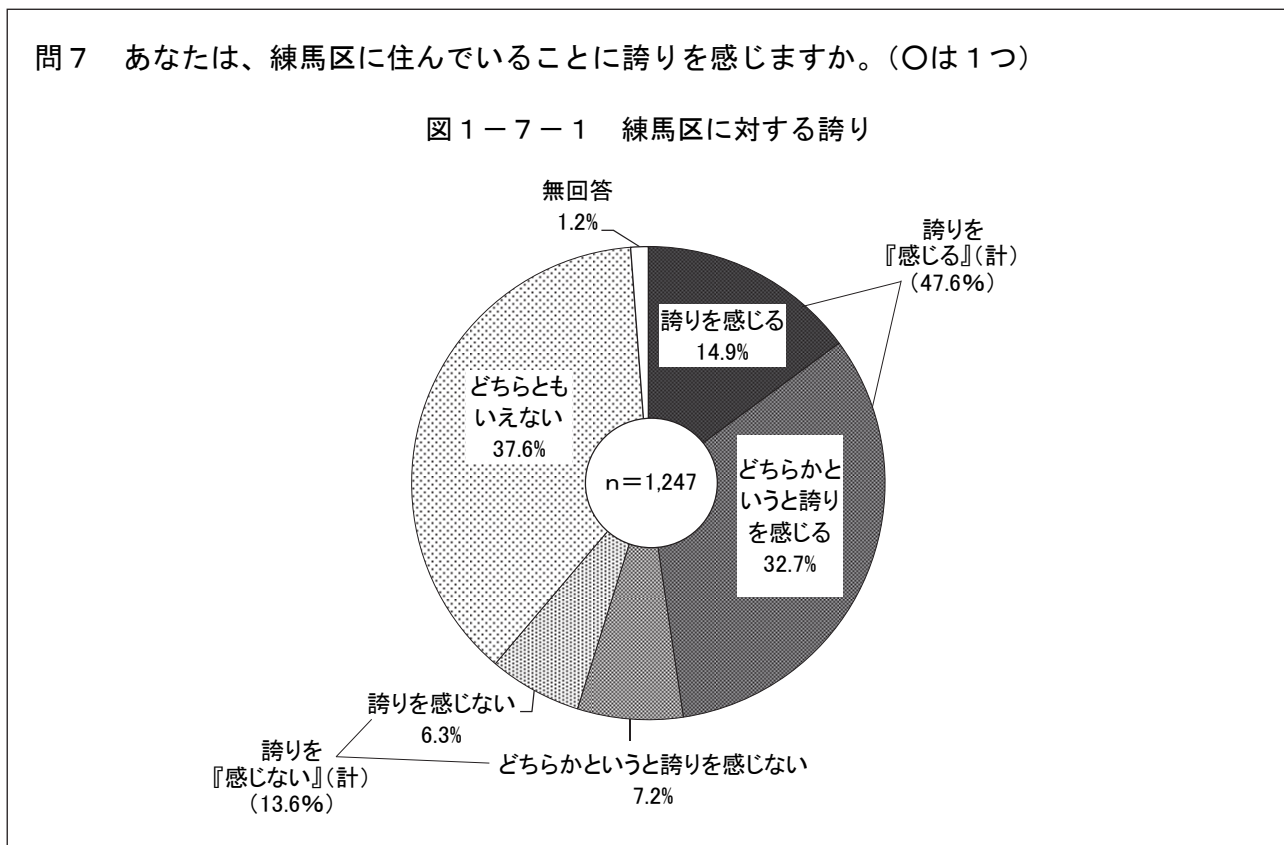


居住年数別にみると、愛着を『感じる』は居住年数が長くなるほど割合が高くなる傾向があり、11年以上居住している人で8割台と多く、31年以上居住している人では約9割となっている。

(図 1-6-5)

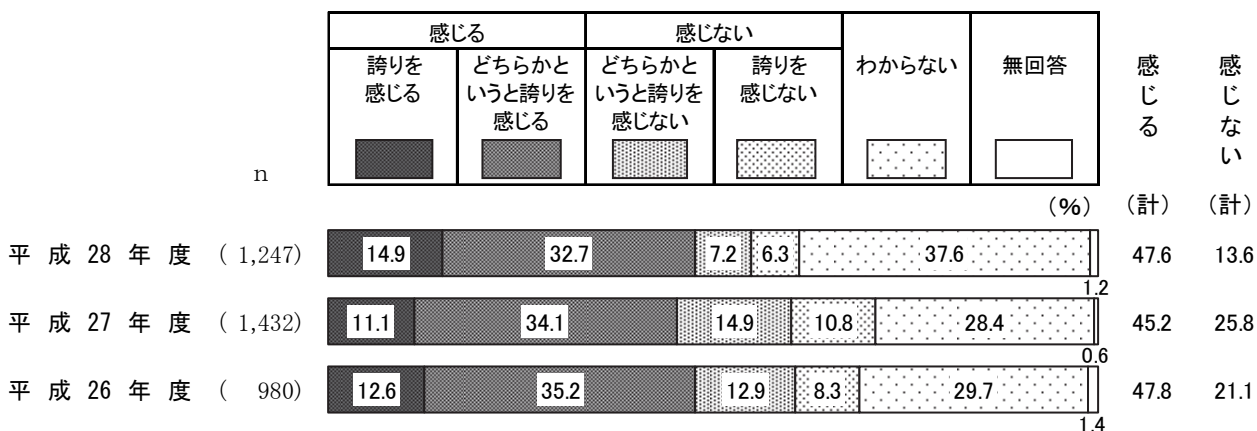
(7) 練馬区に対する誇り

◇誇りを『感じる』が5割近く



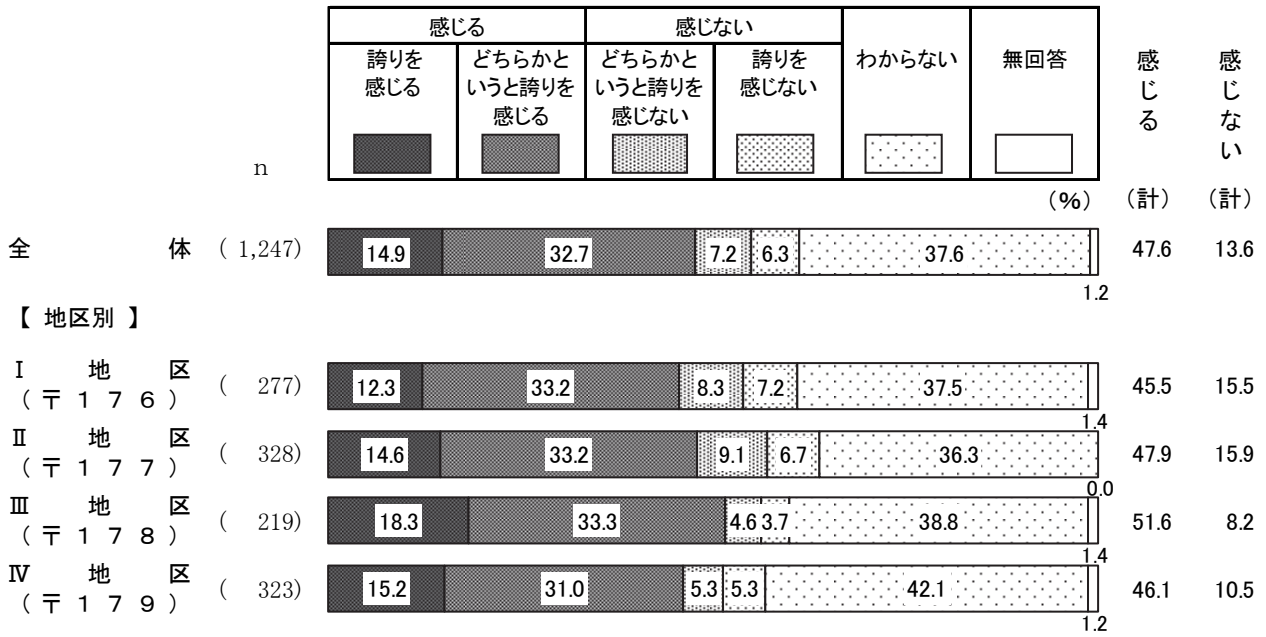
練馬区に住んでいることに誇りを感じるか聞いたところ、「誇りを感じる」(14.9%)と「どちらかというと誇りを感じる」(32.7%)を合わせた、誇りを『感じる』(47.6%)が5割近くとなっている。一方、「どちらかというと誇りを感じない」(7.2%)と「誇りを感じない」(6.3%)を合わせた、誇りを『感じない』(13.6%)は1割を超えるにとどまっている。(図1-7-1)

図1-7-2 練馬区に対する誇り—過年度比較



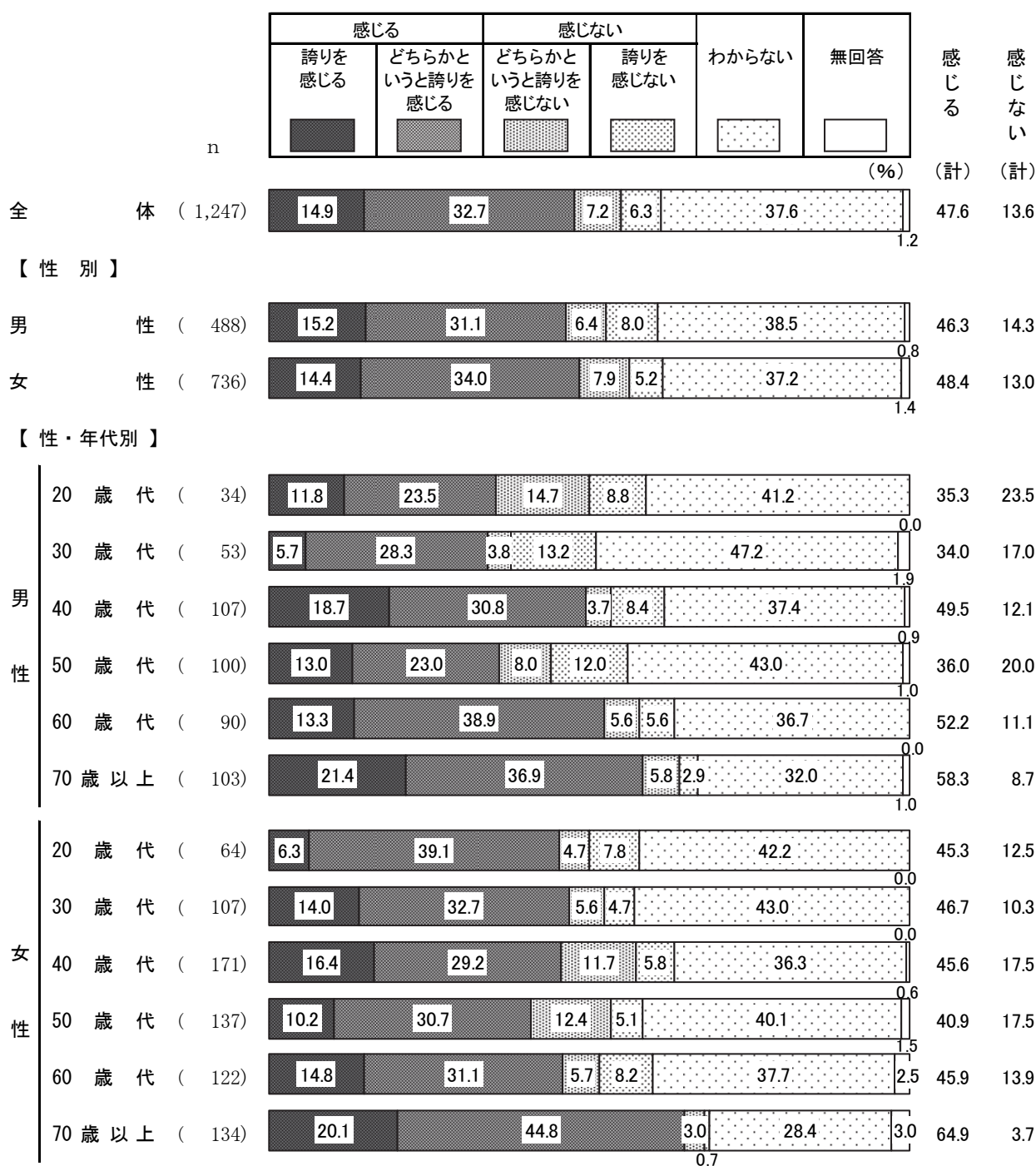
過去の調査と比較すると、誇りを『感じる』は前回調査(平成27年度)から2.4ポイント増加している。一方、誇りを『感じない』は12.2ポイント減少している。(図1-7-2)

図 1-7-3 練馬区に対する誇り—地区別



地区別にみると、誇りを『感じる』はIII地区（〒178）で5割を超え多くなっている。（図1-7-3）

図1-7-4 練馬区に対する誇り—性別、性・年代別

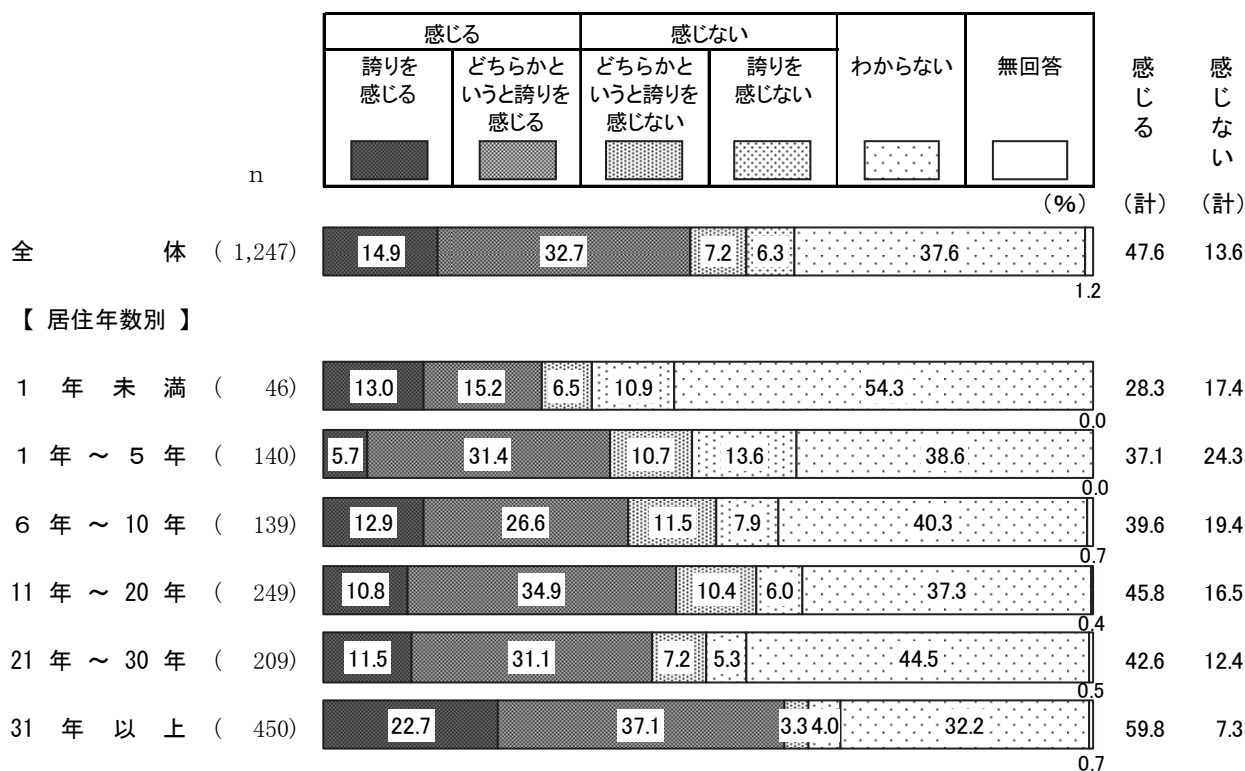


性別にみると、誇りを『感じる』は女性の方が2.1ポイント高く、5割近くとなっている。

性・年代別にみると、誇りを『感じる』は女性70歳以上で6割台半ば、男性70歳以上で6割近くと多くなっている。一方、誇りを『感じない』は男性20歳代・50歳代で2割台前半となっている。

(図1-7-4)

図 1-7-5 練馬区に対する誇り—居住年数別

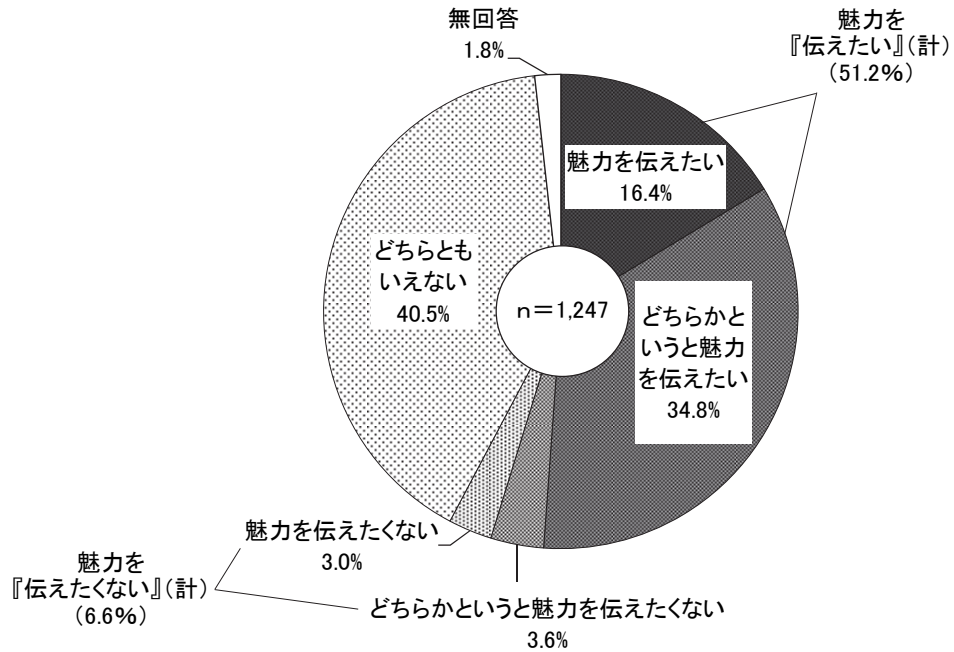


居住年数別にみると、誇りを『感じる』は居住年数が長くなるほど割合が高くなる傾向があり、31年以上居住している人で約6割と多くなっている。(図1-7-5)

(8) 練馬区の魅力を人に伝えたいか
 ◇魅力を『伝えたい』が5割を超える

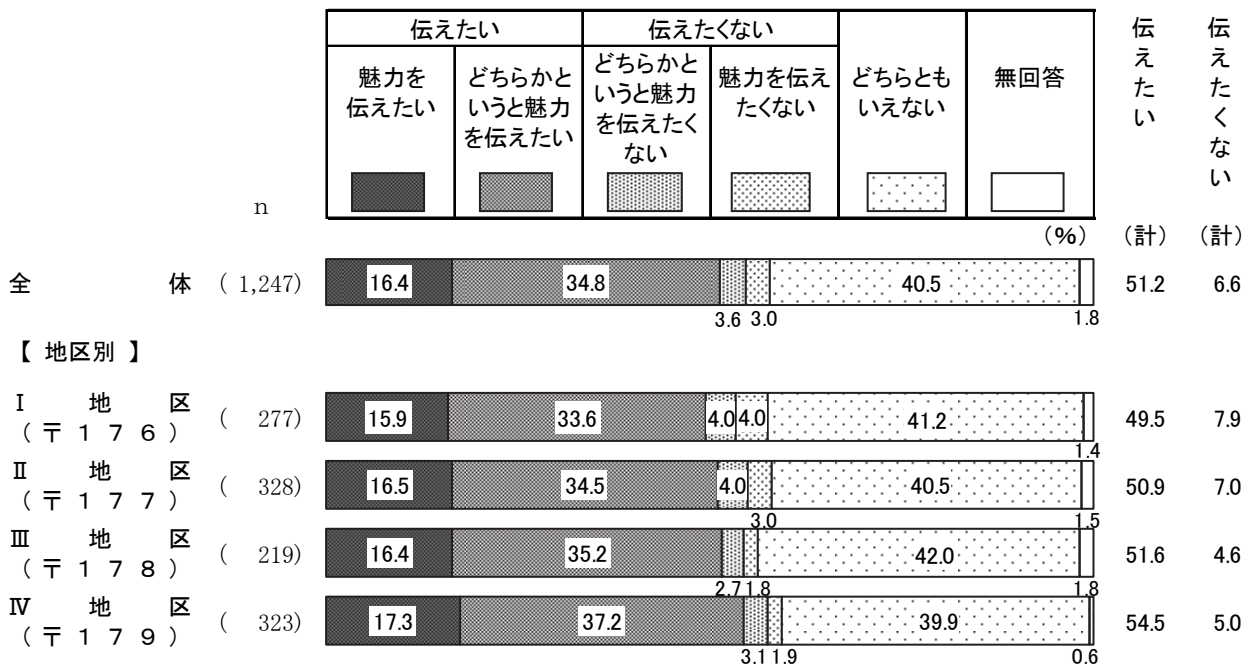
問8 あなたは、練馬区の魅力を人に伝えたいと思いますか。(○は1つ)

図1-8-1 練馬区の魅力を人に伝えたいか



練馬区の魅力を人に伝えたいか聞いたところ、「魅力を伝えたい」(16.4%)と「どちらかという魅力を伝えたい」(34.8%)を合わせた、魅力を『伝えたい』(51.2%)が5割を超えている。一方、「どちらかという魅力を伝えたくない」(3.6%)と「魅力を伝えたくない」(3.0%)を合わせた、魅力を『伝えたくない』(6.6%)は1割に満たない。(図1-8-1)

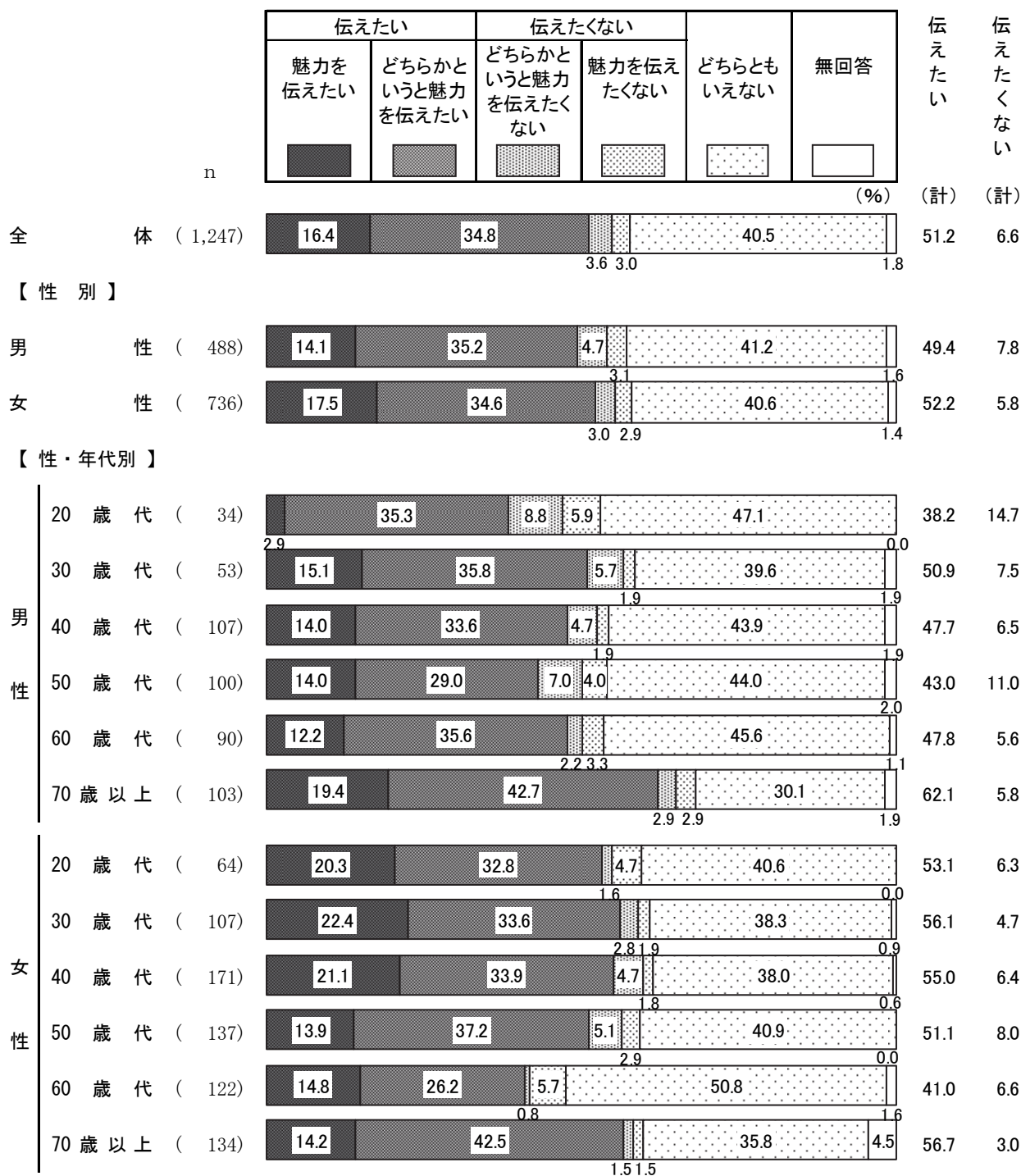
図1-8-2 練馬区の魅力を人に伝えたいか—地区別



地区別にみると、魅力を『伝えたい』はIV地区（〒179）で5割台半ばと多くなっている。

(図1-8-2)

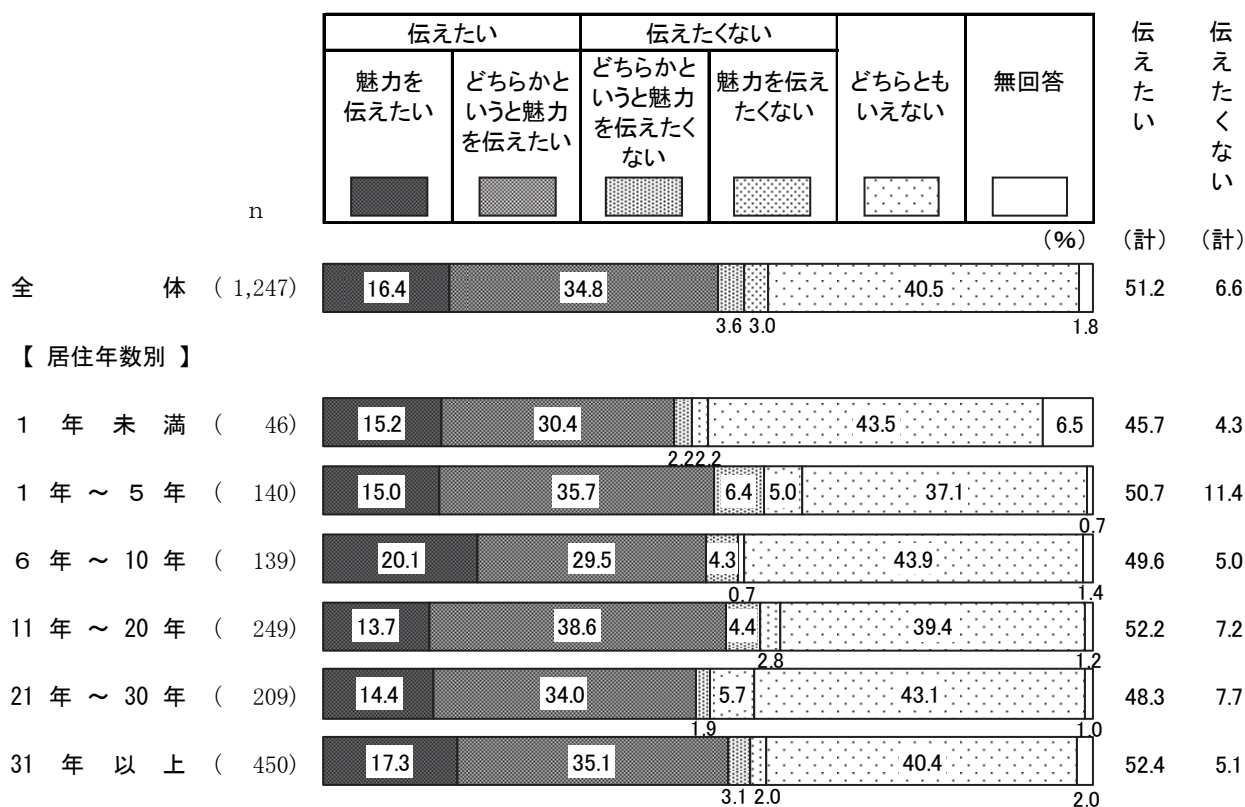
図1-8-3 練馬区の魅力を人に伝えたいか—性別、性・年代別



性別にみると、魅力を『伝えたい』は女性の方が2.8ポイント高く、5割を超えている。

性・年代別にみると、魅力を『伝えたい』は男性70歳以上で6割を超え、女性30歳代・40歳代・70歳以上で5割半ばと多くなっている。一方、魅力を『伝えたくない』は男性20歳代・50歳代で1割前半となっている。(図1-8-3)

図1-8-4 練馬区の魅力を人に伝えたいか—居住年数別



居住年数別にみると、「魅力を伝えたい」は6年～10年居住している人で約2割と他に比べ割合が高くなっている。魅力を『伝えたい』は、1年～5年と11年～20年と31年以上で5割台前半と多くなっている。(図1-8-4)

(9) 区施策への満足度と必要性

◇満足度の高い施策は「健康づくりの推進」「みどりの保全と創出」が7割半ば

◇必要性の高い施策は「医療環境の充実」「高齢者福祉」「災害に強い安全なまちづくり」が8割台半ば、「子育て支援」「学校教育」が8割を超える

問9 練馬区は様々な施策を行っていますが、あなたは、次にあげる施策にどの程度満足していますか。(各項目 ○は1つ)

問12 これらの施策に関する今後の必要性について、どのように考えますか。

(各項目 ○は1つ)

子ども・子育て	1 子育て支援 (保育所・学童クラブの充実、幼稚園の預かり保育、一時預かりや親子で交流できる場の拡充、子育ての相談をしやすい体制の整備など)
	2 学校教育 (学力の定着・向上、教員の質の向上、教育環境の整備、家庭や地域と連携した教育の推進、支援が必要な子どもたちへの取り組みの充実など)
	3 青少年の健全育成 (子ども向け講座・行事、社会環境の浄化活動、遊び場の確保、青少年館など)
福祉・医療・健康	4 高齢者福祉 (医療・介護等の連携による高齢者の生活支援、高齢者施設の整備、介護予防・介護サービスの充実など)
	5 障害者福祉(生活状況に応じた地域生活支援の強化、家族支援、住まいの確保、就労支援など)
	6 医療環境の充実(病床の確保、病院整備の促進、在宅療養ネットワークの構築など)
	7 地域福祉の推進 (地域における平常時の見守り、災害時の要援護者支援の充実、民生委員による福祉活動など)
	8 健康づくりの推進(健康診査、がん検診、母子保健、健康相談、食育、感染症対策、精神保健など)
	9 生活の安定に向けた自立支援(生活の相談や支援、生活保護など)
都市基盤整備	10 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 (都営大江戸線の延伸、都市計画道路の整備、西武新宿線の立体化、公共交通空白地域の改善など)
	11 災害に強い安全なまちづくり (建築物の耐震化・不燃化、無電柱化、木造住宅密集地域の改善、都市型水害対策の強化など)
	12 地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり(自主的な防災への取組支援、防犯・防火など)
	13 交通安全対策(歩行者空間の確保、自転車対策など)
	14 駅周辺のまちづくり (駅へのアクセス道路、生活利便性の高い駅前空間、良好な景観の形成など)
	15 エネルギー政策の展開 (災害時のエネルギーセキュリティの確保、住宅都市にふさわしい自立分散型エネルギー社会へ向けた取り組み、省エネルギー、地球温暖化防止など)
	16 循環型社会づくり(ごみの減量・リサイクル・環境学習の推進など)
	17 地域環境の保全(騒音などの公害問題、たばこのポイ捨て・歩きたばこ防止など)
	18 住まいの支援(区営住宅の運営、高齢者世帯への住宅支援など)

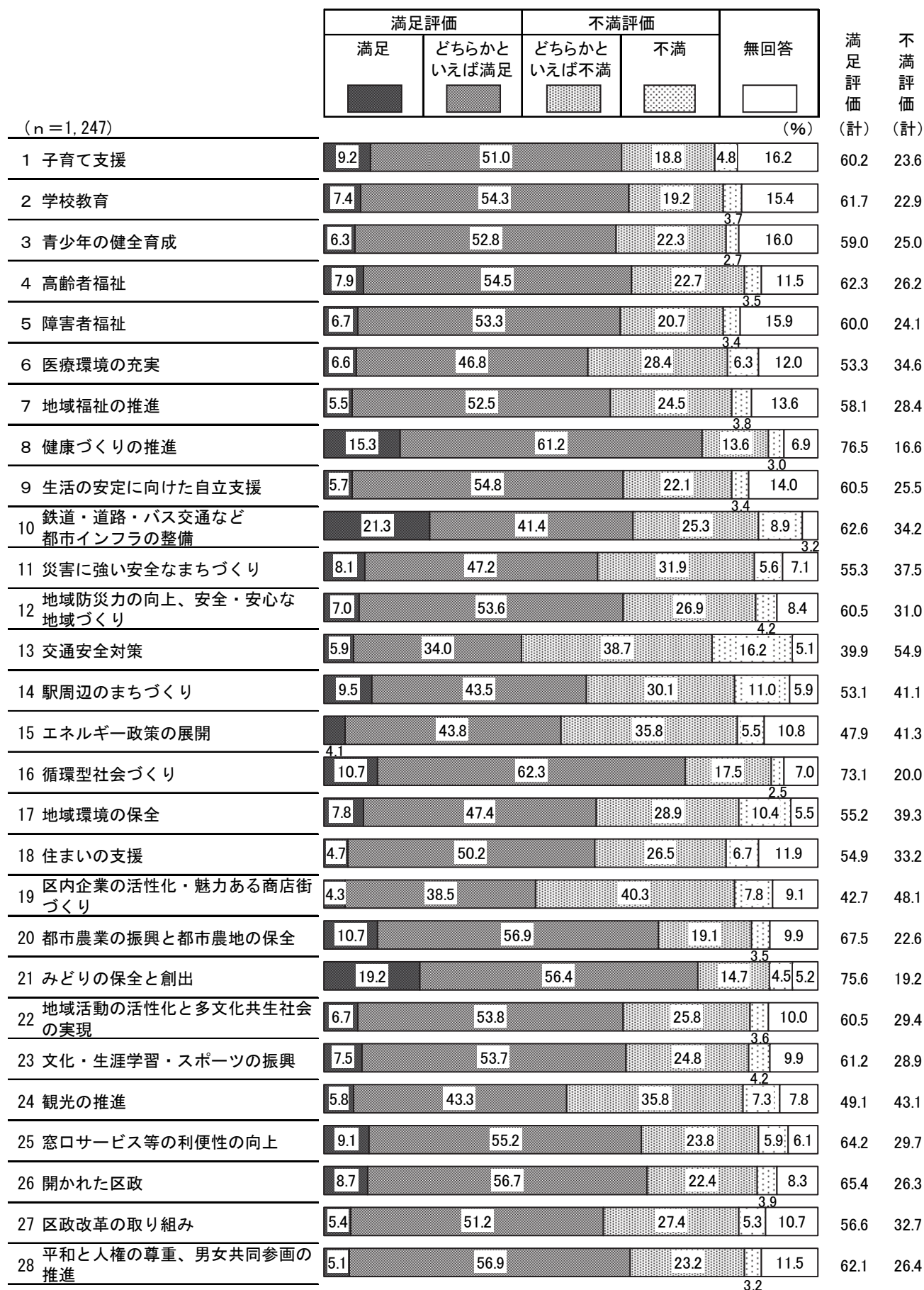
練馬区 の魅力	19 区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり (創業支援、企業活動活性化、個店・商店街支援など)
	20 都市農業の振興と都市農地の保全
	21 みどりの保全と創出 (公園の整備、樹林地の保全、みどりの美しい街並みづくりなど)
	22 地域活動の活性化と多文化共生社会の実現 (町会・自治会等の支援、地域集会施設の運営、国際交流など)
	23 文化・生涯学習・スポーツの振興
	24 観光の推進 (徒歩や自転車によるまち歩き観光、区の魅力・観光情報の発信など)
区政 運営	25 窓口サービス等の利便性の向上 (窓口の受付日や時間の拡充、窓口の効率化、対応の質の向上、ICT (情報通信技術) の活用など)
	26 開かれた区政 (区報やホームページなどの情報発信の充実、区民参加・協働の推進など)
	27 区政改革の取り組み (サービスの質の向上や費用対効果、受益と負担のあり方、行政と民間の役割分担等の観点からのサービス・事務の見直しなど)
	28 平和と人権の尊重、男女共同参画の推進 (啓発イベントや講座、女性に対する各種相談の実施、情報誌の発行など)

満足度

「満足」および「どちらかといえば満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかといえば不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。(図1-9-1)

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①健康づくりの推進	(76.5%)	①交通安全対策	(54.9%)
②みどりの保全と創出	(75.6%)	②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(48.1%)
③循環型社会づくり	(73.1%)	③観光の推進	(43.1%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(67.5%)	④エネルギー政策の展開	(41.3%)
⑤開かれた区政	(65.4%)	⑤駅周辺のまちづくり	(41.1%)

図 1-9-1 区施策への満足度



必要性

「とても必要」および「必要」の2項目を合わせた『必要性が高い評価』と、「どちらかといえば必要」および「あまり必要でない」の2項目を合わせた『必要性が低い評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようにになっている。(図1-9-2)

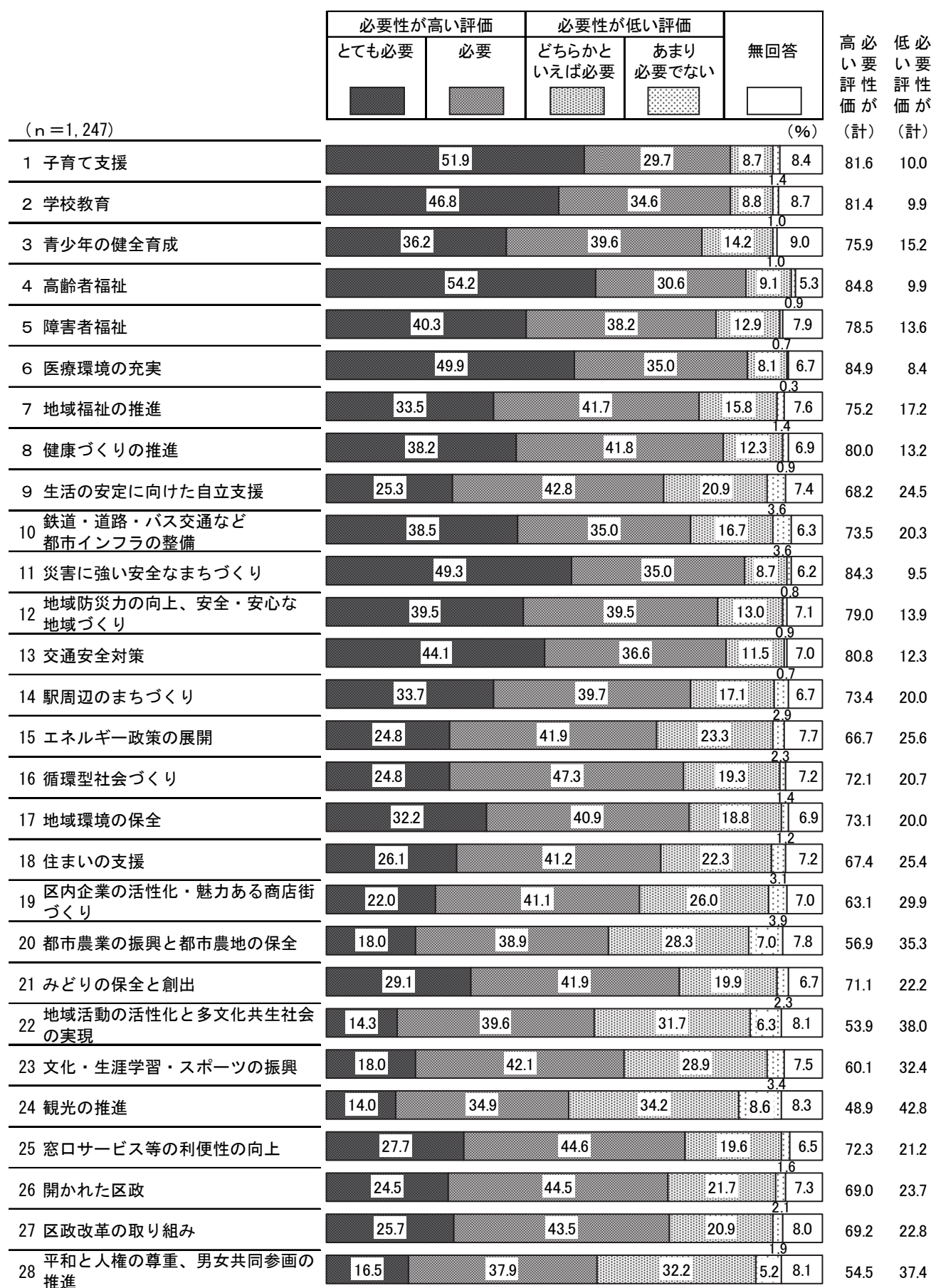
『必要性が高い評価』上位5項目

①医療環境の充実	(84.9%)
②高齢者福祉	(84.8%)
③災害に強い安全なまちづくり	(84.3%)
④子育て支援	(81.6%)
⑤学校教育	(81.4%)

『必要性が低い評価』上位5項目

①観光の推進	(42.8%)
②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	(38.0%)
③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	(37.4%)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(35.3%)
⑤文化・生涯学習・スポーツの振興	(32.4%)

図 1-9-2 区施策への必要性



加重平均値

満足度と必要性を比率でみるのとは別に、その比較をより明確にするために、加重平均値による数量化を試みた。これは、下記の計算式にあるように、数段階の評価に点数を与え、評価点を算出する方法である。

$$\text{満足度評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「満足」の回答者数} \times 2) + (\text{「どちらかといえば満足」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかといえば不満」の回答者数} \times -1) + (\text{「不満」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

$$\text{必要性評価点} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} (\text{「とても必要」の回答者数} \times 2) + (\text{「必要」の回答者数} \times 1) \\ + (\text{「どちらかといえば必要」の回答者数} \times -1) + (\text{「あまり必要でない」の回答者数} \times -2) \end{array} \right\}}{\text{回答者数 (「全体」 - 「無回答」)}}$$

この計算方法では、評価点は+2.0点～-2.0点の間に分布し、中間点の0.0点を境に、+2.0点に近くなるほど満足度・必要性は高くなり、逆に、-2.0点に近くなるほど満足度・必要性が低くなる。

満足度と必要性の加重平均値の上位5項目と下位5項目は、以下のようになっている。

(表1-9-1)

満足度評価点 上位5項目

①健康づくりの推進	(0.78)
②みどりの保全と創出	(0.75)
③循環型社会づくり	(0.66)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(0.58)
⑤学校教育	(0.50)

満足度評価点 下位5項目

①交通安全対策	(-0.27)
②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	
	(-0.10)
③観光の推進	(0.05)
④エネルギー政策の展開	(0.06)
⑤駅周辺のまちづくり	(0.11)

必要性評価点 上位5項目

①高齢者福祉	(1.35)
②医療環境の充実	(1.35)
③子育て支援	(1.33)
④災害に強い安全なまちづくり	(1.31)
⑤学校教育	(1.28)

必要性評価点 下位5項目

①観光の推進	(0.13)
②地域活動の活性化と多文化共生社会の実現	
	(0.26)
③平和と人権の尊重、男女共同参画の推進	
	(0.31)
④都市農業の振興と都市農地の保全	(0.35)
⑤文化・生涯学習・スポーツの振興	(0.46)

表 1-9-1 区施策への満足度と必要性（加重平均値）－地区別

		満足度評価点					必要性評価点				
		区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区	区 全 体	I 地 区	II 地 区	III 地 区	IV 地 区
子ども・子育て	1 子育て支援	0.49	0.40	0.41	0.54	0.59	1.33	1.40	1.33	1.28	1.35
	2 学校教育	0.50	0.54	0.45	0.45	0.56	1.28	1.28	1.22	1.34	1.37
	3 青少年の健全育成	0.45	0.45	0.37	0.40	0.54	1.05	1.09	0.97	1.13	1.09
福祉・医療・健康	4 高齢者福祉	0.46	0.46	0.46	0.47	0.44	1.35	1.30	1.39	1.32	1.44
	5 障害者福祉	0.46	0.37	0.40	0.50	0.55	1.13	1.07	1.11	1.17	1.18
	6 医療環境の充実	0.22	0.29	0.20	0.19	0.21	1.35	1.38	1.36	1.36	1.33
	7 地域福祉の推進	0.36	0.46	0.23	0.31	0.45	0.98	1.07	0.94	0.96	0.97
	8 健康づくりの推進	0.78	0.79	0.85	0.69	0.75	1.12	1.25	1.05	1.17	1.07
	9 生活の安定に向けた自立支援	0.43	0.50	0.31	0.43	0.53	0.71	0.70	0.67	0.73	0.70
都市基盤整理	10 鉄道・道路・バス交通など 都市インフラの整備	0.42	0.79	0.22	-0.02	0.61	0.94	0.89	1.07	1.20	0.73
	11 災害に強い安全なまちづくり	0.22	0.33	-0.04	0.05	0.50	1.31	1.37	1.35	1.34	1.25
	12 地域防災力の向上、安全・安心な 地域づくり	0.35	0.49	0.11	0.24	0.56	1.12	1.21	1.08	1.15	1.06
	13 交通安全対策	-0.27	-0.15	-0.47	-0.52	-0.03	1.20	1.22	1.29	1.37	1.02
	14 駅周辺のまちづくり	0.11	0.19	-0.11	-0.02	0.33	0.90	1.01	1.00	0.94	0.75
	15 エネルギー政策の展開	0.06	0.12	-0.08	-0.04	0.25	0.69	0.77	0.62	0.74	0.63
	16 循環型社会づくり	0.66	0.63	0.66	0.65	0.69	0.81	0.78	0.77	0.92	0.80
	17 地域環境の保全	0.14	0.06	0.03	0.19	0.25	0.90	0.95	0.92	0.99	0.79
	18 住まいの支援	0.22	0.30	0.13	0.21	0.27	0.70	0.66	0.67	0.77	0.68
練馬区の魅力	19 区内企業の活性化・魅力ある商店街 づくり	-0.10	0.00	-0.22	-0.09	-0.10	0.55	0.67	0.54	0.51	0.49
	20 都市農業の振興と都市農地の保全	0.58	0.55	0.40	0.68	0.73	0.35	0.33	0.34	0.36	0.35
	21 みどりの保全と創出	0.75	0.76	0.60	0.73	0.93	0.81	0.87	0.74	0.93	0.77
	22 地域活動の活性化と多文化共生社会 の実現	0.38	0.41	0.19	0.43	0.51	0.26	0.39	0.18	0.25	0.23
	23 文化・生涯学習・スポーツの振興	0.39	0.45	0.29	0.29	0.50	0.46	0.60	0.41	0.52	0.37
	24 観光の推進	0.05	0.05	-0.07	0.00	0.18	0.13	0.21	0.07	0.09	0.16
区政運営	25 窓口サービス等の利便性の向上	0.40	0.43	0.37	0.35	0.41	0.83	0.81	0.86	0.83	0.87
	26 開かれた区政	0.48	0.50	0.41	0.49	0.58	0.73	0.73	0.69	0.86	0.68
	27 区政改革の取り組み	0.27	0.32	0.21	0.26	0.29	0.76	0.83	0.78	0.90	0.69
	28 平和と人権の尊重、男女共同参画の 推進	0.43	0.44	0.36	0.40	0.54	0.31	0.29	0.23	0.33	0.36

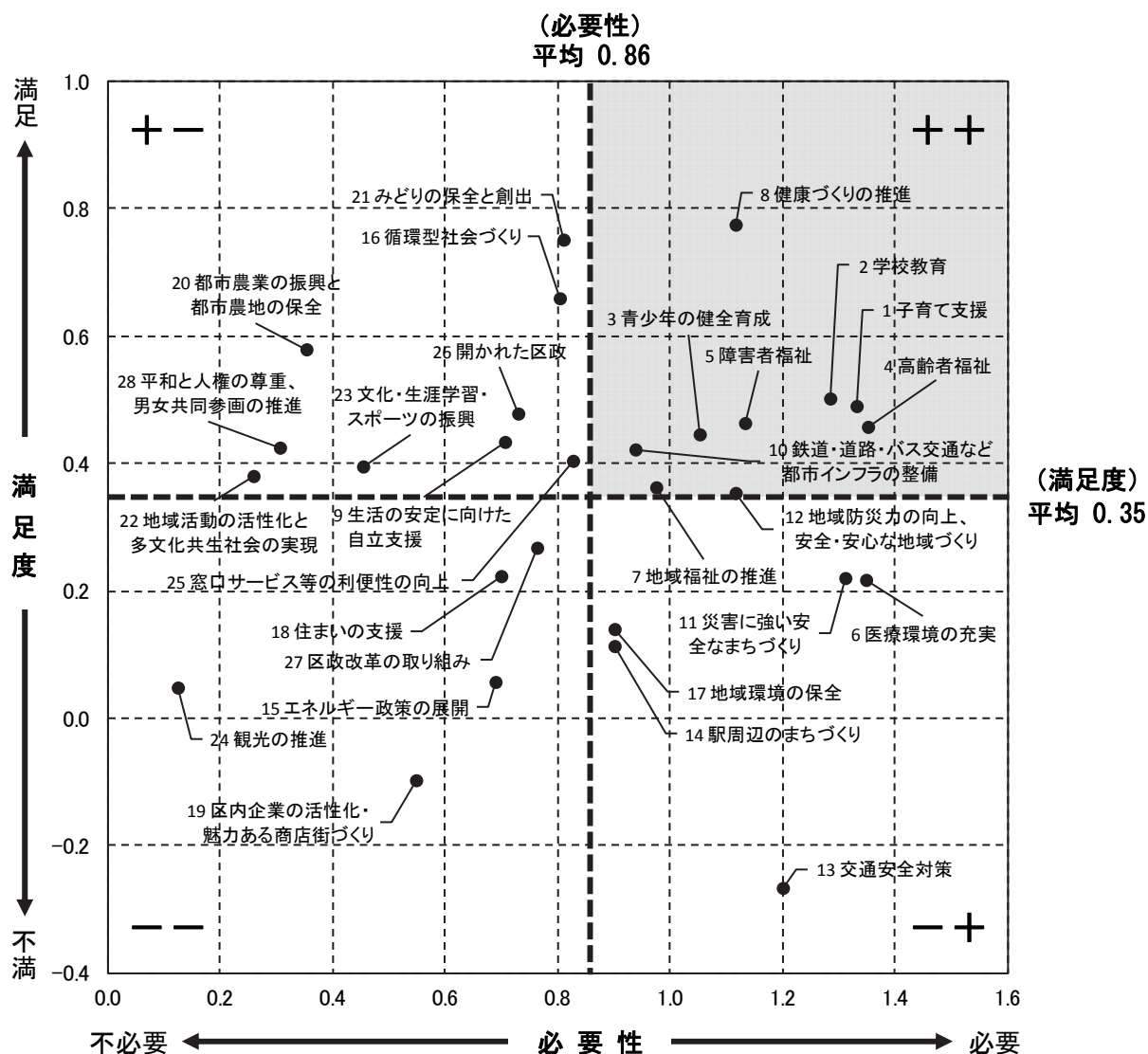
満足度と必要性の相関

満足度と必要性の相関を加重平均値でみると、下の図1-9-3のようになっている。

この相関図では、●の点が上に行くほど満足度が高く、右に行くほど必要性が高くなる。

さらに、満足度の平均（0.35点）および必要性の平均（0.86点）を相関図上に点線を引いて4つに分割し、平均より上位であるか下位であるかが明確になるように示した。

図1-9-3 区施策への満足度と必要性（加重平均値）の相関



これによると、満足度も必要性も高い（++：網かけ部分）のは、「健康づくりの推進」「学校教育」「子育て支援」「高齢者福祉」「障害者福祉」などである。

満足度が高いが必要性が低い（+-）のは、「都市農業の振興と都市農地の保全」「平和と人権の尊重、男女共同参画の推進」「生活の安定に向けた自立支援」などである。

満足度が低いが必要性が高い（-+）のは、「交通安全対策」「医療環境の充実」「災害に強い安全なまちづくり」「地域環境の保全」「駅周辺のまちづくり」である。

満足度も必要性も低い（--）のは、「観光の推進」「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」「エネルギー政策の展開」「住まいの支援」などである。（図1-9-3）

満足度の区全体と地区別比較

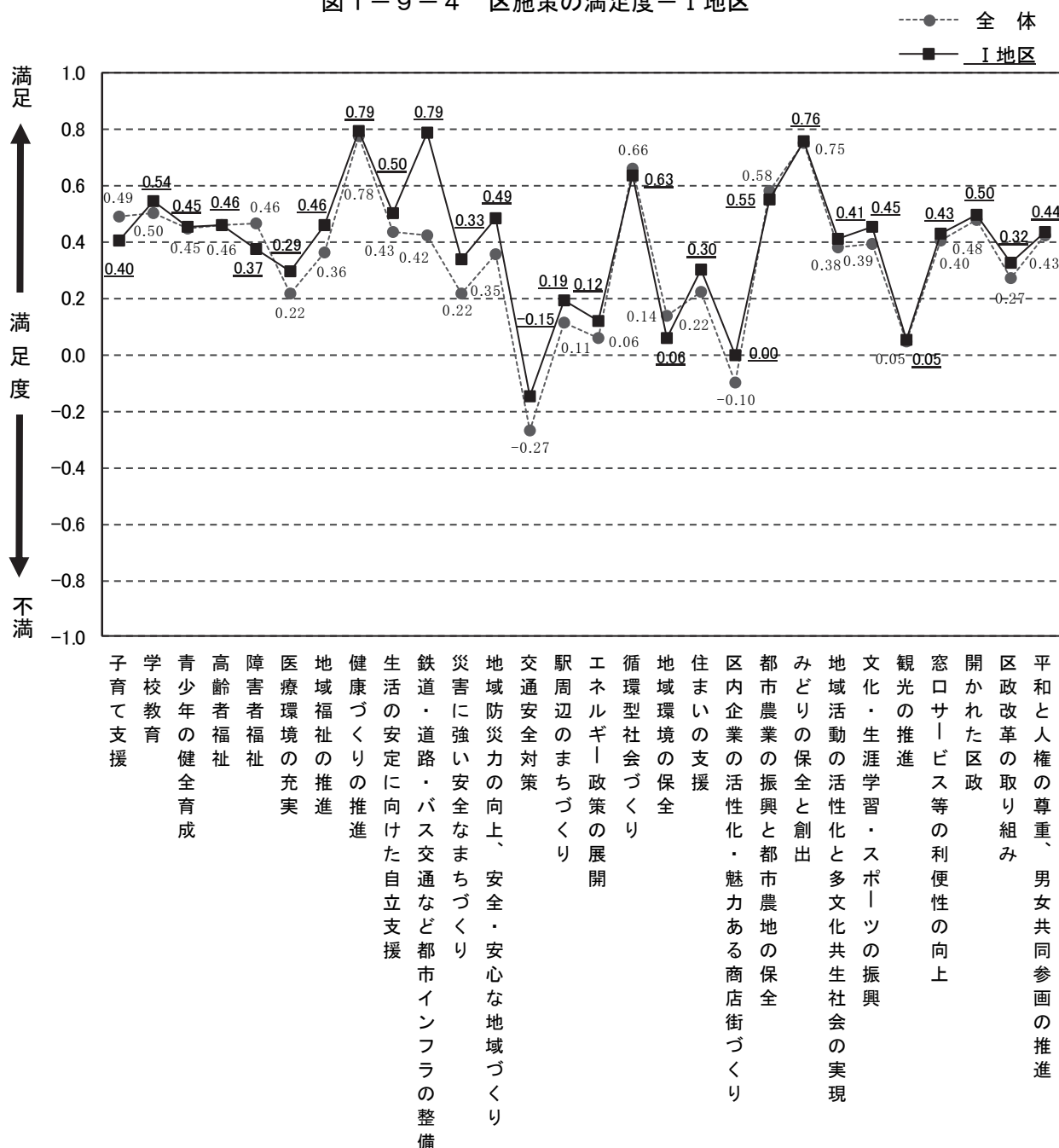
【I地区（〒176）】

全体と比較して満足度が高いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(+0.37点)、「地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり」(+0.14点)、「交通安全対策」(+0.12点)などである。

満足度が低いのは「子育て支援」、「障害者福祉」(ともに-0.09点)、「地域環境の保全」(0.08点)などである。(図1-9-4)



図1-9-4 区施策の満足度－I地区



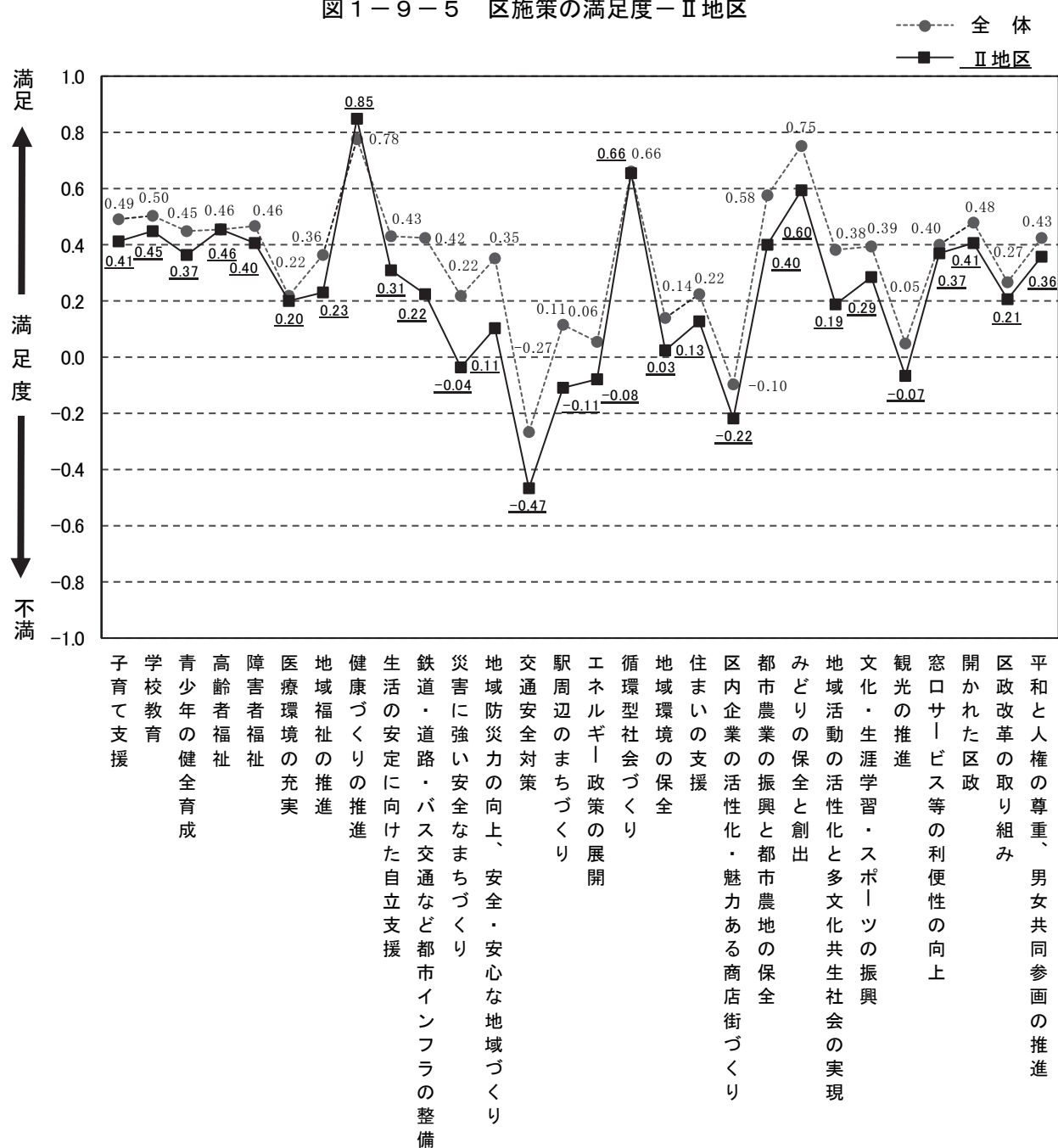
【Ⅱ地区（〒177）】

全体と比較して満足度が高いのは「健康づくりの推進」（+0.07点）である。

満足度が低いのは「災害に強い安全なまちづくり」（-0.26点）、「地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり」（-0.24点）、「駅周辺のまちづくり」（-0.22点）、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」「交通安全対策」（ともに-0.20点）などである。（図1-9-5）



図1-9-5 区施策の満足度－Ⅱ地区



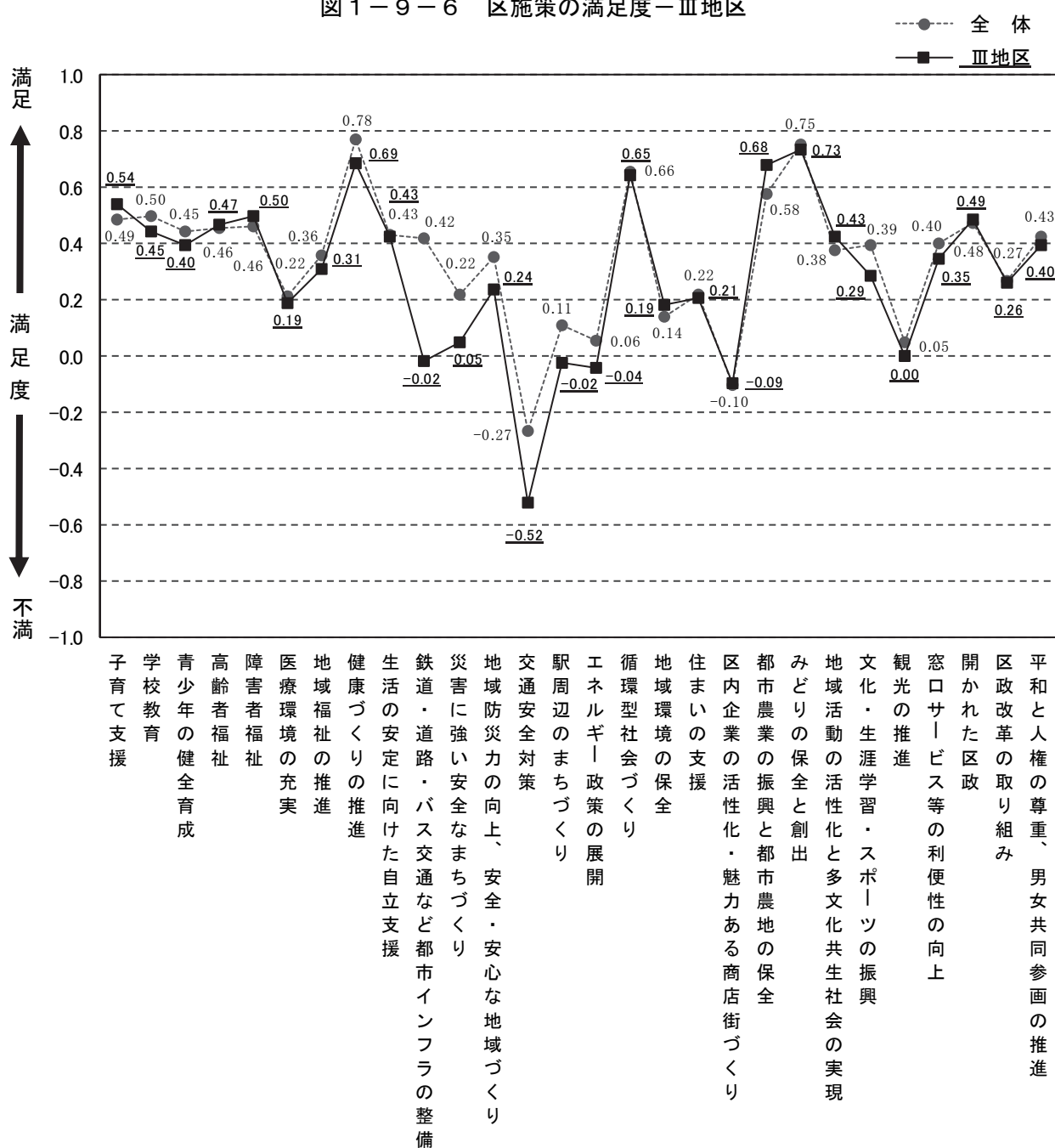
【Ⅲ地区（〒178）】

全体と比較して満足度が高いのは「都市農業の振興と都市農地の保全」(+0.10点)、「子育て支援」「地域環境の保全」「地域活動の活性化と多文化共生社会の実現」(ともに+0.05点) などである。

満足度が低いのは「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(-0.44点)、「交通安全対策」(-0.25点)、「災害に強い安全なまちづくり」(-0.17点) などである。(図1-9-6)



図1-9-6 区施策の満足度－Ⅲ地区



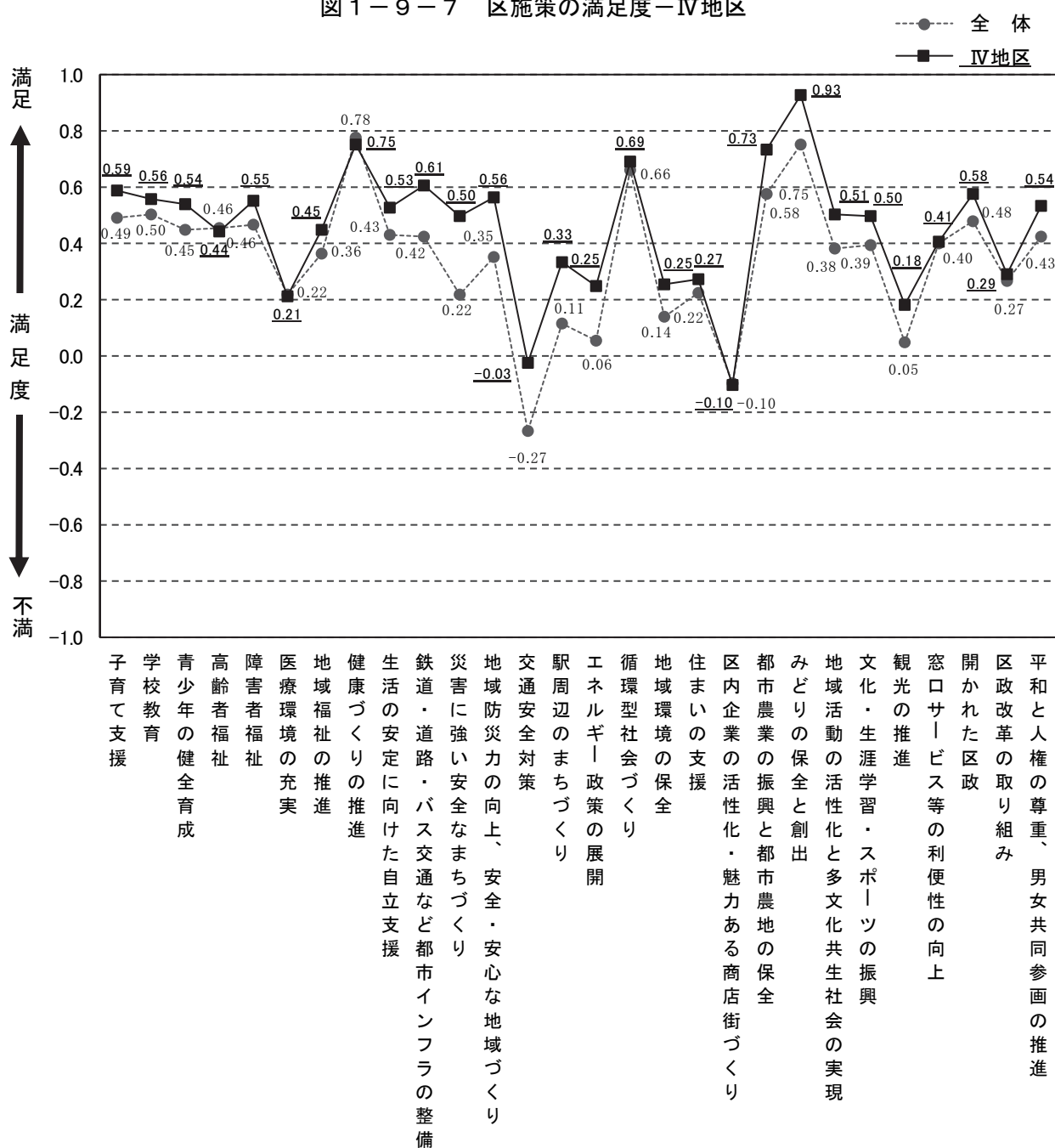
【IV地区（〒179）】

全体と比較して満足度が高いのは「災害に強い安全なまちづくり」（+0.28点）、「交通安全対策」（+0.24点）、「駅周辺のまちづくり」（0.22点）などである。

満足度が低いのは「健康づくりの推進」（-0.03点）、「高齢者福祉」（-0.02点）、「医療環境の充実」（-0.01点）である。（図1-9-7）



図1-9-7 区施策の満足度—IV地区

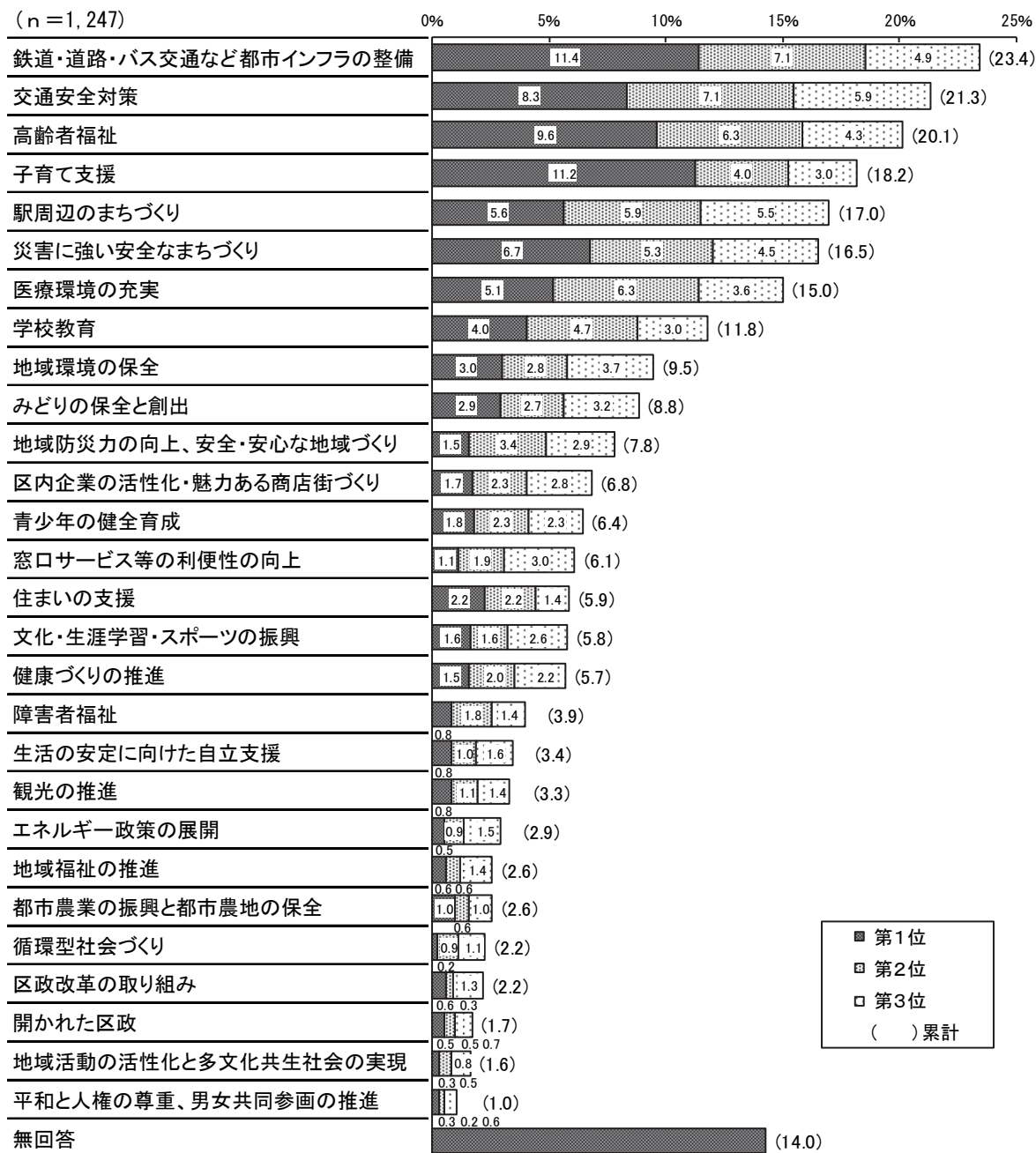


(10) 施策への要望

◇「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」「交通安全対策」「高齢者福祉」が2割台

問10 練馬区の施策（問9の1～28）の中で、あなたが特に力を入れてほしいと思うものを、第1位、第2位、第3位と順位をつけて、その番号を下の該当する欄に記入してください。

図1-10-1 施策への要望



特に力を入れてほしい施策を第1位から第3位まで挙げてもらった。その3つの累計をみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(23.4%)が2割を超えて最も多く、次いで「交通安全対策」(21.3%)、「高齢者福祉」(20.1%)、「子育て支援」(18.2%)、「駅周辺のまちづくり」(17.0%)などの順になっている。(図1-10-1)

表 1-10-1 施策への要望一過年度比較

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
平成28年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	駅周辺のまちづくり
平成27年度	鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備	高齢者福祉	交通安全対策	子育て支援	医療環境の充実
平成26年度	交通安全対策	高齢者福祉	子育て支援	医療体制の確立	道路や公共交通の整備
平成25年度	医療体制の確立	高齢者福祉	防犯・防火・防災	交通安全対策	子育て支援
平成24年度	防犯・防火・防災	交通安全対策	災害に強く生活しやすいまちづくり	子育て支援	医療体制の確立
平成23年度	子育て支援	防犯・防火・防災	災害に強く生活しやすいまちづくり	医療体制の確立	高齢者福祉
平成22年度	医療体制の確立	高齢者福祉	子育て支援	交通安全対策	防犯・防火・防災
平成21年度	高齢者福祉	子育て支援	防犯・防火・防災	交通安全対策	生活しやすいまちづくり
平成20年度	高齢者福祉	防犯・防火・防災	交通安全対策	子育て支援	学校教育
平成19年度	防犯・防火・防災	高齢者福祉	交通安全対策	生活しやすいまちづくり	子育て支援

過去の調査と比較すると、^{注1}「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」が2年連続第1位となっており、「交通安全対策」「高齢者福祉」「子育て支援」は前回調査（平成27年度）同様5位以内に入っている。^{注2}「駅周辺のまちづくり」は初めて5位以内に入っている。（表1-10-1）

- 注1) 「医療環境の充実」は平成26年度までは「医療体制の確立」としていた。
「地域福祉の推進」は平成26年度までは「地域で支える福祉」としていた。
「健康づくりの推進」は平成26年度までは「健康づくり」としていた。
「生活の安定に向けた自立支援」は平成26年度までは「生活の安定のための支援」としていた。
「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は平成26年度までは「道路や公共交通（鉄道やバスなど）の整備」としていた。
「災害に強い安全なまちづくり」は平成26年度までは「災害に強く生活しやすいまちづくり」としていた。
「地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり」は平成26年度までは「防犯・防火・防災」としていた。
「住まいの支援」は平成26年度までは「公共住宅の整備や住まいづくりの情報提供」としていた。
「区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり」は平成26年度までは「中小企業・商店街の振興」としていた。
「都市農業の振興と都市農地の保全」は平成26年度までは「都市農業の振興・農地の保全」としていた。
「みどりの保全と創出」は平成26年度までは「みどりの保全と創造」としていた。
「地域活動の活性化と多文化共生社会の実現」は平成26年度までは「地域活動の支援」「地域の国際交流」としていた。
「文化・生涯学習・スポーツの振興」は平成26年度までは「文化芸術・生涯学習活動、スポーツ活動の支援」としていた。
「窓口サービス等の利便性の向上」は平成26年度までは「区の窓口サービスの向上」としていた。
「開かれた区政」は平成26年度までは「開かれた行政運営」としていた。
「区政改革の取り組み」は平成27年度は「持続可能な行財政改革の取組」、平成26年度までは「行財政改革の取組」としていた。
「平和と人権の尊重、男女共同参画の推進」は平成26年度までは「平和と人権の尊重や男女共同参画の推進」としていた。
- 注2) 「駅周辺のまちづくり」「エネルギー政策の展開」は平成27年度から追加された選択肢。

表 1-10-2 施策への要望—地区別、性別、性・年代別

(%)

		AA (50%以上)	A (40~50%未満)	B (30~40%未満)	C (20~30%未満)
全 体					<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 23.4 ・ 交通安全対策 21.3 ・ 高齢者福祉 20.1
地区別	I 地区 (千 176)				<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援 22.4 ・ 地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり 20.9
	II 地区 (千 177)				<ul style="list-style-type: none"> ・ みどりの保全と創出 27.7 ・ 青少年の健全育成 24.4 ・ 窓口サービス等の利便性の向上 23.5 ・ 子育て支援 20.1
	III 地区			・ みどりの保全と創出 36.5	・ 青少年の健全育成 28.3
	IV 地区 (千 178)				<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 22.3 ・ 子育て支援 22.3 ・ 青少年の健全育成 20.1
性別	男 性				<ul style="list-style-type: none"> ・ みどりの保全と創出 24.4 ・ 青少年の健全育成 21.7
	女 性				<ul style="list-style-type: none"> ・ みどりの保全と創出 23.2 ・ 青少年の健全育成 21.7 ・ 子育て支援 20.8
性・年代別	男	20 歳代			<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康づくりの推進 26.5 ・ みどりの保全と創出 23.5 ・ 青少年の健全育成 23.5 ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 20.6 ・ 交通安全対策 20.6 ・ 子育て支援 20.6 ・ 地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり 20.6
		30 歳代		・ 青少年の健全育成 39.6	・ みどりの保全と創出 28.3
		40 歳代		・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 37.7	・ 窓口サービス等の利便性の向上 22.4
		50 歳代		・ みどりの保全と創出 31.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 20.6 ・ 青少年の健全育成 20.6
		60 歳代			<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援 28.0 ・ みどりの保全と創出 23.0 ・ 窓口サービス等の利便性の向上 22.0 ・ 地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり 20.0
		70歳以上			<ul style="list-style-type: none"> ・ みどりの保全と創出 26.7 ・ 子育て支援 20.0 ・ 青少年の健全育成 20.0
		20 歳代			<ul style="list-style-type: none"> ・ みどりの保全と創出 28.1 ・ 青少年の健全育成 26.6 ・ 窓口サービス等の利便性の向上 25.0 ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 21.9
	女	30 歳代	・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 45.8		<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全対策 28.0 ・ 青少年の健全育成 24.3 ・ みどりの保全と創出 23.4 ・ 窓口サービス等の利便性の向上 22.4
		40 歳代			<ul style="list-style-type: none"> ・ みどりの保全と創出 28.1 ・ 地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり 26.3 ・ 鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 24.6 ・ 青少年の健全育成 22.8 ・ 交通安全対策 21.6
		50 歳代			<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援 26.3 ・ 災害に強い安全なまちづくり 23.4 ・ 窓口サービス等の利便性の向上 21.9
		60 歳代		・ 子育て支援 32.0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青少年の健全育成 24.6 ・ 災害に強い安全なまちづくり 23.8 ・ みどりの保全と創出 20.5
		70歳以上			<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援 29.9 ・ みどりの保全と創出 21.6

次に、要望の大きさを、比率に応じてAA（50%以上）、A（40～50%未満）、B（30～40%未満）、C（20～30%未満）の4つのランクに分けて、地区別、性別、性・年代別に分類した。その結果が表1-10-2である。

地区別にみると、各地区ともにAAランク、Aランクに入る施策はない。

Bランク以下をみると、「みどりの保全と創出」はⅢ地区（〒178）でBランク、Ⅱ地区（〒177）でCランクになっている。

性別にみると、男女ともにAAランク、Aランク、Bランクに入る施策はない。

「みどりの保全と創出」「青少年の健全育成」は男女ともにCランクになっている。

性・年代別にみると、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」は女性30歳代でAランク、男性30歳代でBランク、男性20歳代と40歳代、女性20歳代と40歳代でCランクになっている。

「みどりの保全と創出」は男性40歳代でBランク、男性20歳代と30歳代と50歳代と60歳代、女性は50歳代を除くすべての年代でCランクになっている。

「青少年の健全育成」は男性30歳代でBランク、男性20歳代と40歳代と60歳代、女性20歳代と30歳代と40歳代と60歳代でCランクになっている。

「子育て支援」は女性60歳代でBランク、男性20歳代と50歳代と60歳代、女性50歳代と70歳以上でCランクになっている。

「窓口サービス等の利便性の向上」は男性40歳代と50歳代、女性20歳代と30歳代と50歳代でCランクになっている。

「地域防災力の向上、安全・安心な地域づくり」は男性20歳代と50歳代、女性40歳代でCランクになっている。

「交通安全対策」は男性20歳代、女性30歳代と40歳代でCランクになっている。

「災害に強い安全なまちづくり」は女性50歳代と60歳代でCランクになっている。

このほか、「健康づくりの推進」は男性20歳代でCランクになっている。（表1-10-2）

施策への要望（住みよい—満足度評価）

練馬区の住みごころ（問2・63ページ参照）の評価は、28項目の区施策への満足度（問9・92～94ページ参照）および施策への要望（問10・104ページ参照）とどのような関係があるのかをみる。

練馬区が「住みよい」と答えた方（496人）の区政策への満足度（問9）をみると、「満足」および「どちらかといえば満足」の2項目を合わせた『満足評価』と、「不満」および「どちらかといえば不満」の2項目を合わせた『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようになっている。（図1-10-2）

『満足評価』上位5項目		『不満評価』上位5項目	
①健康づくりの推進	(84.5%)	①交通安全対策	(45.2%)
②みどりの保全と創出	(83.7%)	②区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり	(39.1%)
③循環型社会づくり	(78.4%)	③エネルギー政策の展開	(35.1%)
④開かれた区政	(75.4%)	④観光の推進	(33.7%)
⑤都市農業の振興と都市農地の保全	(73.6%)	⑤地域環境の保全	(29.8%)

図1-10-2 練馬区の住みごこちが「住みよい」と答えた人の区施策への満足度

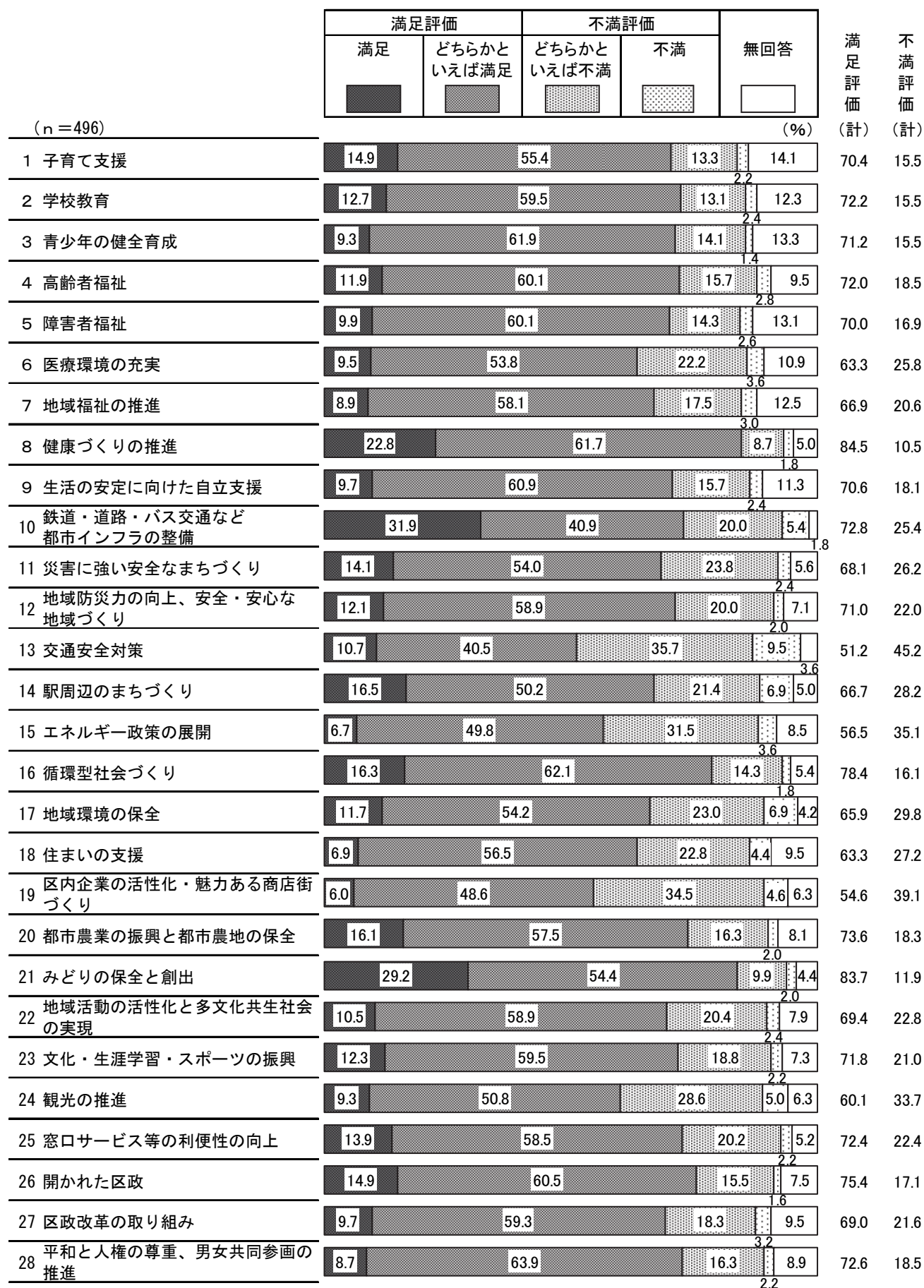
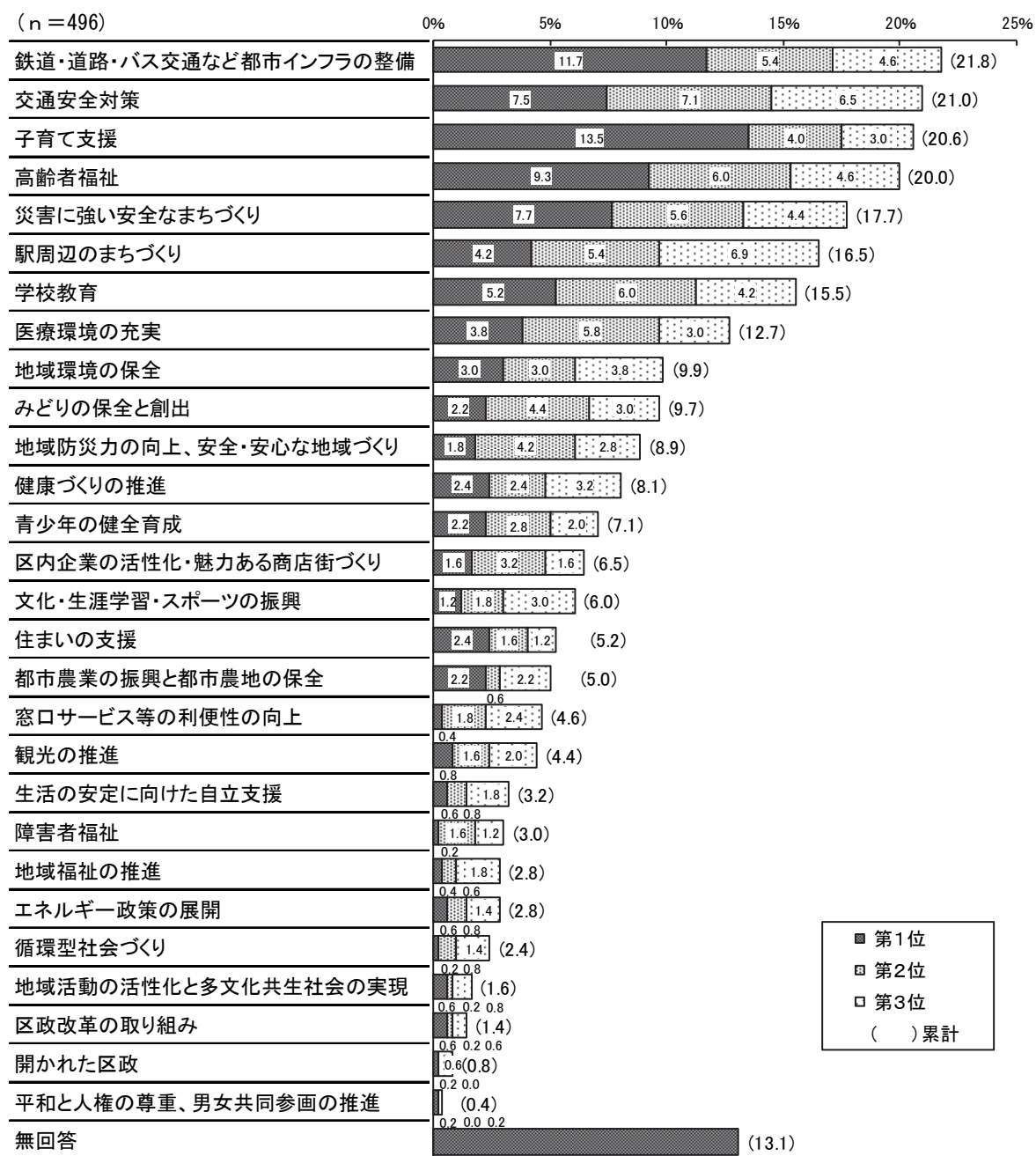


図 1-10-3 練馬区の住みごこちが「住みよい」と答えた人の施策への要望



練馬区が「住みよい」と答えた方(496人)の施策への要望(問10)をみると、第1位から第3位までの累計は、「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」(21.8%)、「交通安全対策」(21.0%)が2割を超えて多く、次いで「子育て支援」(20.6%)、「高齢者福祉」(20.0%)、「災害に強い安全なまちづくり」(17.7%)などの順になっている。(図1-10-3)

施策への要望（住みにくい—満足度評価）

次に、練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方（48人）の区政策への満足度（問9）をみると、『満足評価』と『不満評価』のそれぞれ上位5項目は、以下のようにになっている。

（図1-10-4）

『満足評価』上位5項目	『不満評価』上位5項目
①健康づくりの推進 (41.7%)	①観光の推進 (77.1%)
①循環型社会づくり (41.7%)	②交通安全対策 (75.0%)
③鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備 (37.5%)	③地域活動の活性化と多文化共生社会の実現 (70.8%)
④窓口サービス等の利便性の向上 (33.3%)	④生活の安定に向けた自立支援 (68.8%)
⑤みどりの保全と創出 (31.3%)	④災害に強い安全なまちづくり (68.8%)
	④駅周辺のまちづくり (68.8%)
	④エネルギー政策の展開 (68.8%)
	④区内企業の活性化・魅力ある商店街づくり (68.8%)

図 1-10-4 練馬区の住みごこちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた人の区施策への満足度

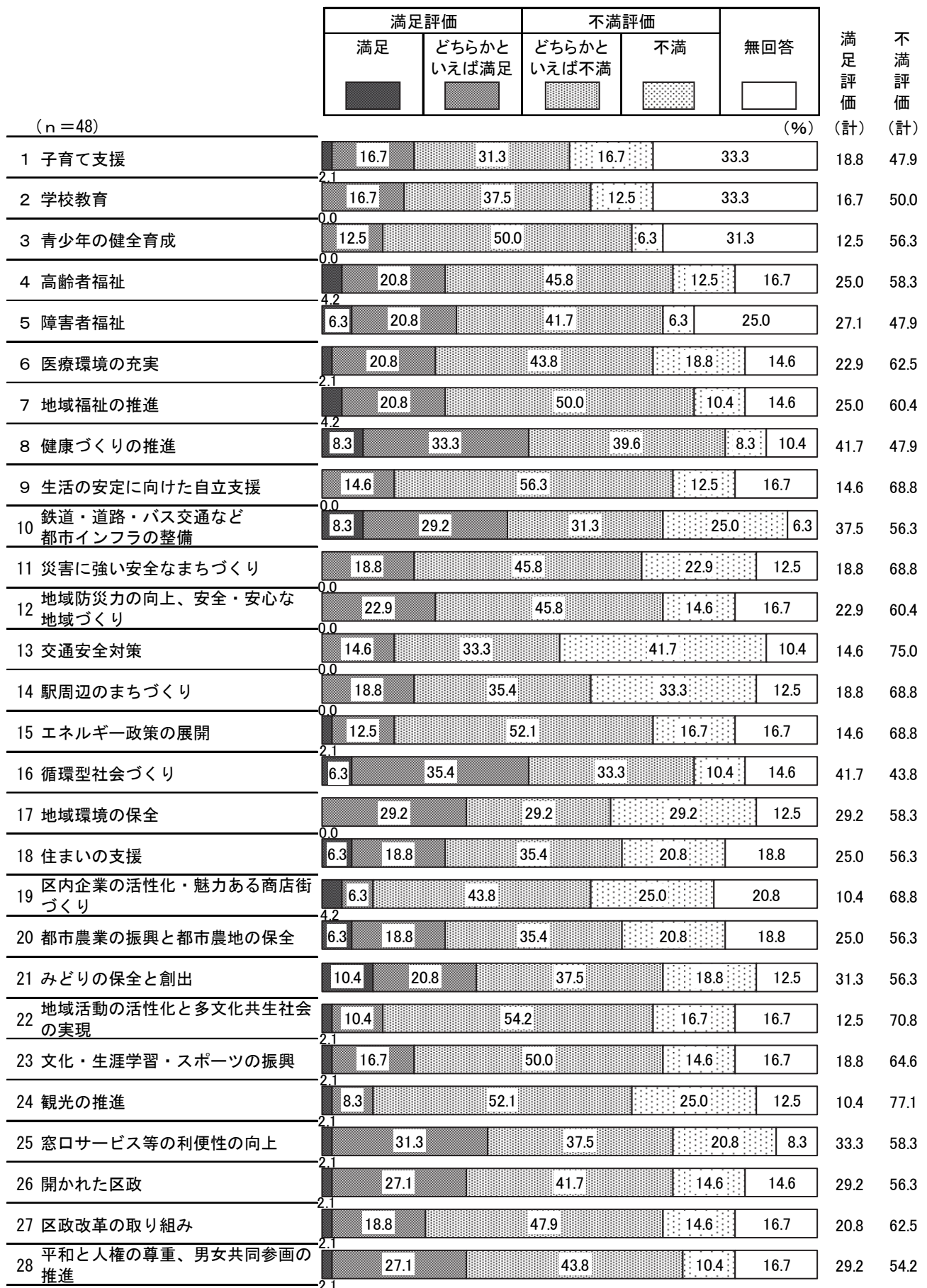
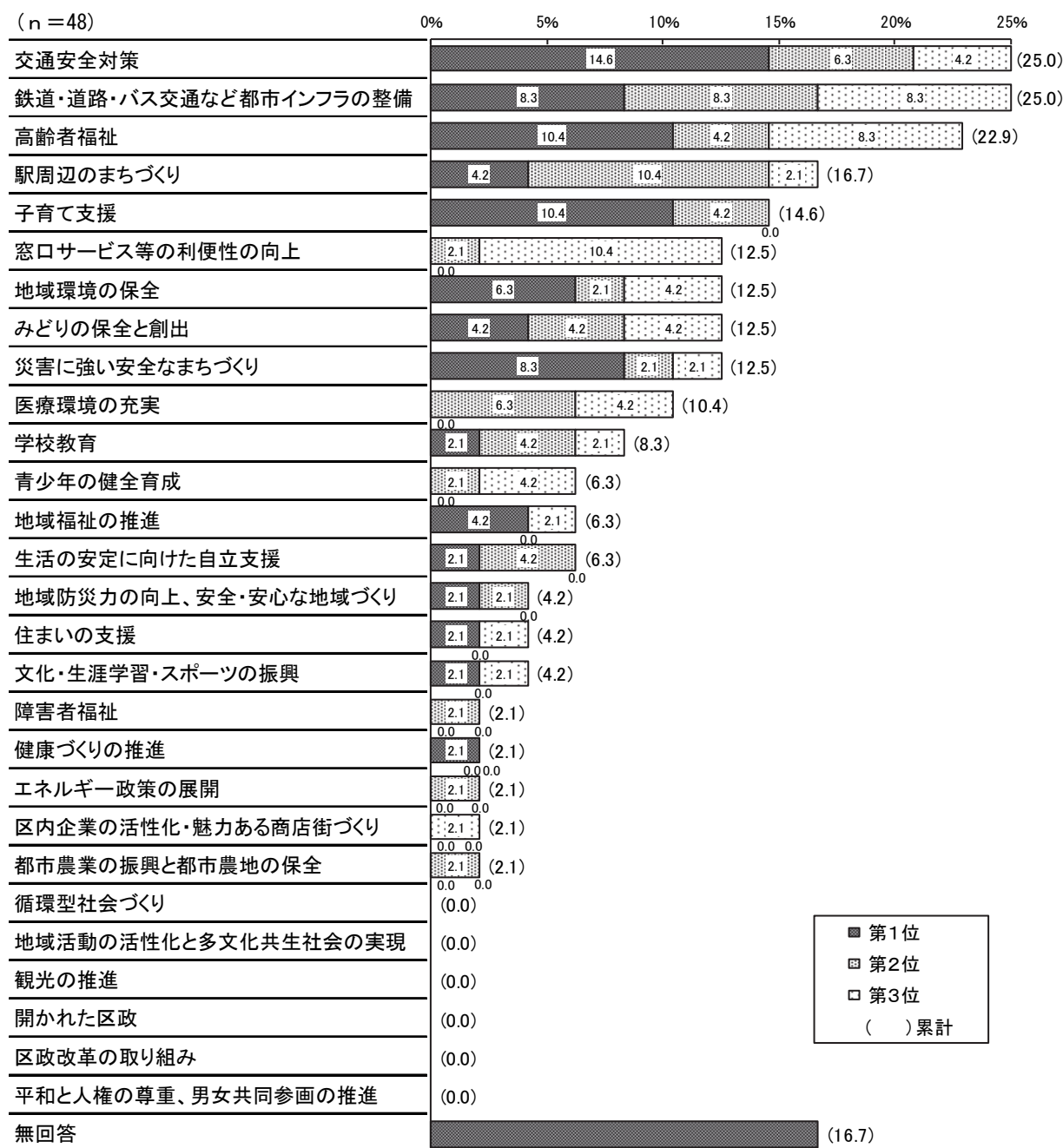


図1-10-5 練馬区の住みごこちが「あまり住みよくない」「住みにくい」と答えた人の施策への要望



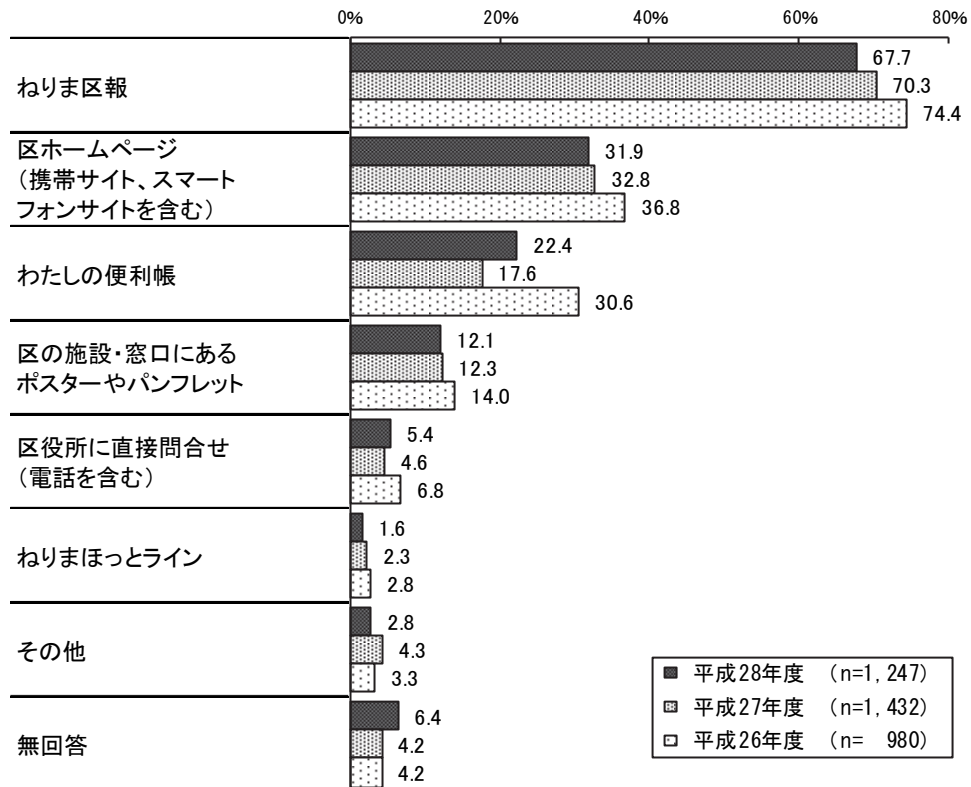
練馬区が「あまり住みよくない」または「住みにくい」と答えた方（48人）の施策への要望（問9）をみると、第1位から第3位までの累計は、「交通安全対策」「鉄道・道路・バス交通など都市インフラの整備」（ともに25.0%）が2割台半ばで最も多く、次いで「高齢者福祉」（22.9%）、「駅周辺のまちづくり」（16.7%）、「子育て支援」（14.6%）などの順になっている。（図1-10-5）

(11) 区政情報の入手先

◇「ねりま区報」が7割近く

問14 あなたは、区政の情報を主に何から入手していますか。(〇は2つまで)

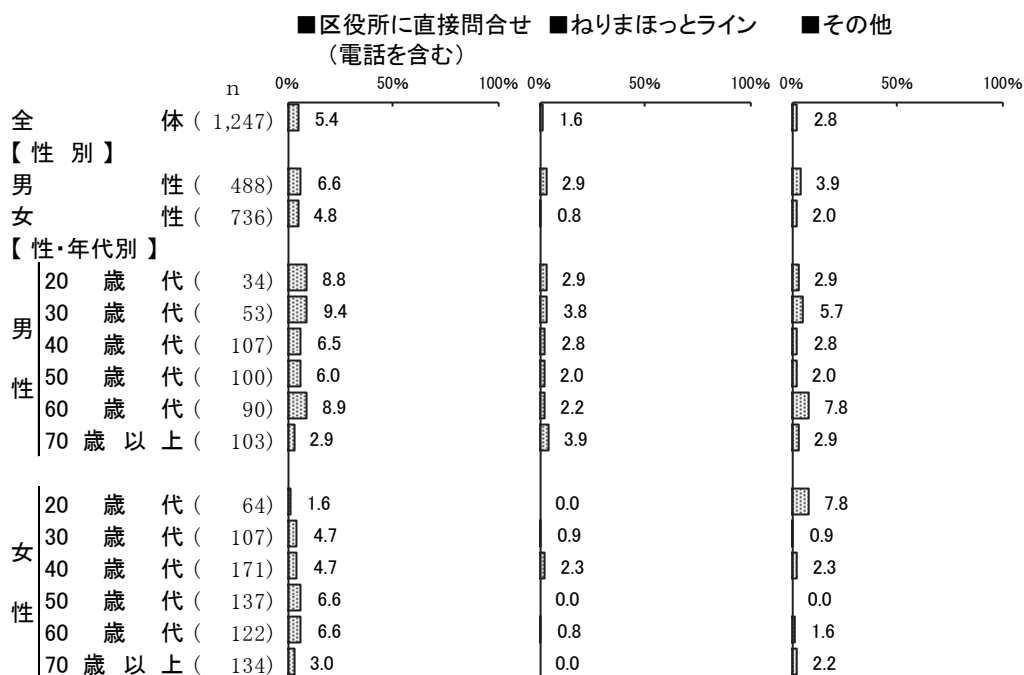
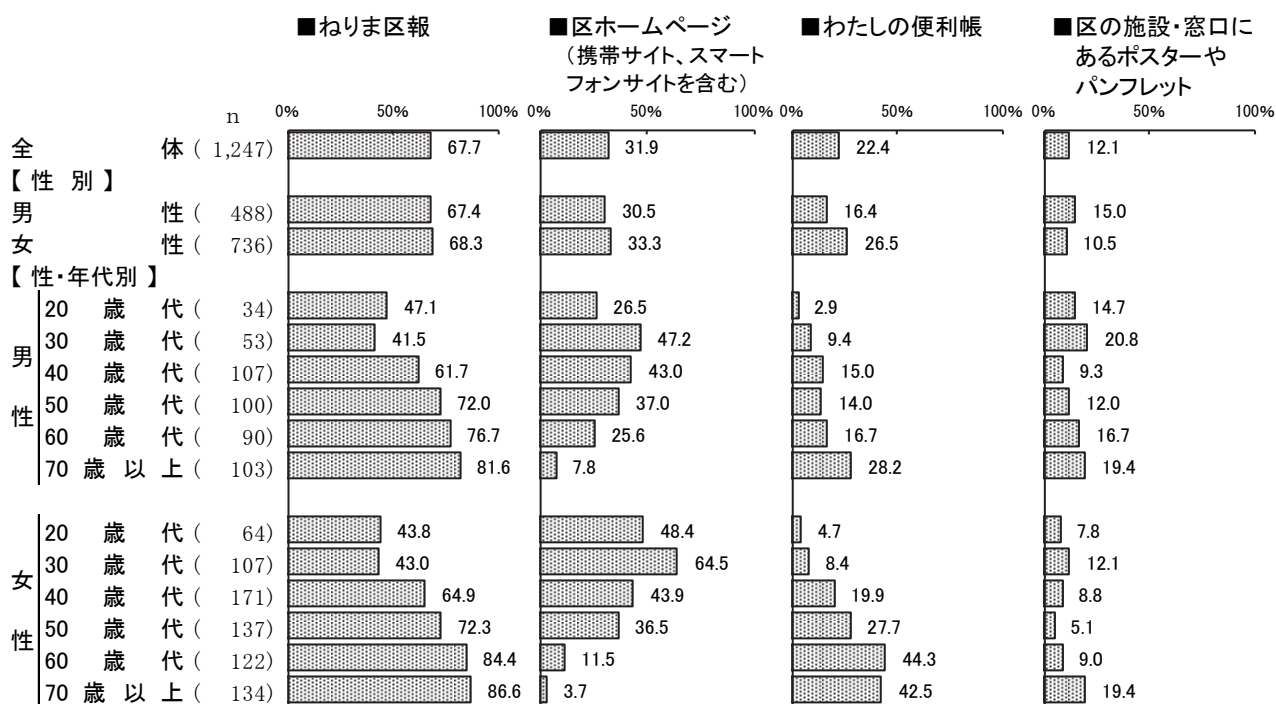
図1-11-1 区政情報の入手先



区政の情報を主に何から入手しているか聞いたところ、「ねりま区報」(67.7%)が7割近くで最も多く、次いで「区ホームページ(携帯サイト、スマートフォンサイトを含む)」(31.9%)、「わたしの便利帳」(22.4%)、「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」(12.1%)などの順になっている。

過去の調査と比較すると、「わたしの便利帳」は前回調査(平成27年度)より4.8ポイント増加している。一方、「ねりま区報」は前回調査(平成27年度)より2.6ポイント減少している。また、「ねりま区報」「区ホームページ(携帯サイト、スマートフォンサイトを含む)」「区の施設・窓口にあるポスターやパンフレット」「ねりまほっとライン」はいずれも2年連続減少している。(図1-11-1)

図 1-11-2 区政情報の入手先—性別、性・年代別

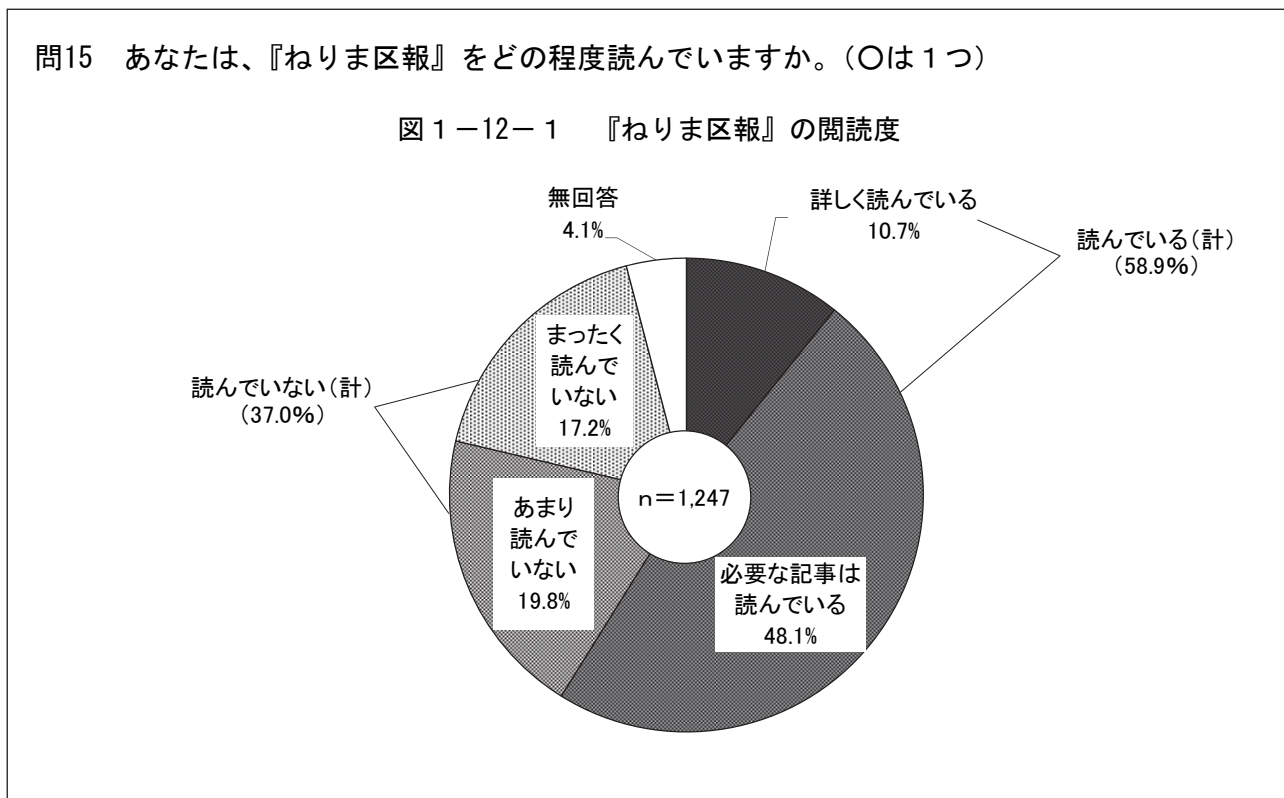


性別にみると、「わたしの便利帳」は女性の方が10.1ポイント高く、2割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、「ねりま区報」は男女ともに30歳代を除き年代が上がるほど割合が高くなる傾向がみられる。(図1-11-2)

(12) 『ねりま区報』の閲読度

◇『読んでいる』が6割近く



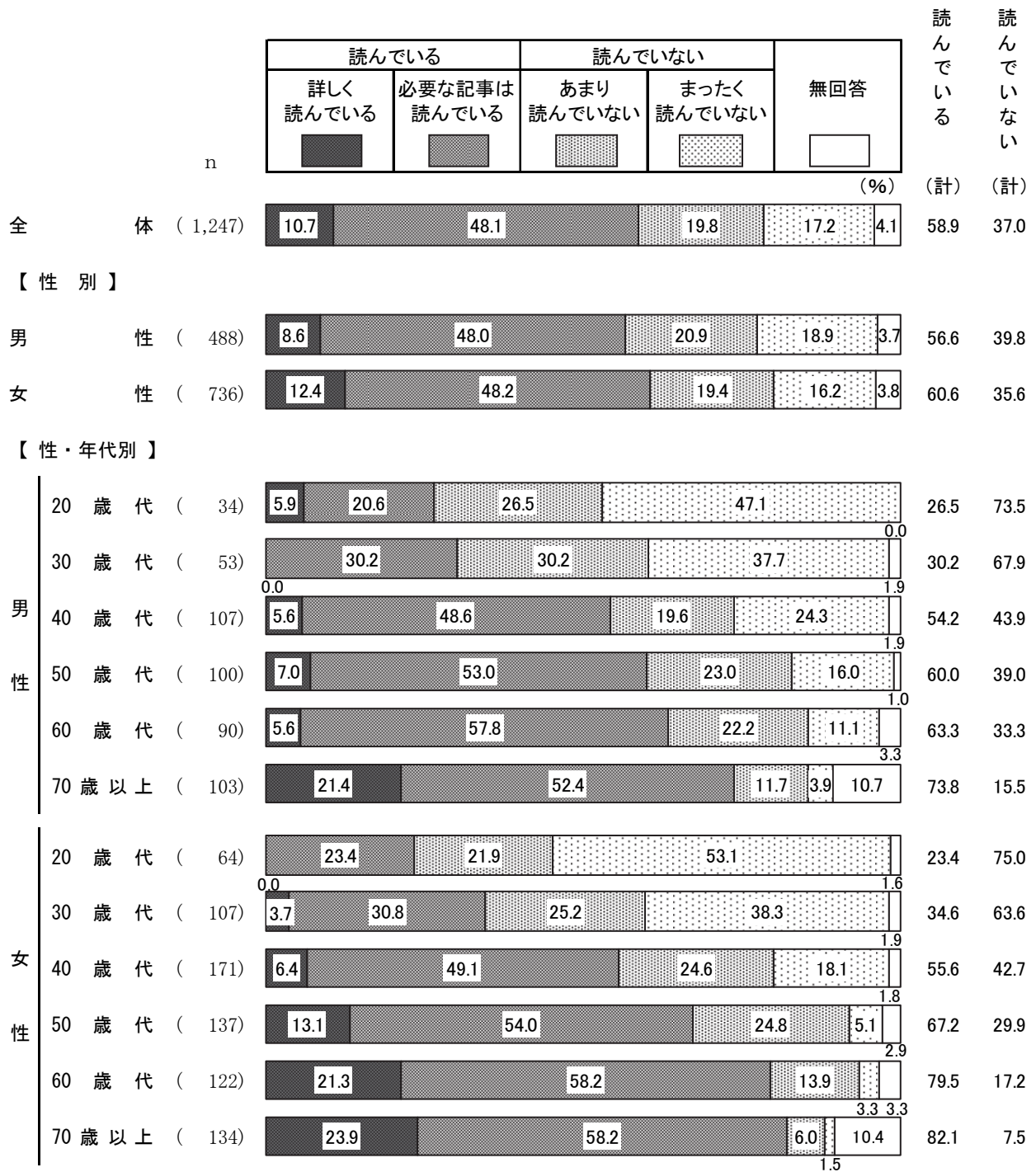
『ねりま区報』をどの程度読んでいるか聞いたところ、「詳しく読んでいる」(10.7%)と「必要な記事は読んでいる」(48.1%)を合わせた『読んでいる』(58.9%)が6割近くとなっている。一方、「あまり読んでいない」(19.8%)と「まったく読んでいない」(17.2%)を合わせた『読んでいない』(37.0%)は4割近くとなっている。(図1-12-1)

図1-12-2 『ねりま区報』の閲読度—過年度比較

n	読んでいる		読んでいない		無回答	読んでいる (計)	読んでいない (計)
	詳しく読んでいる	必要な記事は読んでいる	あまり読んでいない	まったく読んでいない			
						(%)	(計)
平成28年度 (1,247)	10.7	48.1	19.8	17.2	4.1	58.9	37.0
平成27年度 (1,432)	10.9	49.6	19.2	18.5	1.8	60.5	37.7
平成26年度 (980)	13.5	46.6	20.5	14.9	4.5	60.1	35.4
平成25年度 (1,019)	13.7	52.3	18.1	13.8	2.1	66.0	31.9
平成24年度 (1,181)	13.4	49.9	18.3	14.9	3.6	63.3	33.2

過去の調査と比較すると、「詳しく読んでいる」は平成26年度以降3年連続で減少している。『読んでいない』は平成24年度以降3割台を推移している。(図1-12-2)

図1-12-3 『ねりま区報』の読読度—性別、性・年代別

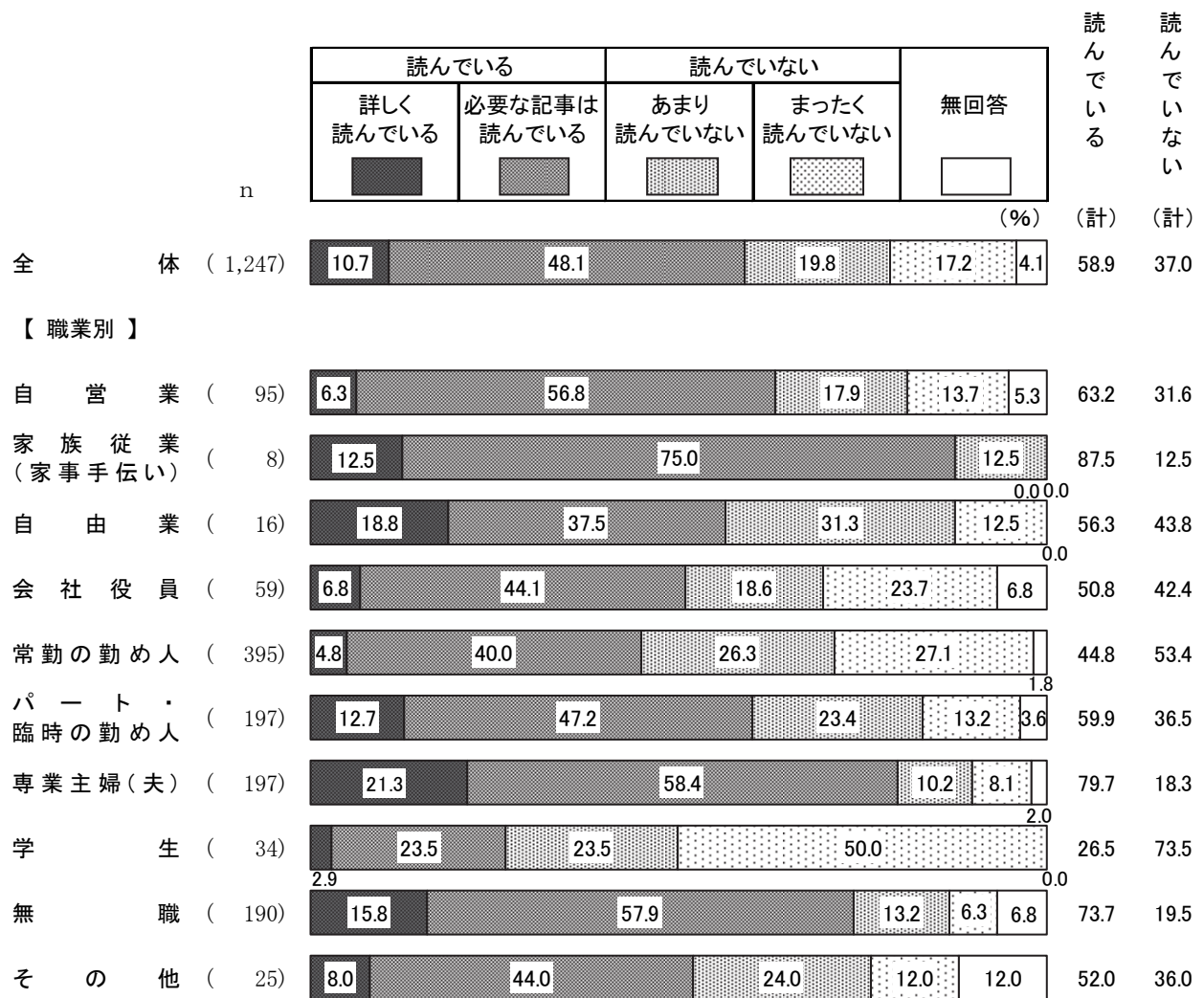


性別にみると、『読んでいる』は女性の方が4.0ポイント高く、約6割となっている。

性・年代別にみると、『読んでいる』は男女ともに年代が上がるほど割合が高くなり、女性70歳以上では8割を超えている。『読んでいない』は男女ともに20歳代で7割台と多くなっている。

(図1-12-3)

図 1-12-4 『ねりま区報』の閲読度-職業別

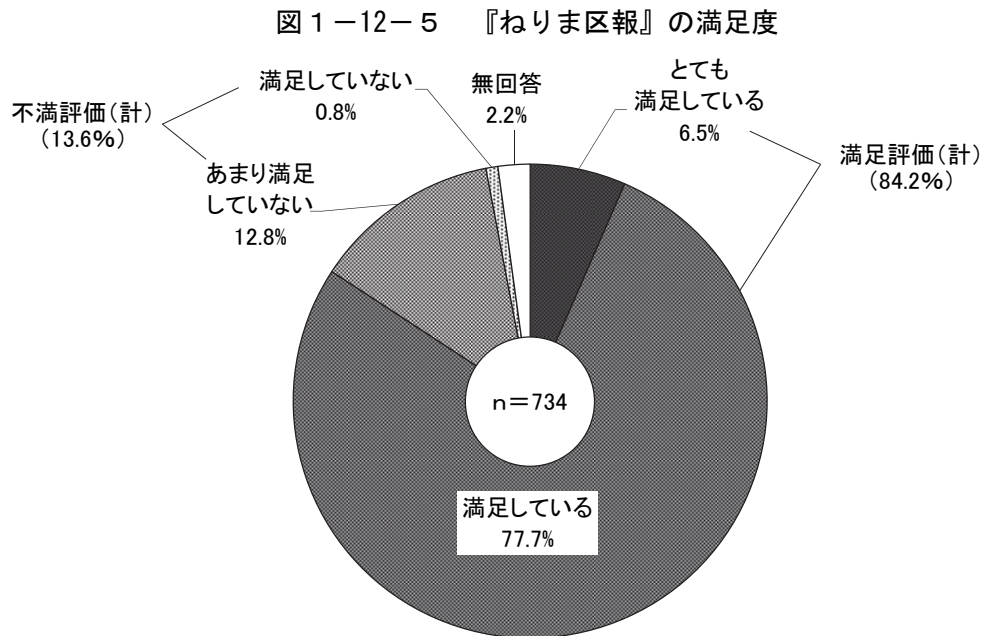


職業別にみると、『読んでいる』は専業主婦（夫）で約8割と多くなっている。一方、『読んでいない』は学生で7割を超え多くなっている。（図1-12-4）

(12-1) 『ねりま区報』の満足度

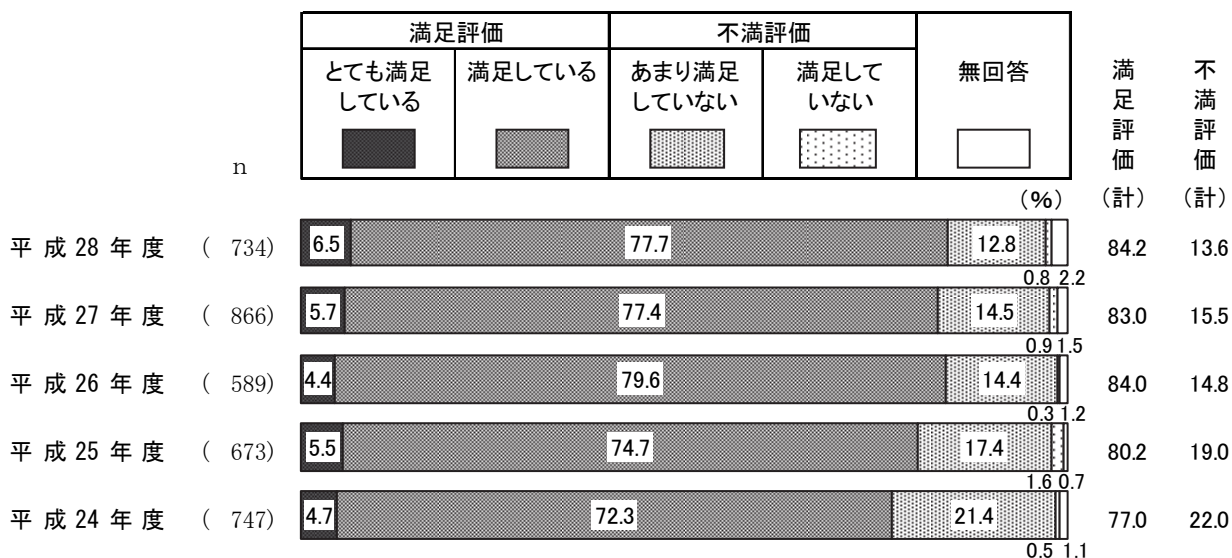
◇『満足評価』が8割台半ば

(問15で「1 詳しく読んでいる」または「2 必要な記事は読んでいる」と答えた方へ)
問15-1 あなたは、『ねりま区報』にどの程度満足していますか。(○は1つ)



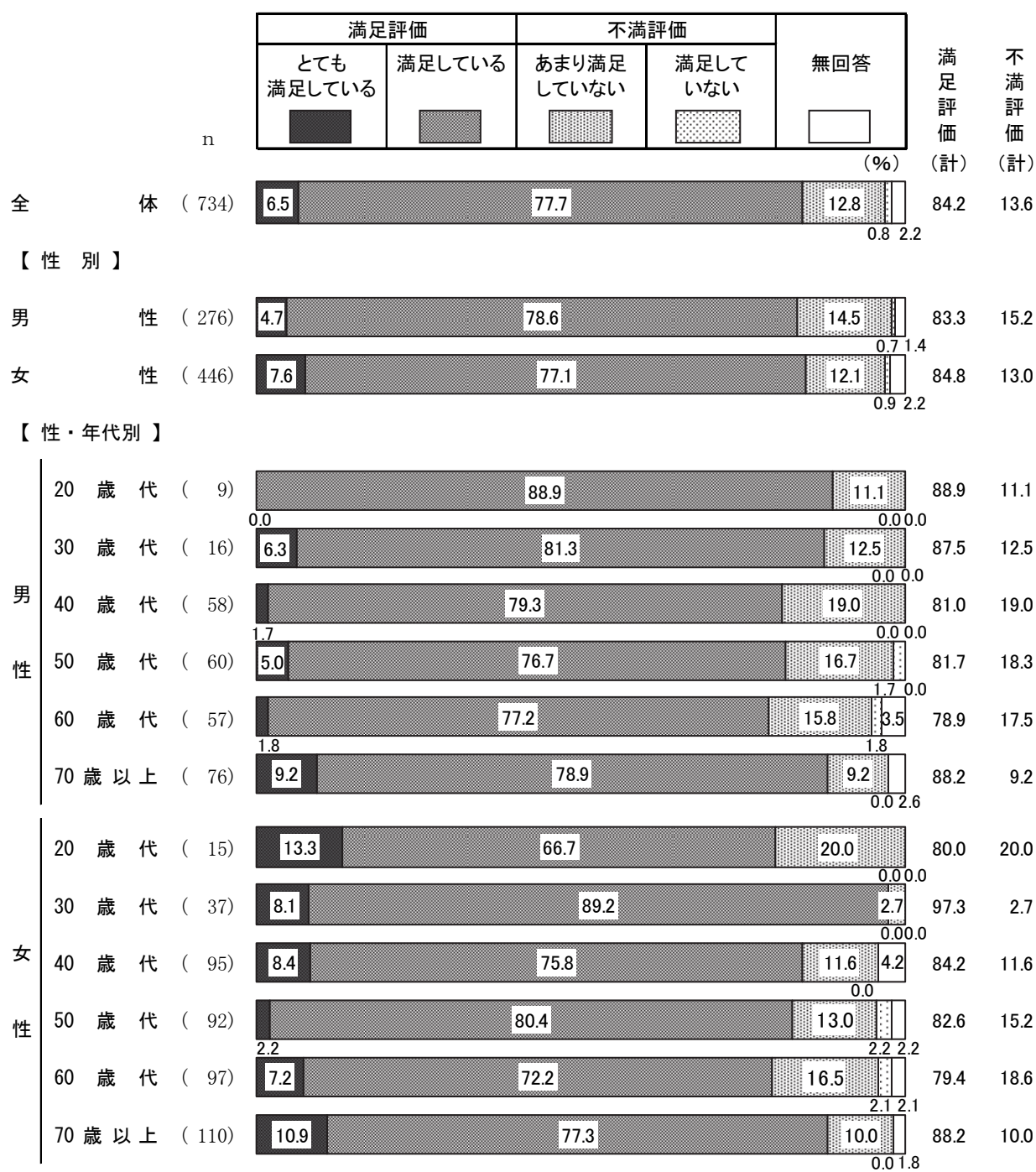
『ねりま区報』を「詳しく読んでいる」または「必要な記事は読んでいる」と答えた方(734人)に、『ねりま区報』にどの程度満足しているか聞いたところ、「とても満足している」(6.5%)と「満足している」(77.7%)を合わせた『満足評価』(84.2%)が8割台半ばとなっている。一方、「あまり満足していない」(12.8%)と「満足していない」(0.8%)を合わせた『不満評価』(13.6%)は1割を超えている。(図1-12-5)

図1-12-6 『ねりま区報』の満足度—過年度比較



過去の調査と比較すると、『満足評価』は平成25年度以降8割台前半で推移しており、大きな傾向の違いはみられない。(図1-12-6)

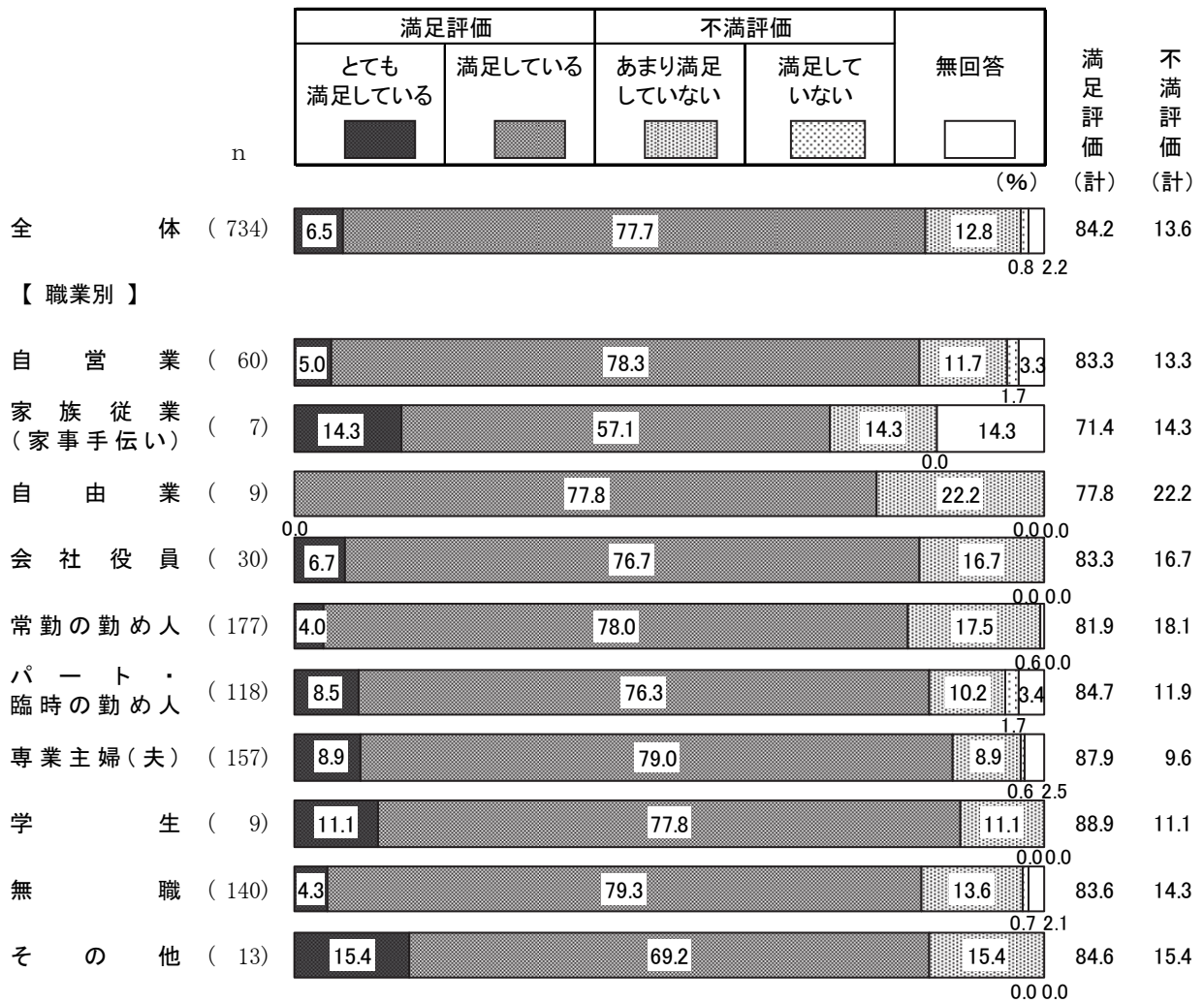
図 1-12-7 『ねりま区報』の満足度—性別、性・年代別



性別にみると、『満足評価』は女性の方が1.5ポイント高く、8割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、『満足評価』は女性の30歳代で9割台後半と多くなっている。『不満評価』は男性40歳代で約2割と多くなっている。(図1-12-7)

図 1-12-8 『ねりま区報』の満足度－職業別



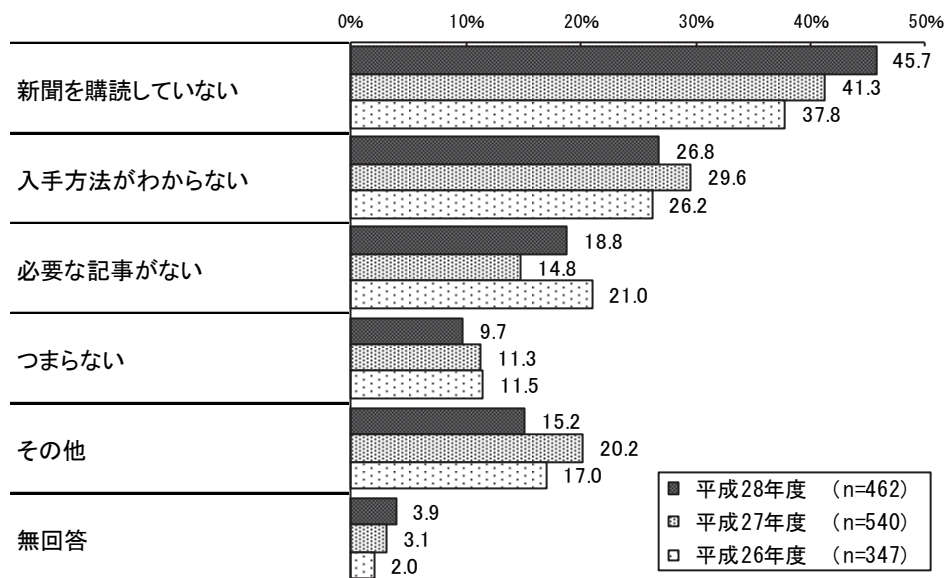
職業別にみると、『満足評価』はいずれも8割台となっている。一方、『不満評価』は専業主婦（夫）を除くすべての職業で1割台となっている。（図1-12-8）

(12-2) 『ねりま区報』 を読んでいない理由

◇ 「新聞を購読していない」 が4割台半ば

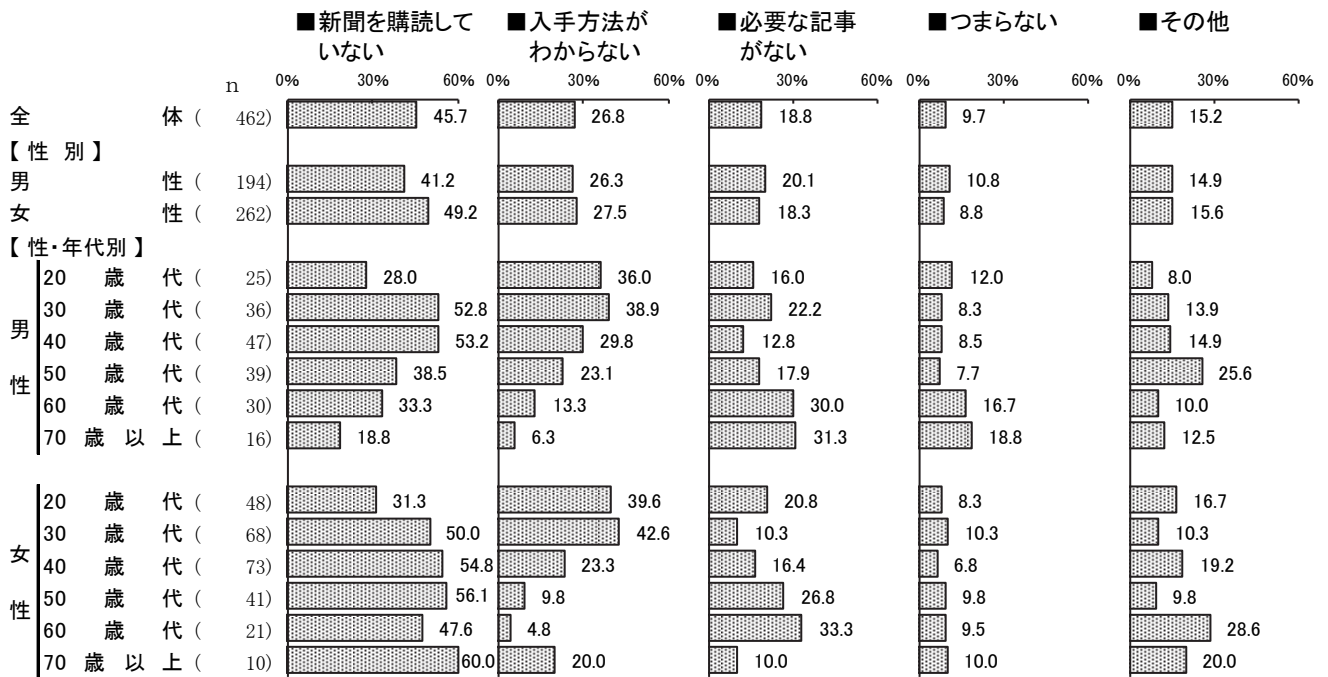
(問15で「3 あまり読んでいない」または「4 まったく読んでいない」と答えた方へ)
問15-2 あなたが、『ねりま区報』 を読んでいない理由は何ですか。(○はいくつでも)

図1-12-9 『ねりま区報』 を読んでいない理由



『ねりま区報』を「あまり読んでいない」または「まったく読んでいない」と答えた方(462人)に、その理由を聞いたところ、「新聞を購読していない」(45.7%)が4割台半ばで最も多く、次いで「入手方法がわからない」(26.8%)、「必要な記事がない」(18.8%)、「つまらない」(9.7%)の順になっている。(図1-12-9)

図 1-12-10 『ねりま区報』を読んでいない理由—性別、性・年代別



性別にみると、「新聞を購読していない」は女性の方が8.0ポイント高く、約5割となっている。

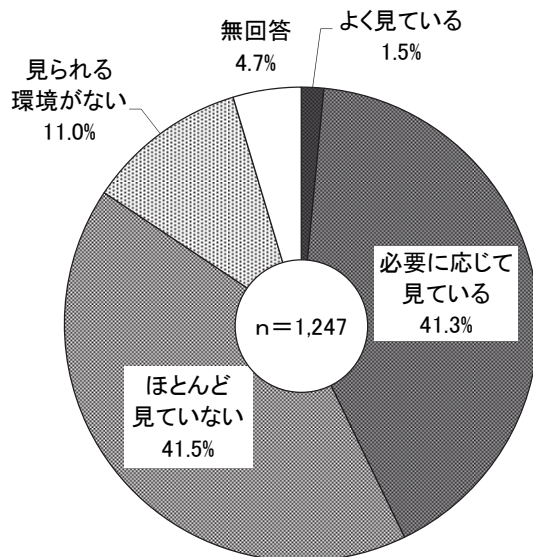
性・年代別にみると、「新聞を購読していない」は女性40歳代と50歳代で5割台半ば、男性30歳代と40歳代で5割を超え多くなっている。「入手方法がわからない」は、女性30歳代で4割を超え多くなっている。「必要な記事がない」は男性60歳代で3割と多くなっている。(図1-12-10)

(13) 『区ホームページ』の閲覧度

◇「ほとんど見ていない」「必要に応じて見ている」が4割を超える

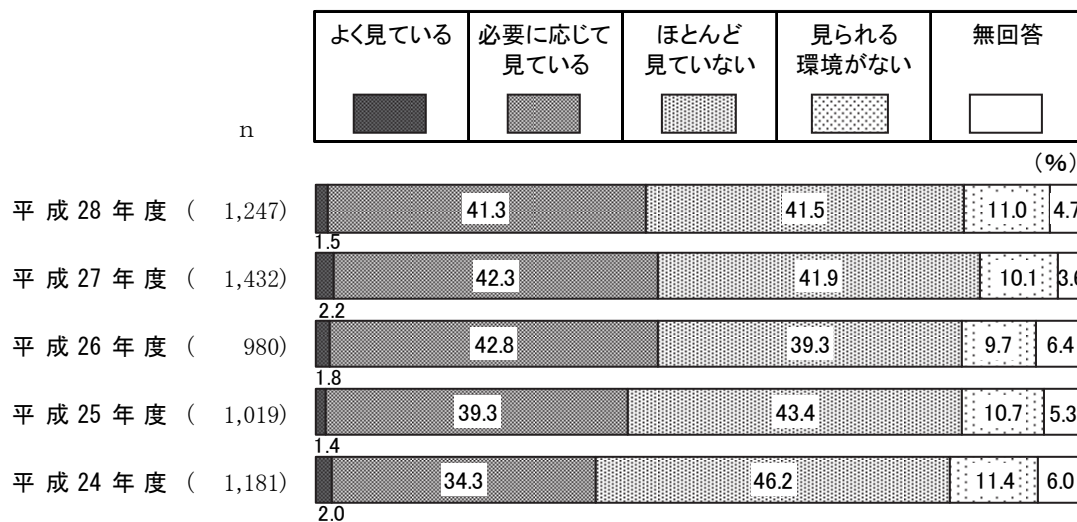
問16 あなたは、『区ホームページ』をどの程度閲覧していますか。(○は1つ)

図1-13-1 『区ホームページ』の閲覧度



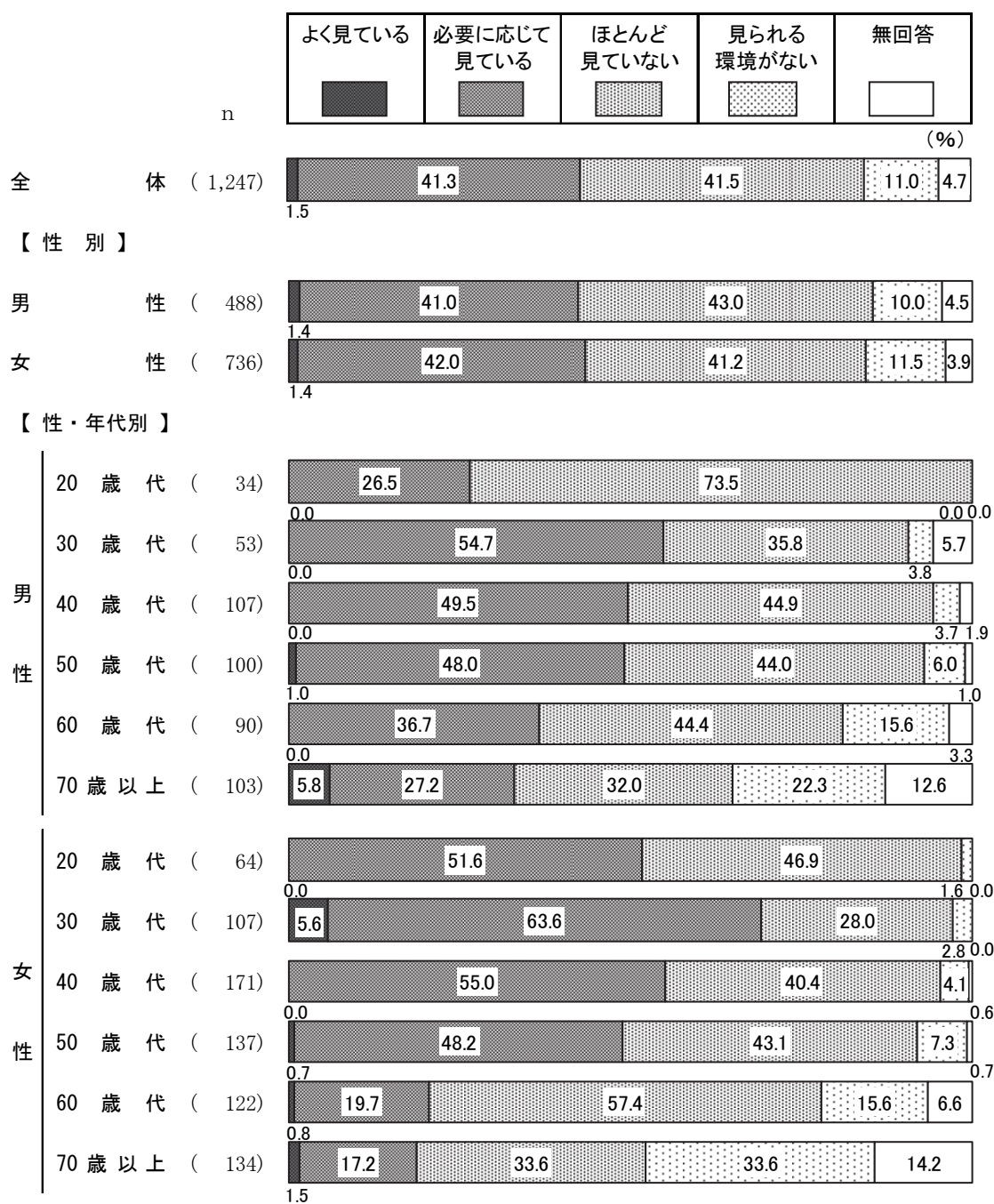
『区ホームページ』をどの程度閲覧しているか聞いたところ、「ほとんど見ていない」(41.5%)、「必要に応じて見ている」(41.3%)が4割を超えている。「見られる環境がない」(11.0%)は1割を超えるにとどまっている。(図1-13-1)

図1-13-2 『区ホームページ』の閲覧度－過年度比較



過去の調査と比較すると、前回調査(平成27年度)とほぼ同様の傾向となっている。(図1-13-2)

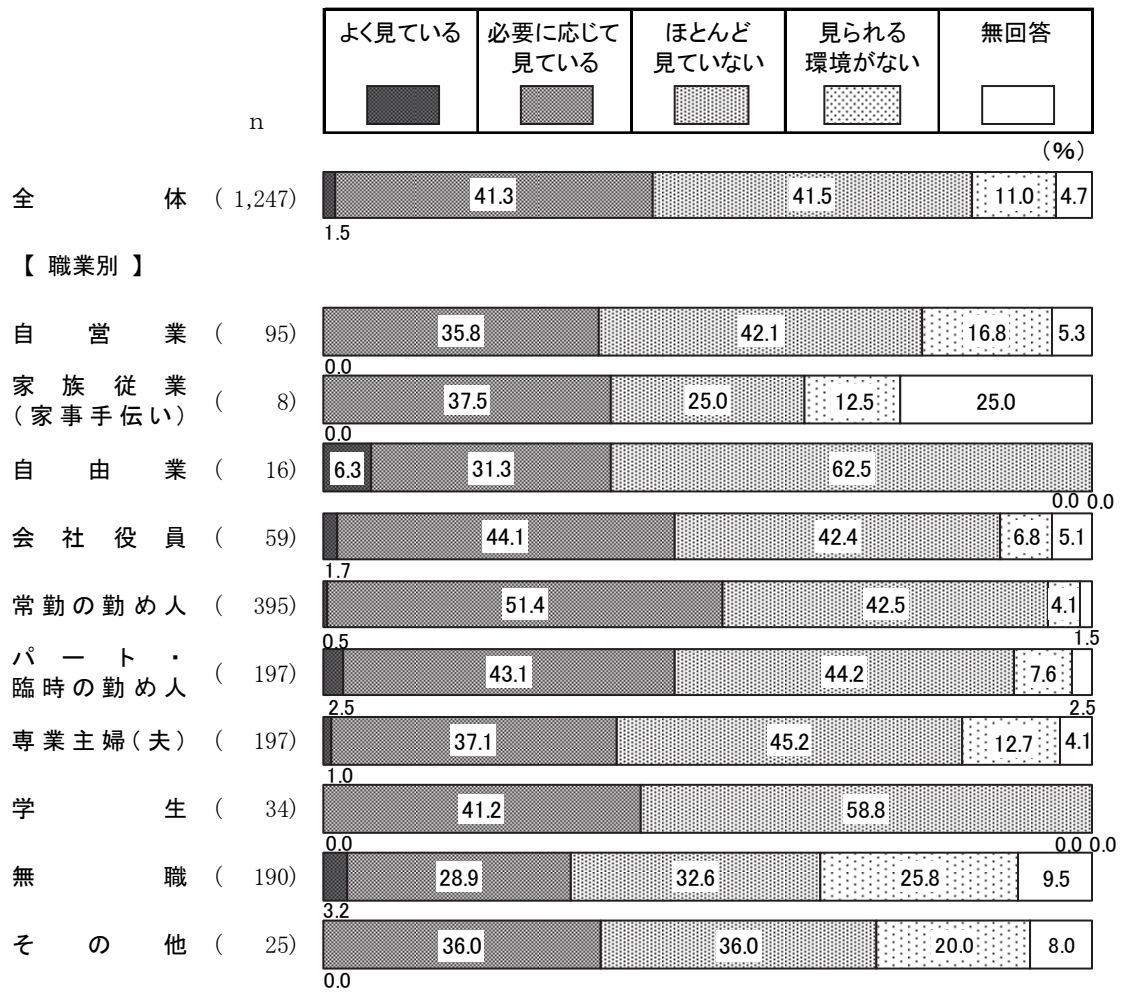
図1-13-3 『区ホームページ』の閲覧度—性別、性・年代別



性別にみると、大きな傾向の違いはみられない。

性・年代別にみると、「必要に応じて見ている」は女性30歳代で6割を超えて多くなっている。「ほとんど見ていない」は男性20歳代で7割を超えて多くなっている。「見られる環境がない」は女性70歳以上で3割を超えて多くなっている。(図1-13-3)

図 1-13-4 『区ホームページ』の閲覧度—職業別



職業別にみると、「必要に応じて見ている」は常勤の勤め人で5割を超え多くなっている。「ほとんど見ていない」は学生で6割近くと多くなっている。「見られる環境がない」は無職で2割台半ばと多くなっている。(図 1-13-4)

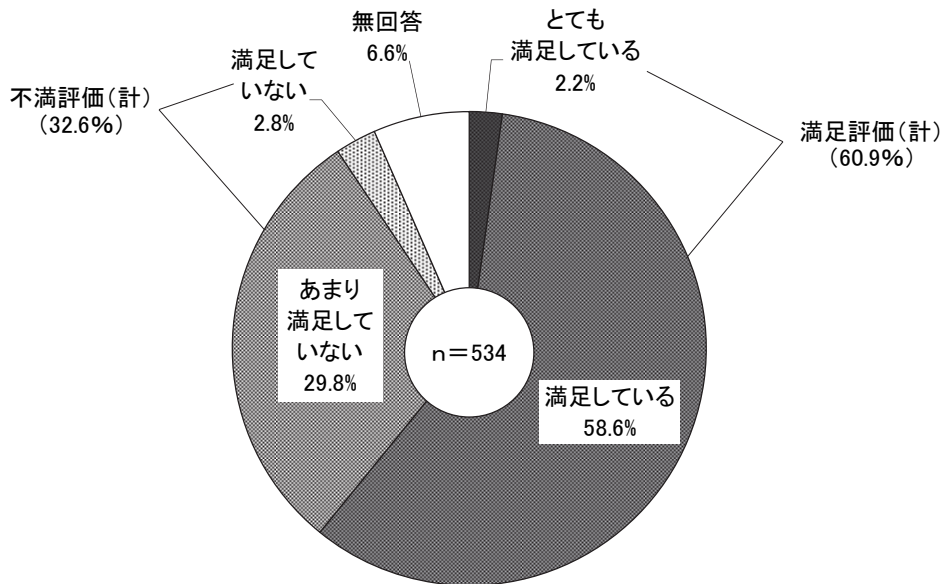
(13-1) 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさ

◇『満足評価』が約6割

(問16で「1 よく見ている」または「2 必要に応じて見ている」と答えた方へ)

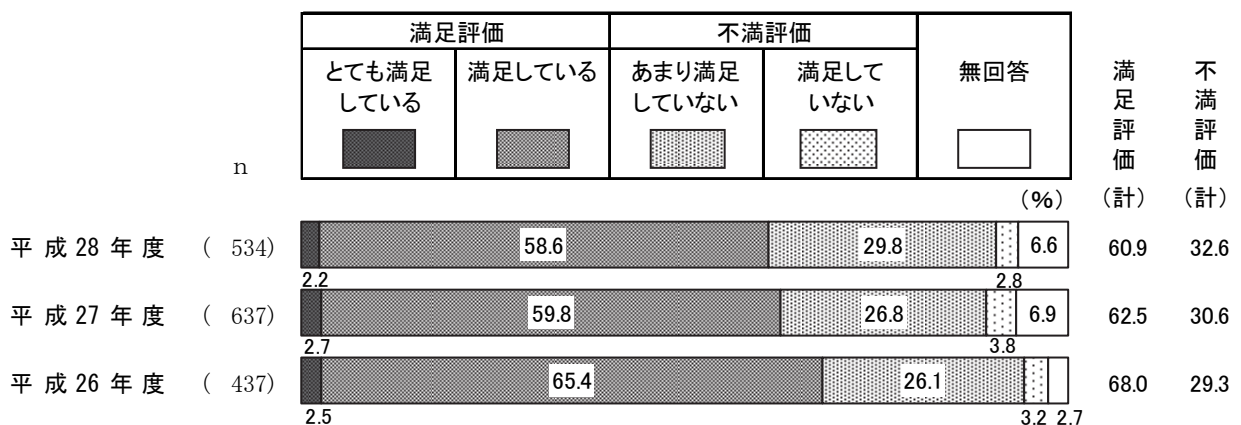
問16-1 『区ホームページ』で閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度はどの程度ですか。(〇は1つ)

図1-13-5 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさ



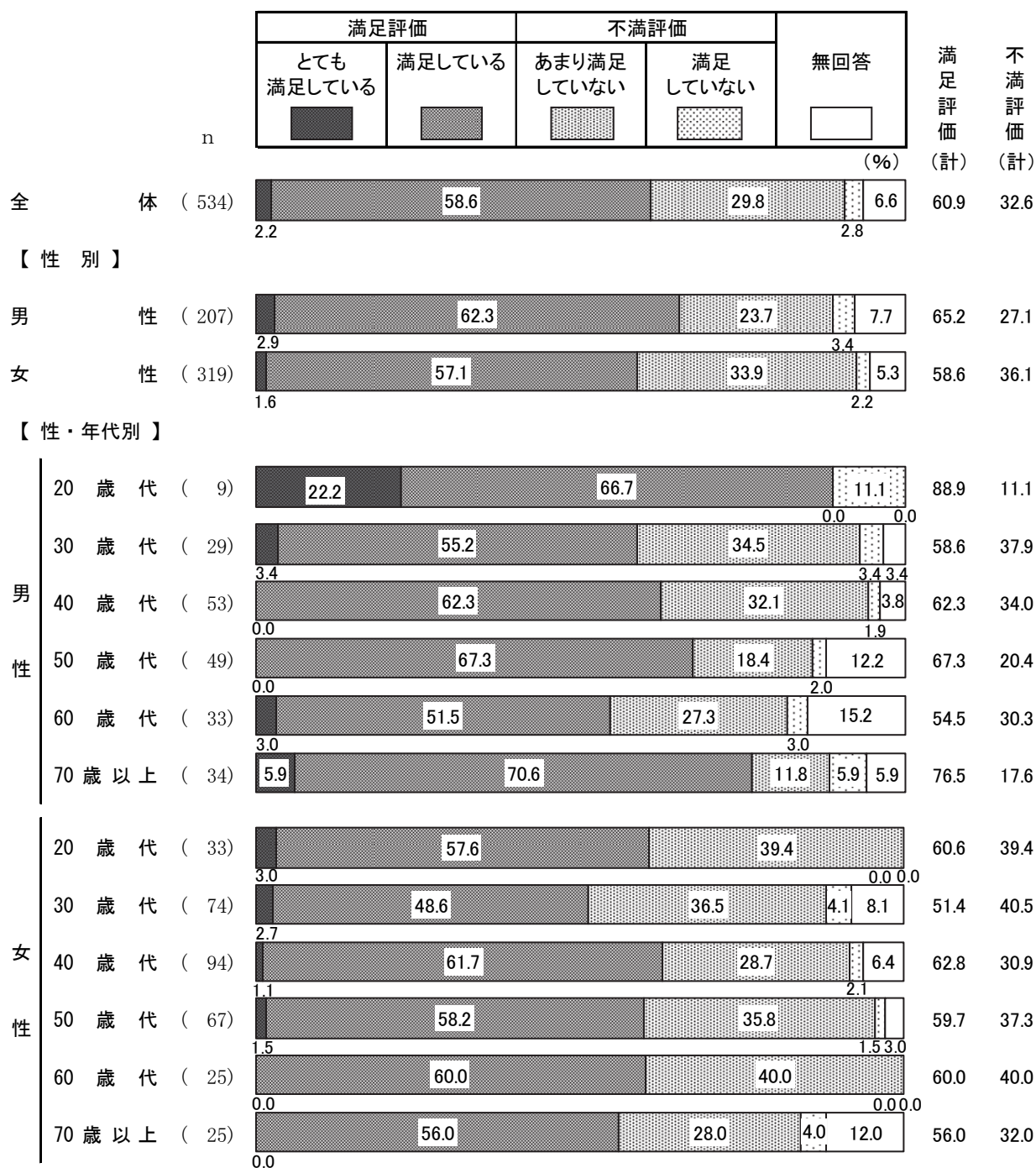
『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方(534人)に、閲覧している情報の見つけやすさ・わかりやすさの満足度を聞いたところ、「とても満足している」(2.2%)と「満足している」(58.6%)を合わせた『満足評価』(60.9%)が約6割となっている。一方、「あまり満足していない」(29.8%)と「満足していない」(2.8%)を合わせた『不満評価』(32.6%)は3割を超えるにとどまっている。(図1-13-5)

図1-13-6 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさ一過年度比較



過去の調査と比較すると、『満足評価』は2年連続減少している。(図1-13-6)

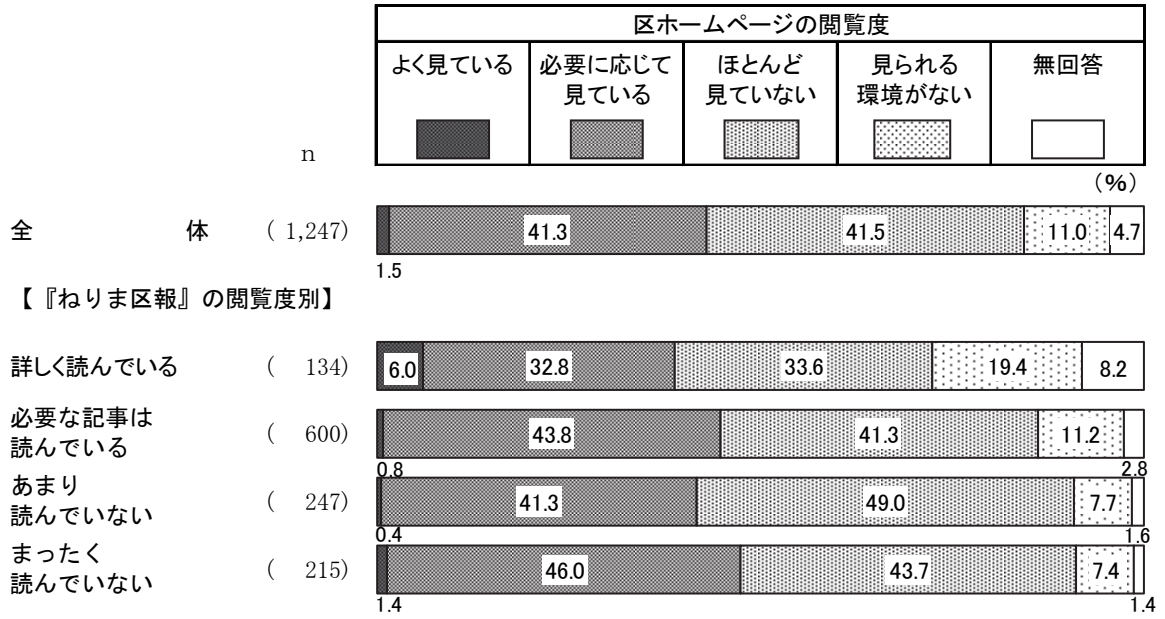
図1-13-7 『区ホームページ』の情報の見つけやすさ・わかりやすさ－性別、性・年代別



性別にみると、『満足評価』は男性の方が6.6ポイント高く、6割台半ばとなっている。

性・年代別にみると、『満足評価』は男性70歳以上で7割台半ばと多くなっている。『不満評価』は女性30歳代と20歳代で約4割と多くなっている。(図1-13-7)

図1-13-8 『区ホームページ』の閲覧度－『ねりま区報』の閲読度別



『区ホームページ』の閲覧度（問16・124ページ参照）について、『ねりま区報』の閲読度（問15・116ページ参照）別にみると、『区ホームページ』を「よく見ている」は『ねりま区報』を詳しく読んでいる人で6.0%と、『ねりま区報』の閲読頻度が低い人に比べて割合が高くなっている。『区ホームページ』を「必要に応じて見ている」と「ほとんど見ていない」は『ねりま区報』を詳しく読んでいる人で3割台、それ以外の閲読度で4割台となっている。「見られる環境がない」は『ねりま区報』を詳しく読んでいる人で約2割と高くなっている。（図1-13-8）

図1-13-9 『区ホームページ』の閲覧度－『ねりま区報』の閲読度別（平成27年度調査の結果）

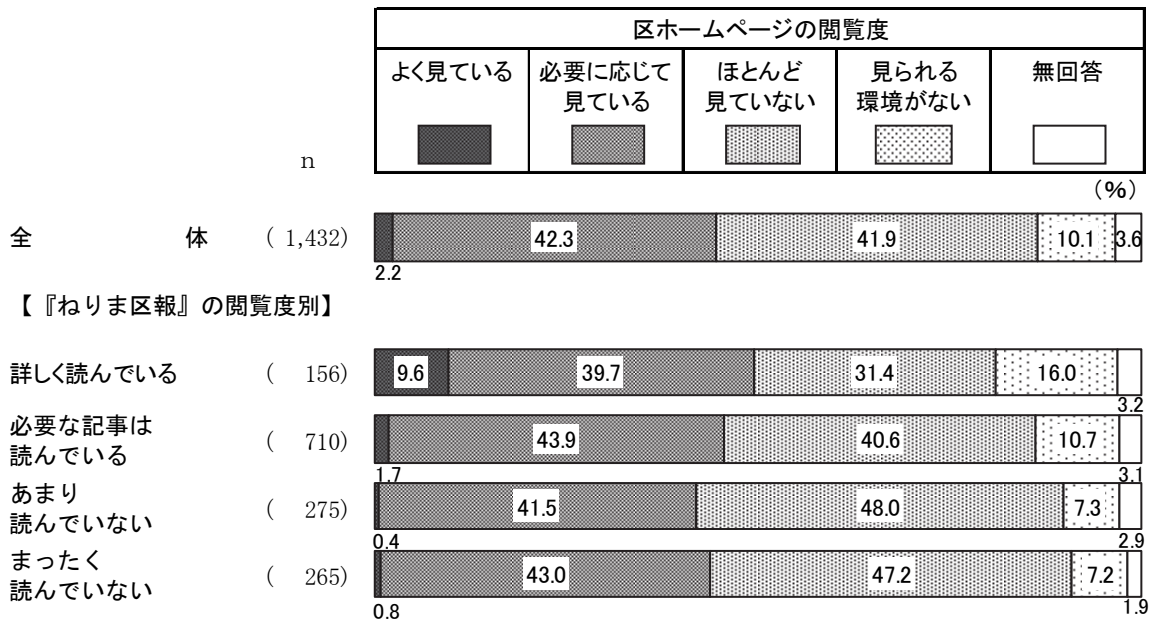
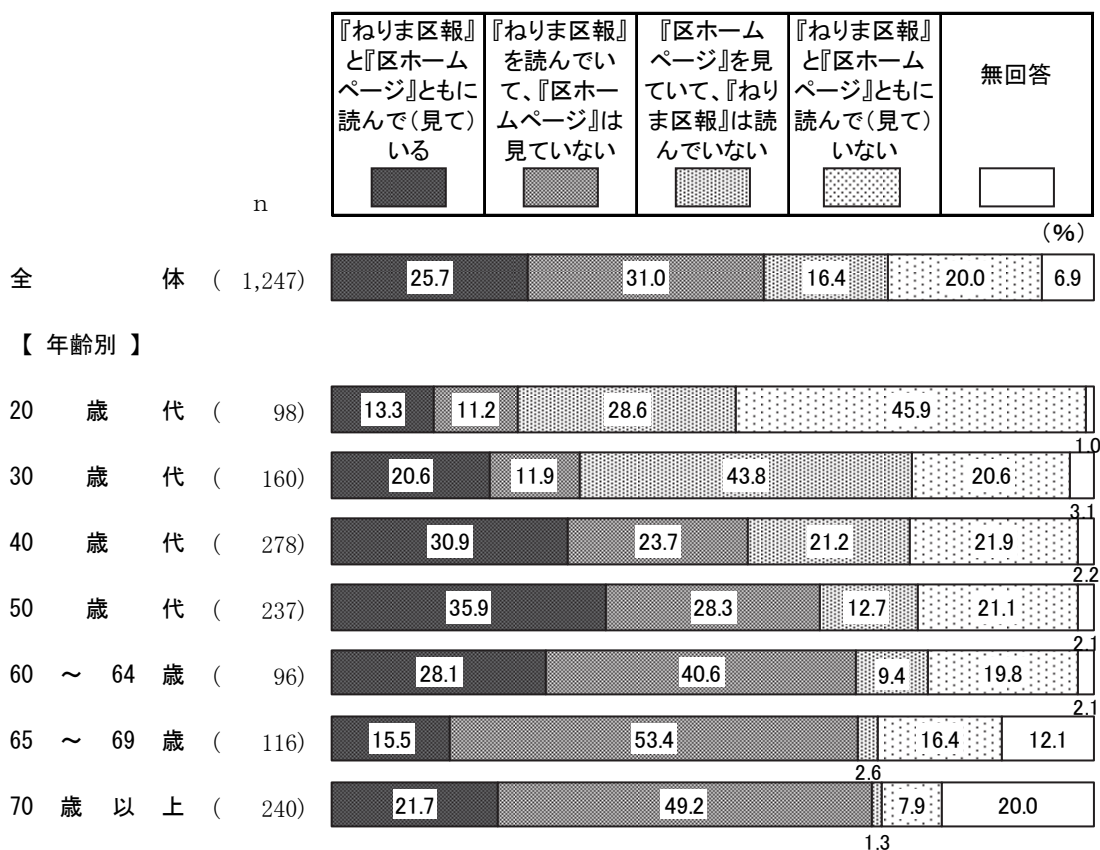


図1-13-10 『ねりま区報』の閲読度と『区ホームページ』の閲覧度一年齢別



『ねりま区報』と『区ホームページ』の2つの広報の手段について、年齢別の接触度をみた。

『ねりま区報』の閲読度（問15・116ページ参照）と『区ホームページ』の閲覧度（問16・124ページ参照）の各回答について、以下の表に示すとおり分類した。

	読んで（見て）いる	読んで（見て）いない
『ねりま区報』の閲読度 （問15・116ページ参照）	「詳しく読んでいる」 「必要な記事は読んでいる」	「あまり読んでいない」 「まったく読んでいない」
『区ホームページ』の閲覧度 （問16・124ページ参照）	「よく見ている」 「必要に応じて見ている」	「ほとんど見ていない」 「見られる環境がない」

『ねりま区報』と『区ホームページ』ともに読んで（見て）いる人は、40歳代と50歳代で3割台と多くなっている。『ねりま区報』を読んでいて、『区ホームページ』は見えていない人は、65～69歳で5割を超え、70歳以上で約5割と多くなっている。『区ホームページ』を見ていて、『ねりま区報』は読んでいない人は、30歳代で4割を超え多くなっている。『ねりま区報』と『区ホームページ』ともに読んで（見て）いない人は、20歳代で4割台半ばと多くなっている。（図1-13-10）

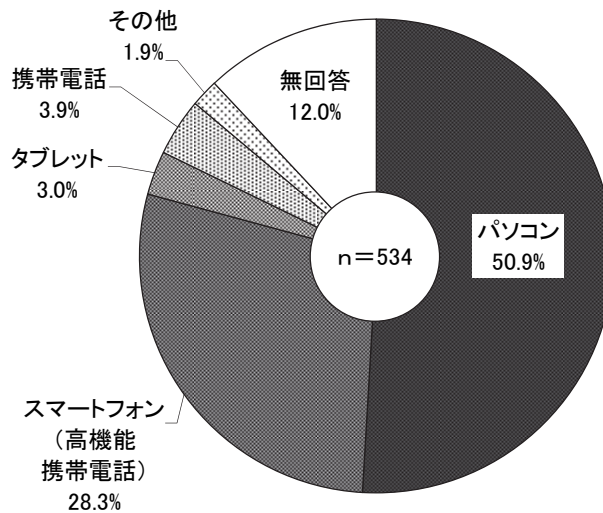
(13-2) 『区ホームページ』を閲覧するときに利用する機器

◇「パソコン」が約5割

(問16で「1 よく見ている」または「2 必要に応じて見ている」と答えた方へ)
問16-2 『区ホームページ』を閲覧する際に、主に利用している機器は何ですか。

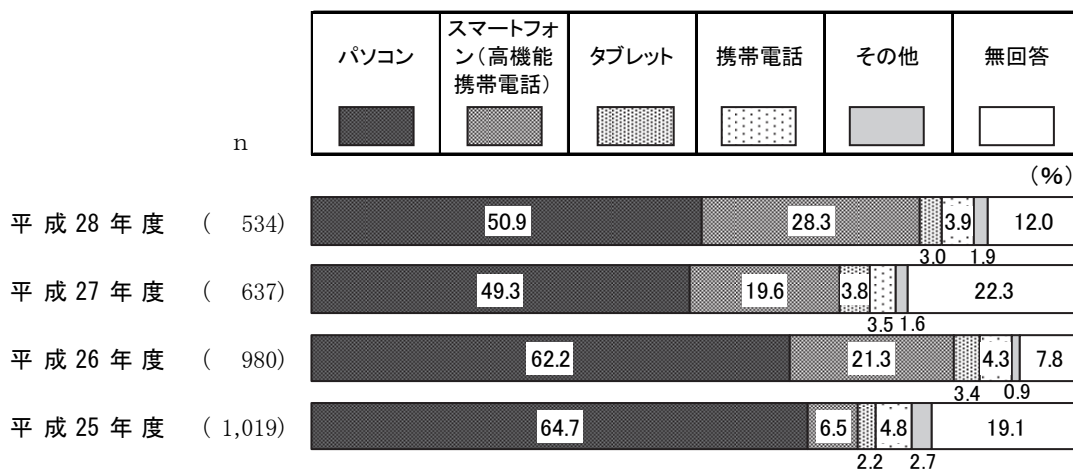
(○は1つ)

図1-13-11 『区ホームページ』を閲覧するときに利用する機器



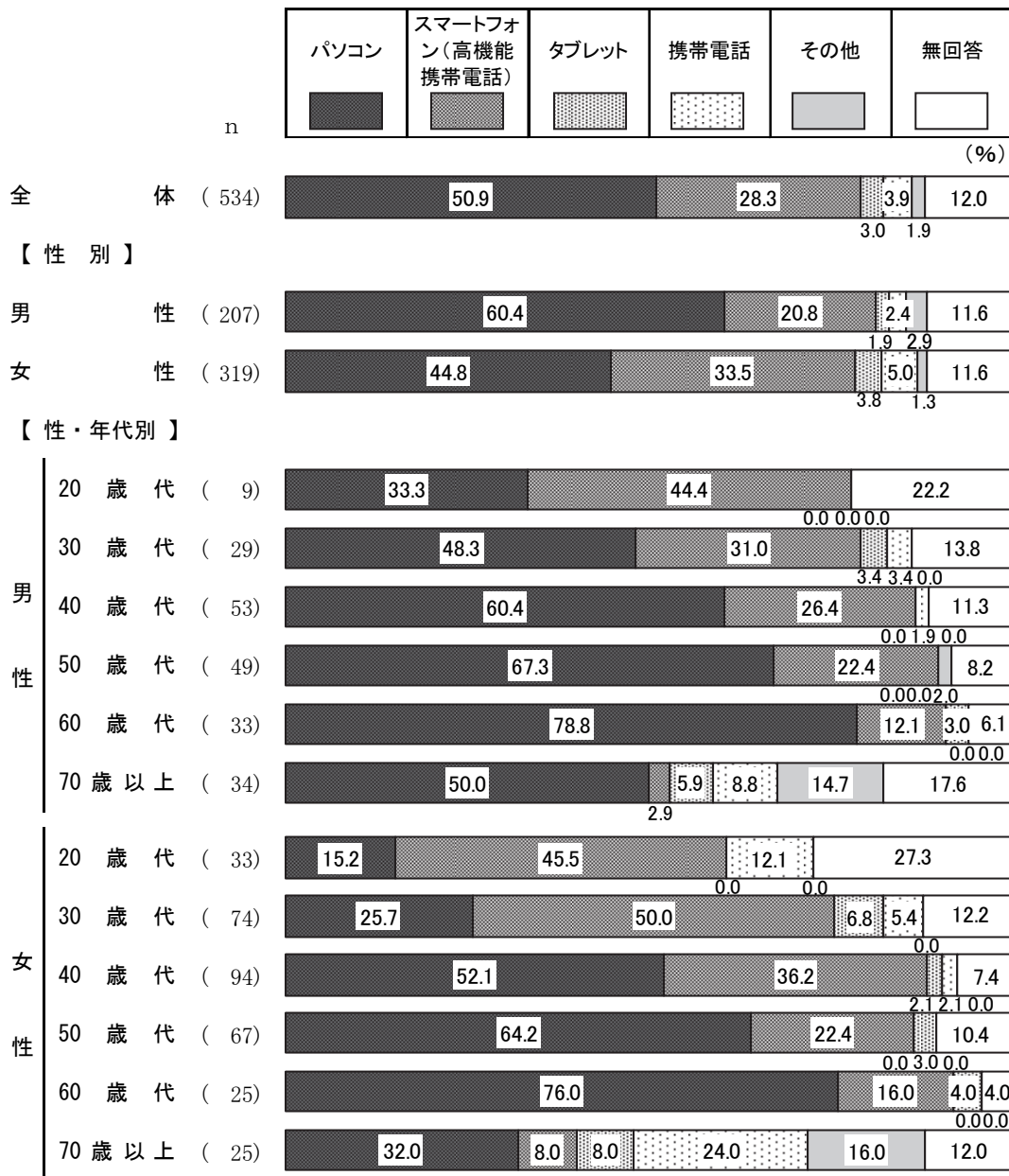
『区ホームページ』を「よく見ている」または「必要に応じて見ている」と答えた方 (534人) に、閲覧する際に、主に利用している機器を聞いたところ、「パソコン」(50.9%) が約5割で最も多く、次いで「スマートフォン (高機能携帯電話)」(28.3%) となっている。(図1-13-11)

図1-13-12 『区ホームページ』を閲覧するときに利用する機器－過年度比較



過去の調査と比較すると、「スマートフォン (高機能携帯電話)」は8.7ポイント、「パソコン」は1.6ポイント、それぞれ前回調査 (平成27年度) から増加している。(図1-13-12)

図 1-13-13 『区ホームページ』 を閲覧するときを利用する機器－性別、性・年代別



性別にみると、「パソコン」は男性の方が15.6ポイント高く約6割となっており、「スマートフォン(高性能携帯電話)」は女性の方が12.7ポイント高く3割を超えている。

性・年代別にみると、「パソコン」は男性60歳代で8割近く、男性50歳代で7割近くと多くなっている。「スマートフォン(高性能携帯電話)」は女性30歳代で5割、女性20歳代で4割台半ばと多くなっている。(図1-13-13)

(14) 『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』の認知度

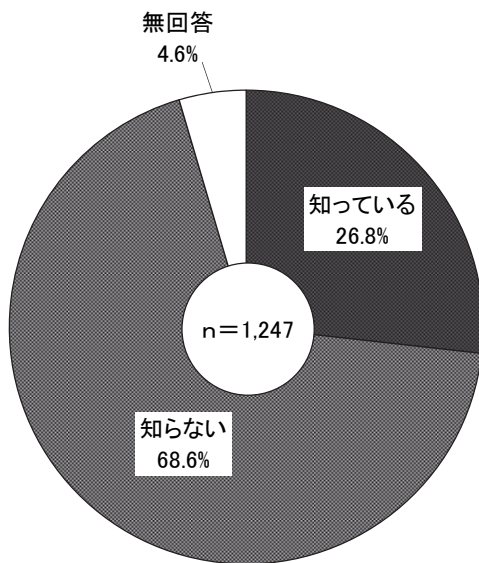
◇「知っている」人が2割台半ば、「知らない」人は7割近く

問17 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を知っていますか。(○は1つ)

※練馬区情報番組『ねりまほっとライン』は、ケーブルテレビJ：COM東京（デジタル：11チャンネル）で毎日放映しています。区の事業やできごとなどを紹介し、区民のみなさまに、区政に関心を持っていただくことを目的としています。

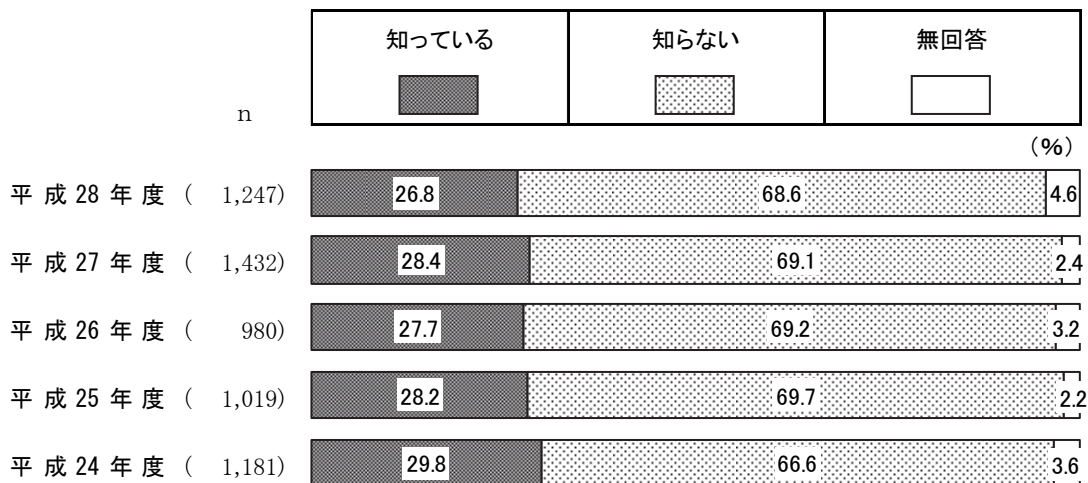
※放送時間は、毎日午前9時、正午、午後8時の3回です。(1回15分)

図1-14-1 『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』の認知度



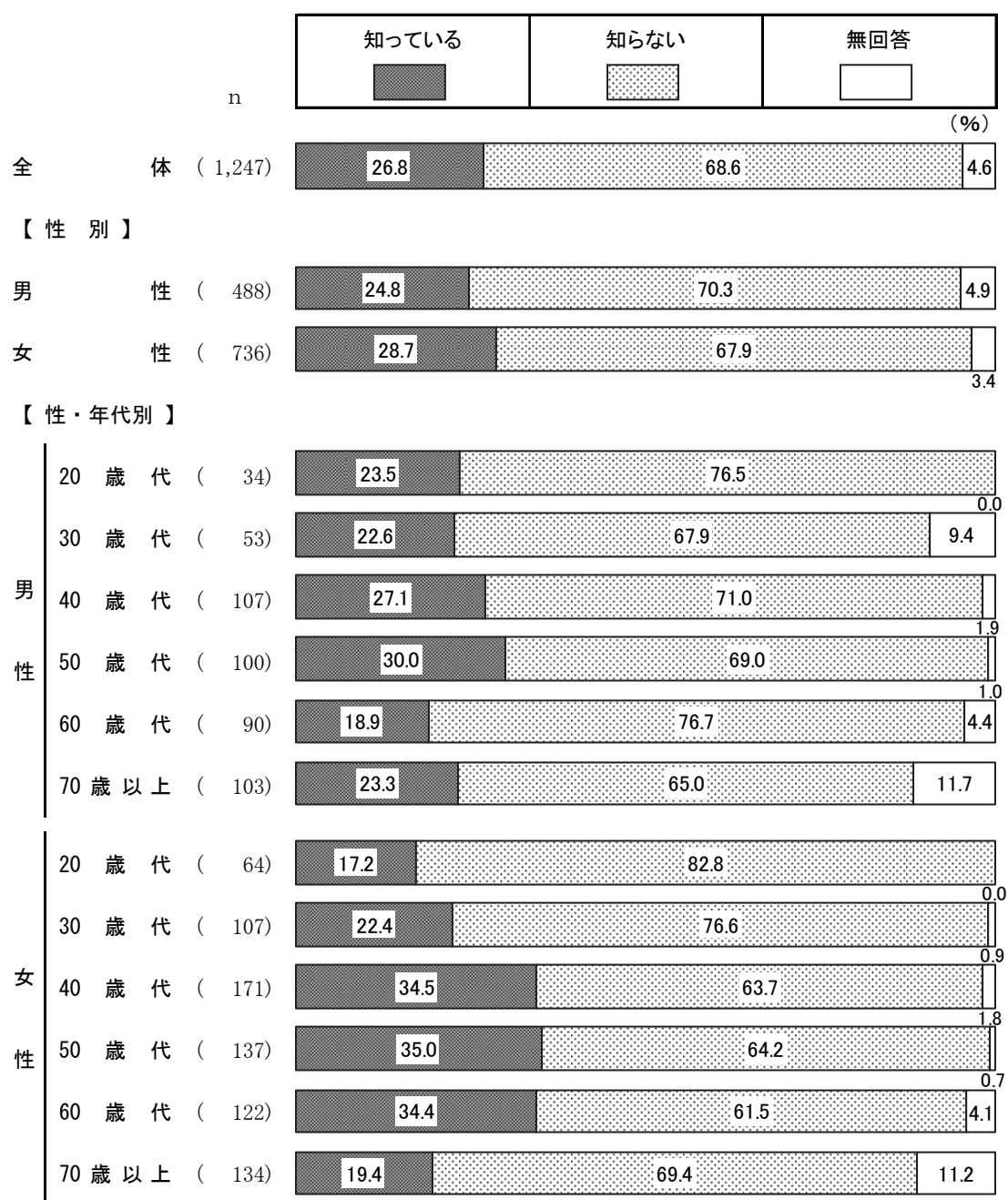
『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』を知っているか聞いたところ、「知っている」(26.8%)が2割台半ばとなっている。一方、「知らない」(68.6%)は7割近くとなっている。(図1-14-1)

図1-14-2 『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』の認知度一過年度比較



過去の調査と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。(図1-14-2)

図 1-14-3 『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』の認知度—性別、性・年代別



性別にみると、「知っている」は女性の方が3.9ポイント高く、3割近くとなっている。

性・年代別にみると、「知っている」は女性40歳代から60歳代で3割台半ばと多くなっている。「知らない」は女性の20歳代で8割を超え多くなっている。(図1-14-3)

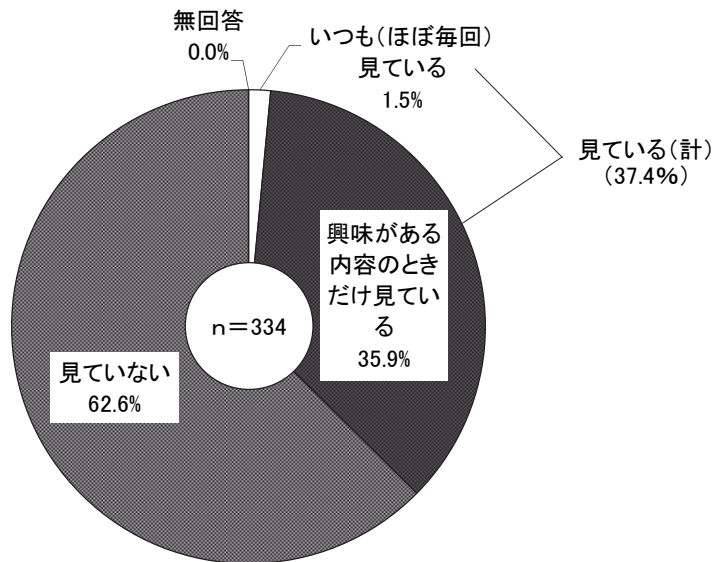
(14-1) 『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』の視聴度

◇『見ている』が4割近く、「見ていない」は6割を超える

(問17で「1 知っている」と答えた方へ)

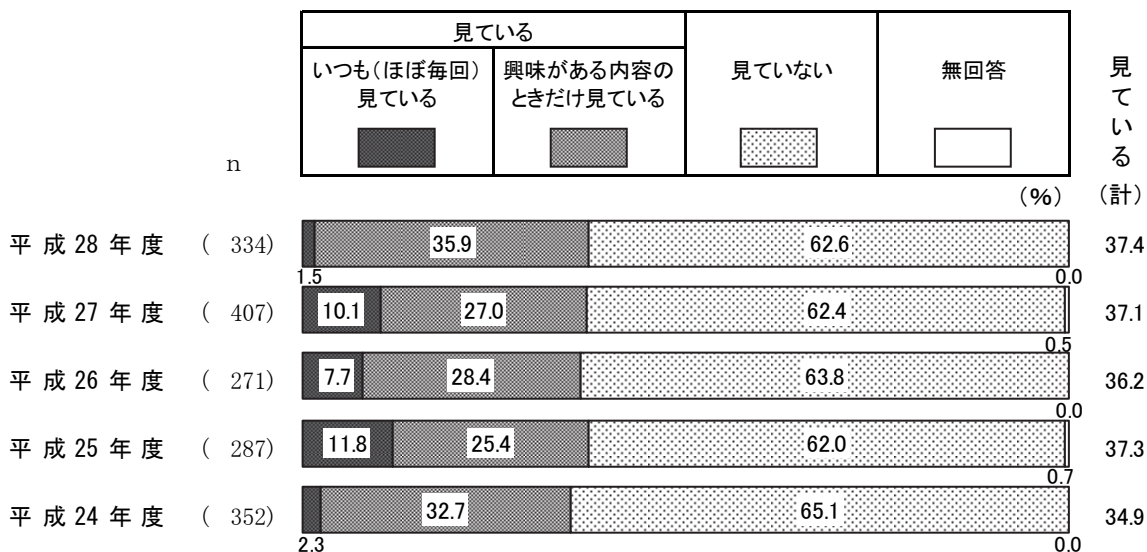
問17-1 あなたは、練馬区情報番組『ねりまほっとライン』を見ていますか。(○は1つ)

図1-14-4 『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』の視聴度



『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』を知っていると答えた方(334人)に、番組の視聴度を聞いたところ、「いつも(ほぼ毎回)見ている」(1.5%)は1割未満で、これに「興味がある内容のときだけ見ている」(35.9%)を合わせた『見ている』(37.4%)が4割近くとなっている。一方、「見ていない」(62.6%)は6割を超えている。(図1-14-4)

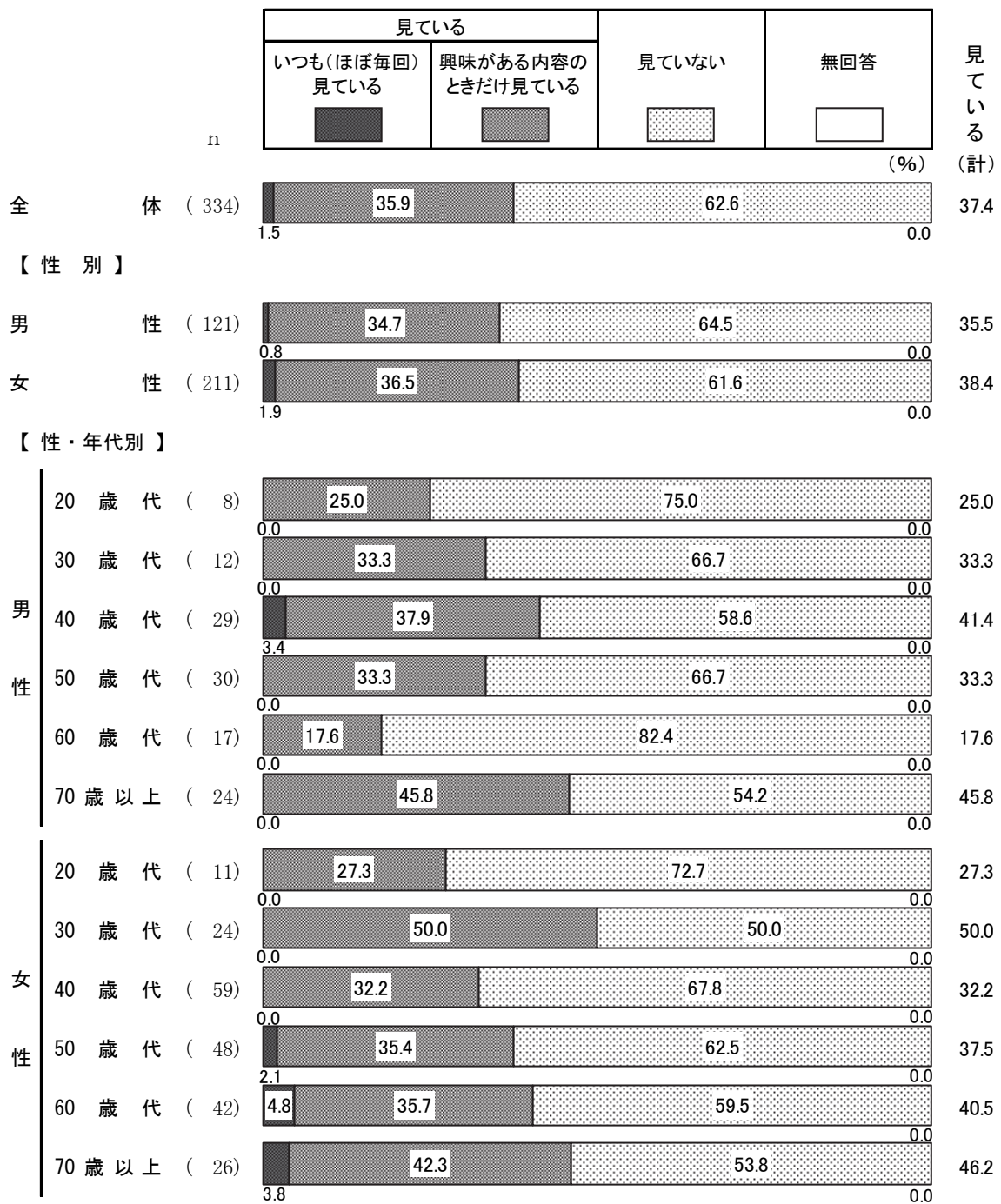
図1-14-5 『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』の視聴度—過年度比較



(注)「見ている」は平成24年度以前は「詳しく見ている」としていた。

過去の調査と比較すると、「興味がある内容のときだけ見ている」は前回調査(平成27年度)から8.9ポイント増加し、「いつも(ほぼ毎回)見ている」は8.6ポイント減少している。(図1-14-5)

図 1-14-6 『練馬区情報番組 ねりまほっとライン』の視聴度—性別、性・年代別



性別にみると、『見ている』は女性の方が2.9ポイント高く、4割近くとなっている。

性・年代別にみると、『見ている』は女性60歳代で約4割と多くなっている。(図1-14-6)

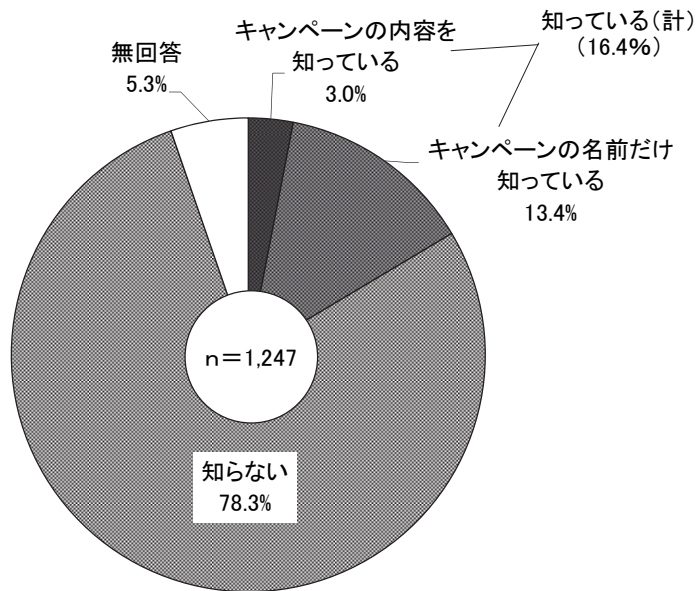
(15) 『よりどりみどり練馬』の認知度

◇『知っている』人は1割台半ば、「知らない」人は8割近く

問18 あなたは、『よりどりみどり練馬』という広報キャンペーンを知っていますか。

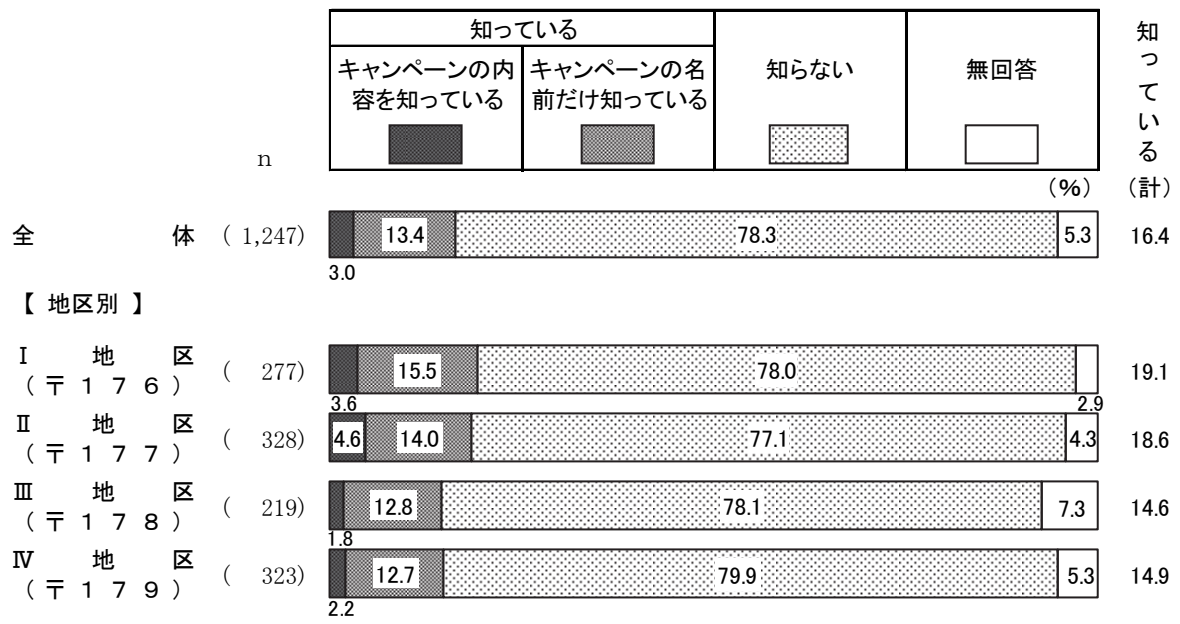
(○は1つ)

図1-15-1 『よりどりみどり練馬』の認知度



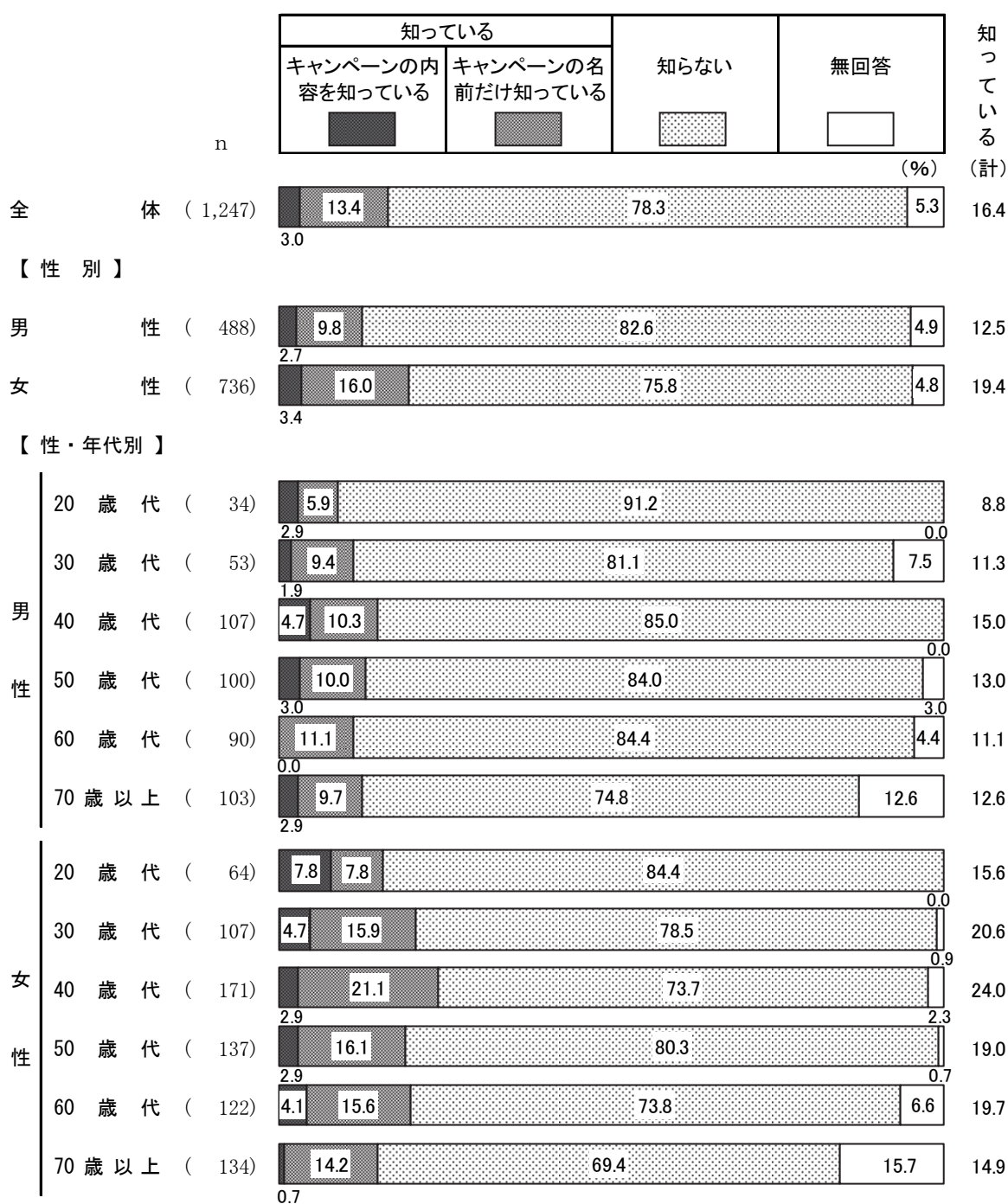
『よりどりみどり練馬』の認知度について聞いたところ、「キャンペーンの内容を知っている」(3.0%)と「キャンペーンの名前だけ知っている」(13.4%)を合わせた『知っている』(16.4%)は1割台半ばとなっている。一方、「知らない」(78.3%)は8割近くとなっている。(図1-15-1)

図 1-15-2 『よりどりみどり練馬』の認知度—地区別



地区別にみると、『知っている』は全地区で1割台となっている。一方、「知らない」は全地域で7割台後半と多くなっている。(図 1-15-2)

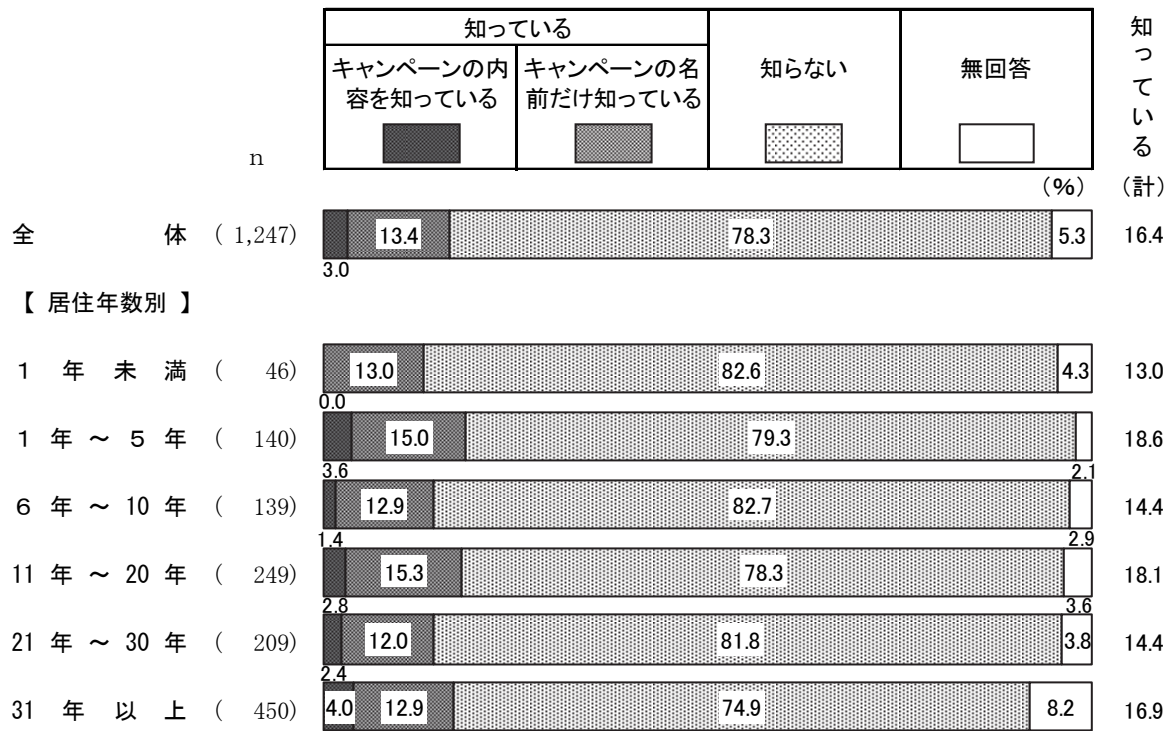
図 1-15-3 『よりどりみどり練馬』の認知度—性別、性・年代別



性別にみると、『知っている』は女性の方が6.9ポイント高く、約2割となっている。

性・年代別にみると、『知っている』は女性30歳代・40歳代で2割台前半と他に比べ割合が高くなっている。一方、「知らない」は男性の20歳代で9割を超えて多くなっている。(図1-15-3)

図1-15-4 『よりどりみどり練馬』の認知度－居住年数別



居住年数別にみると、『知っている』はいずれも1割台となっている。一方、「知らない」はいずれも7割以上と多くなっている。(図1-15-4)

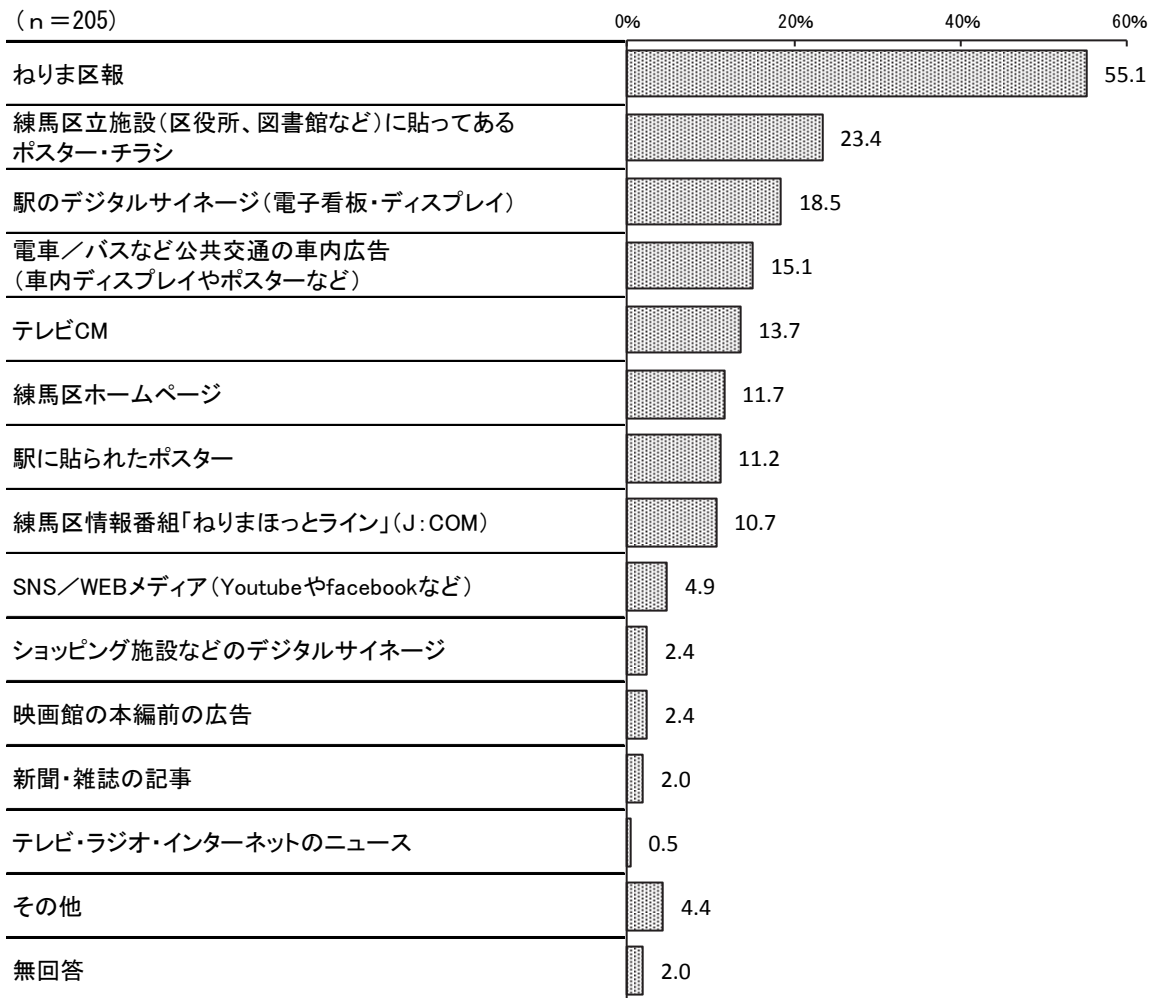
(15-1) 『よりどりみどり練馬』を知ったきっかけ

◇「ねりま区報」が5割台半ば

(問18で「1 キャンペーンの内容を知っている」または「2 キャンペーンの名前だけ知っている」と答えた方へ)

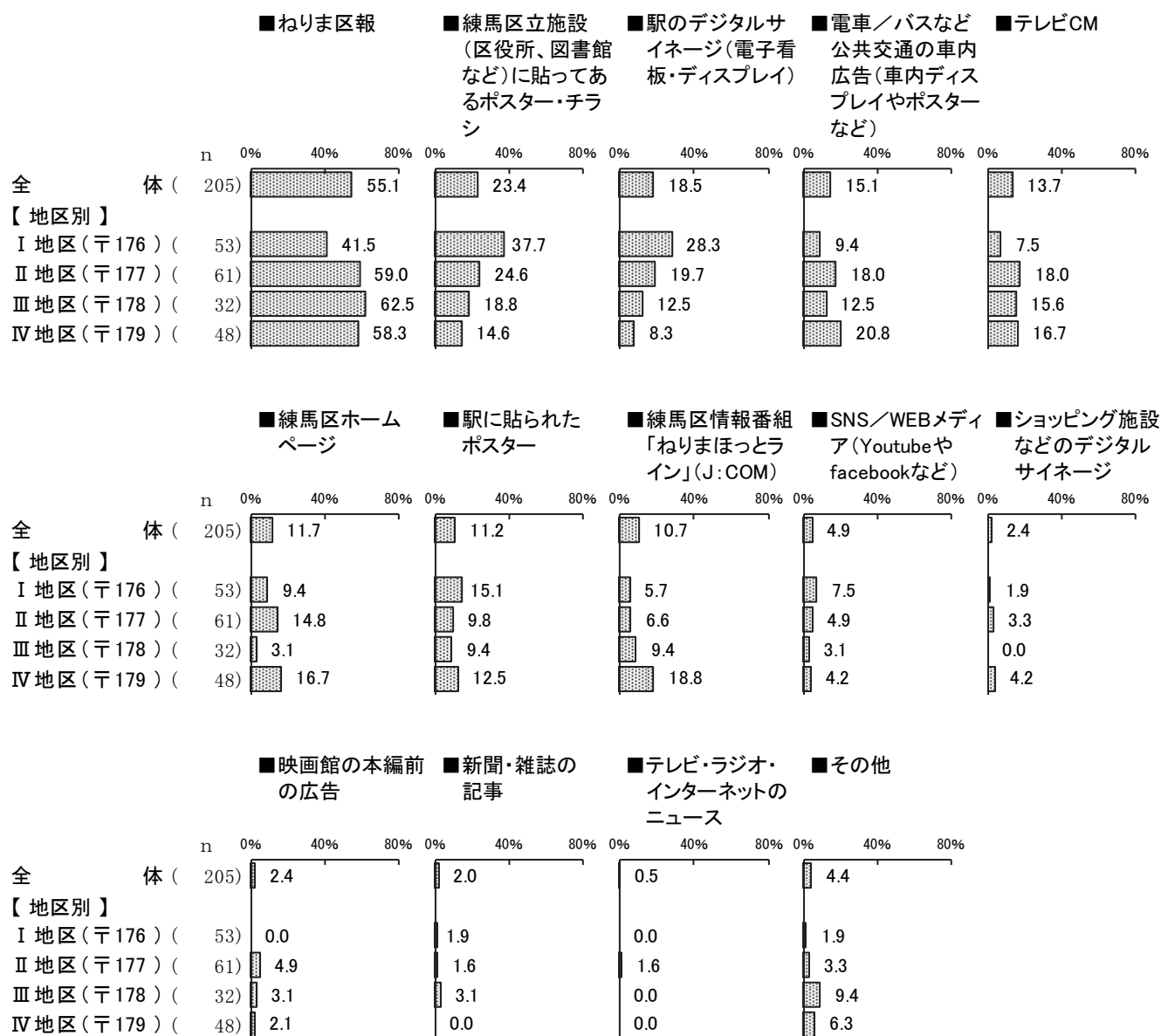
問18-1 『よりどりみどり練馬』をどちらで知りましたか。(〇はいくつでも)

図1-15-5 『よりどりみどり練馬』を知ったきっかけ



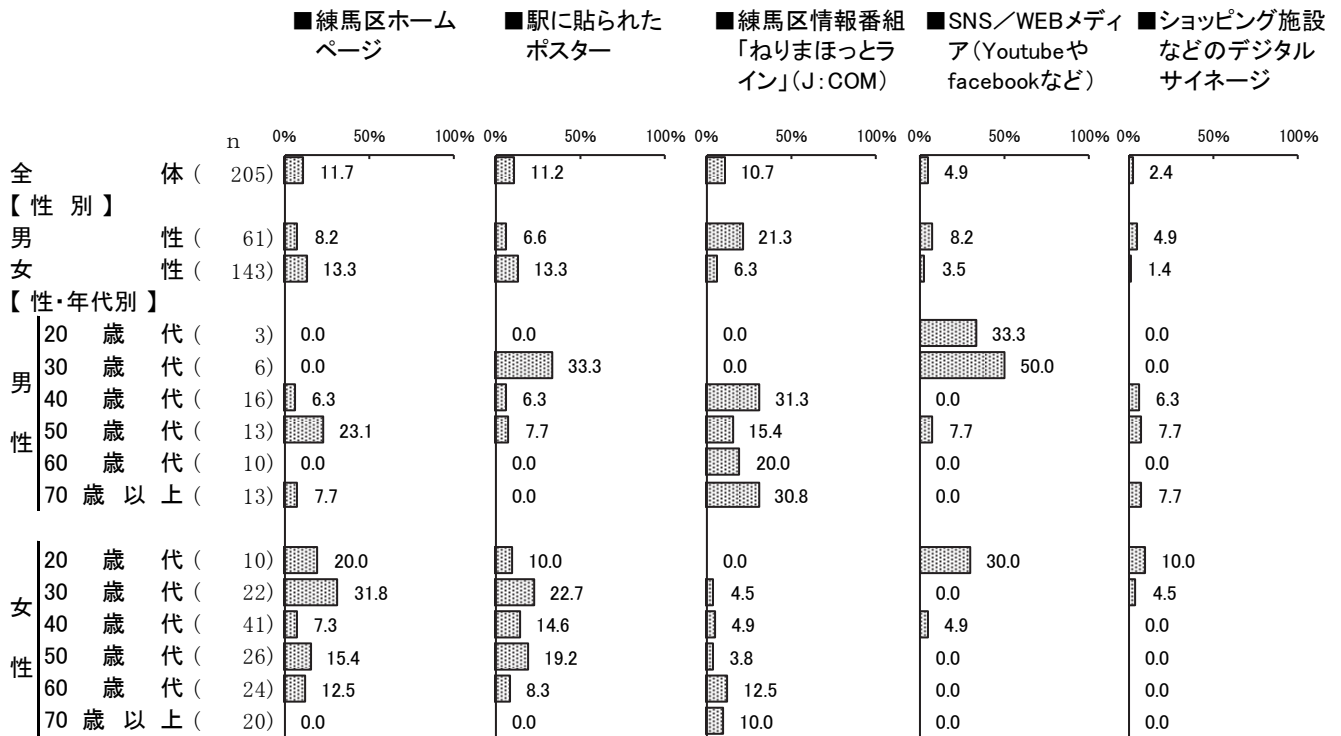
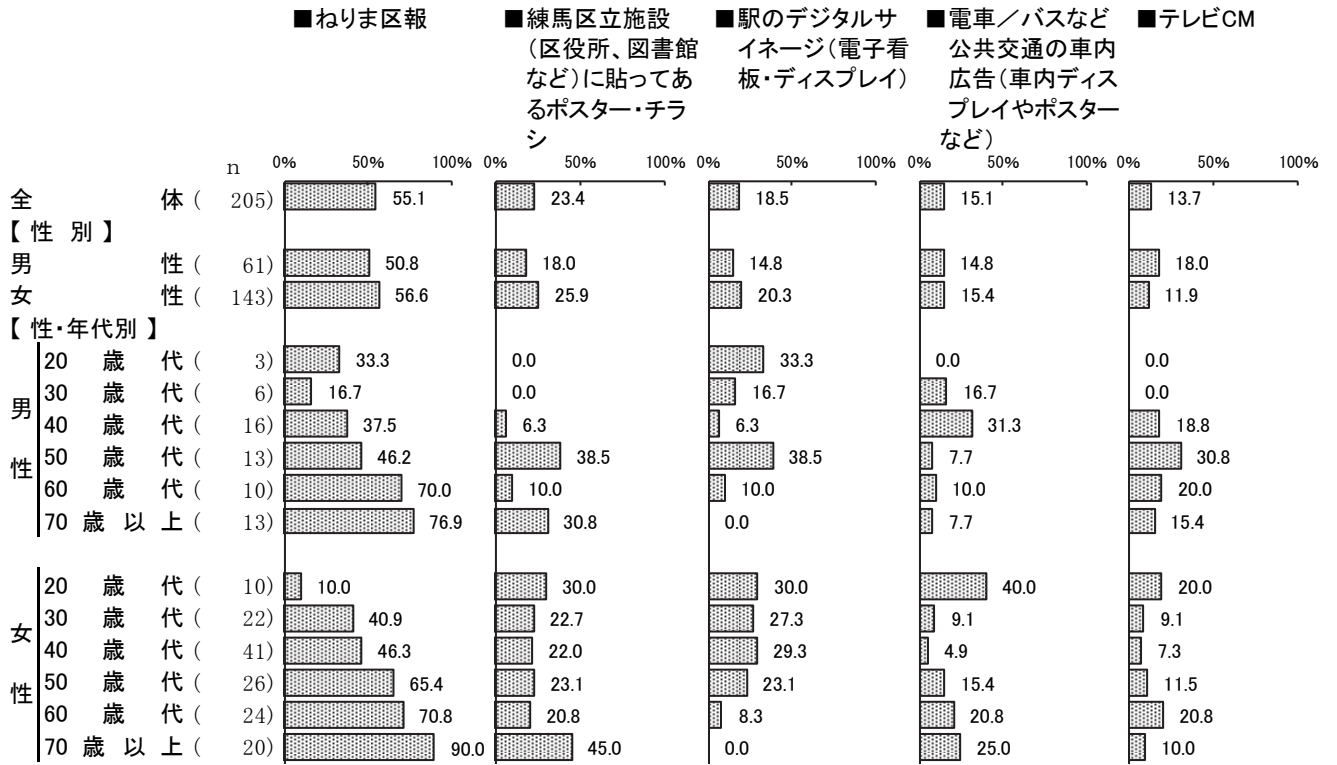
『よりどりみどり練馬』の内容または名前を知っていると答えた方(205人)に、知ったきっかけを聞いたところ、「ねりま区報」(55.1%)が5割台半ばで最も多く、次いで「練馬区立施設(区役所、図書館など)に貼ってあるポスター・チラシ」(23.4%)、「駅のデジタルサイネージ(電子看板・ディスプレイ)」(18.5%)、「電車／バスなど公共交通の車内広告(車内ディスプレイやポスターなど)」(15.1%)などの順になっている。(図1-15-5)

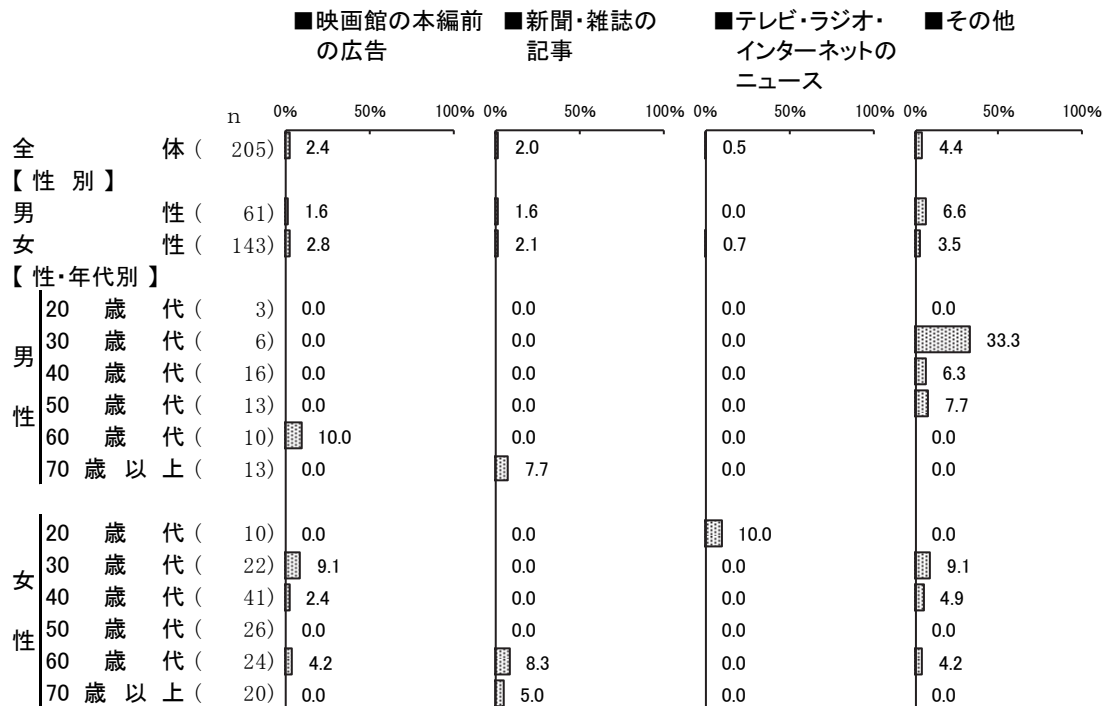
図1-15-6 『よりどりみどり練馬』を知ったきっかけ—地区別



地区別にみると、「練馬区報」はIII地区(〒178)で6割を超え、II地区とIV地区で5割代後半と多くなっている。「練馬区立施設(区役所、図書館など)に貼ってあるポスター・チラシ」はI地区で4割近く、「駅のデジタルサイネージ(電子看板・ディスプレイ)」はI地区で3割近くと他に比べ割合が高くなっている。(図1-15-6)

図1-15-7 『よりどりみどり練馬』を知ったきっかけ—性別、性・年代別

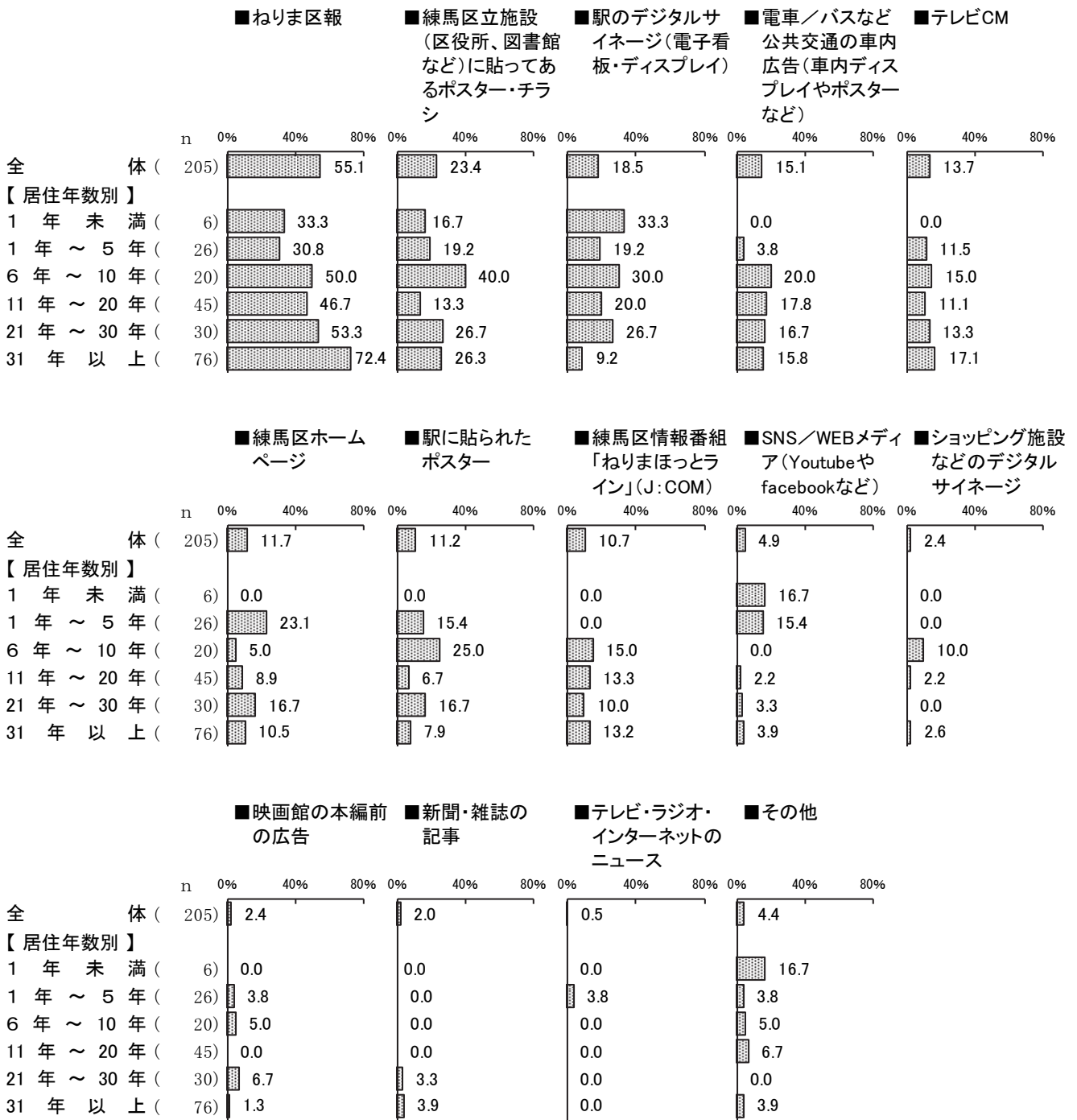




性別にみると、「練馬区報」は女性の方が5.8ポイント高く5割台半ば、「練馬区立施設（区役所、図書館など）に貼ってあるポスター・チラシ」は女性の方が7.9ポイント高く2割台半ばとなっている。また、「練馬区情報番組『ねりまほっとライン』（J:COM）」は男性の方が15.0ポイント高く2割を超えている。

性・年代別にみると、「練馬区報」は男女ともに年代が上がるほど割合が高くなる傾向にあり、女性70歳以上では9割となっている。「SNS/WEBメディア（Youtubeやfacebookなど）」は男性30歳代で5割、「練馬区立施設（区役所、図書館など）に貼ってあるポスター・チラシ」は女性70歳以上で4割台半ば、「電車/バスなど公共交通の車内広告（車内ディスプレイやポスターなど）」は女性20歳代で4割と多くなっている。（図1-15-7）

図 1-15-8 『よどりみどり練馬』を知ったきっかけ—居住年数別



居住年数別にみると、「練馬区報」はいずれも3割以上と多くなっている。「練馬区立施設(区役所、図書館など)に貼ってあるポスター・チラシ」は6年～10年で4割、「駅のデジタルサイネージ(電子看板・ディスプレイ)」は1年未満と6年～10年で3割前半となっている。(図1-15-8)